

豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
報告書

平成29年3月

豊島区

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
第 2 章 調査結果の詳細	5
1. 基本属性	7
(1) 性別×年代	7
(2) 家族構成	9
(3) 居住地域	10
(4) 居住年数	11
(5) 住居の種類	12
(6) 世帯年収	13
2. 暮らし・健康の状況	14
(1) 主観的健康感	15
(2) 運動や体操	18
(3) 運動や体操の頻度	21
(4) 育児や介護	22
(5) 育児や介護の頻度	23
(6) 仕事	24
(7) 離職理由	26
(8) 暮らしの状況	27
(9) 暮らしの負担内容	30
3. 住民同士の支え合いや助け合い	33
(1) 近所付き合いの程度	34
(2) 付き合い人数	38
(3) 相談相手人数	40
(4) 支え合いや助け合いの必要性	42
(5) 支え合いや助け合いに必要な取り組み	44
(6) 支え合いや助け合いが必要ない理由	46
(7) 手助けしていること	47
4. 地域での活動	51
(1) 地域活動への参加経験	52
(2) 地域活動に参加しない理由	55
(3) 地域活動への参加意向	57
(4) 参加したい地域活動	59

(5) 地域活動への参加に必要なこと	63
5. 福祉のまちづくり	66
(1) 外出頻度	67
(2) 外出時に不便に思うこと	69
(3) まちのバリアフリーの満足度	73
(4) バリアフリー化を進めてほしい施設	75
(5) 外出先で困っているのを見かけた経験	78
(6) 困っていたこと	80
(7) その時にしたこと	82
(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み	84
6. 福祉・健康についての情報提供や相談	85
(1) 情報の入手先	86
(2) 区の相談窓口の満足度	89
(3) 各種相談窓口の周知度、相談経験、相談の意向	91
(4) 「社会福祉協議会」の活動内容の認知度	97
(5) 「民生委員・児童委員」の認知度	99
(6) 認知症への関心度	101
(7) 認知症の相談先	102
(8) 地域の保健福祉の推進で力をいれてほしいこと	104
(9) 意見・要望等（自由回答）	107
資料編	113
1. クロス集計表	115
2. 調査票	187

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2. 調査の種類

調査名	調査対象
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	豊島区内在住の20歳以上の区民3,000名

3. 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査期間：平成28年10月12日（水）～10月28日（金）

<回収状況>

調査名	発送数	回収数	回収率
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	3,000件	922件	30.7%

4. 調査項目

調査名	調査項目
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	1. 基本属性 2. 暮らし・健康の状況 3. 住民同士の支え合いや助け合い 4. 地域での活動 5. 福祉のまちづくり 6. 福祉・健康についての情報提供や相談

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答数である。
- ・百分率(%)の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答(1つだけ選ぶ問)においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答(2つ以上選んでよい問)においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・経年比較として掲載したものは、豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査のうち、前回調査とは「平成25年度の調査」、前々回調査とは「平成22年度の調査」を示す。
- ・クロス集計で用いる地区区分は、以下の8区分とした。

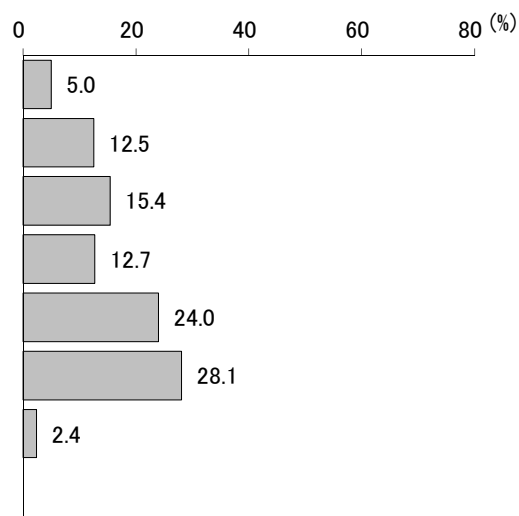
	8区分	住所
東部	東部地区1	駒込1～7丁目、巣鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
	東部地区2	巣鴨3～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目
中央	中央地区1	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目
	中央地区2	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目
	中央地区3	西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
	中央地区4	池袋1・2・4丁目、池袋本町1～4丁目
西部	西部地区1	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目
	西部地区2	南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

第2章 調査結果の詳細

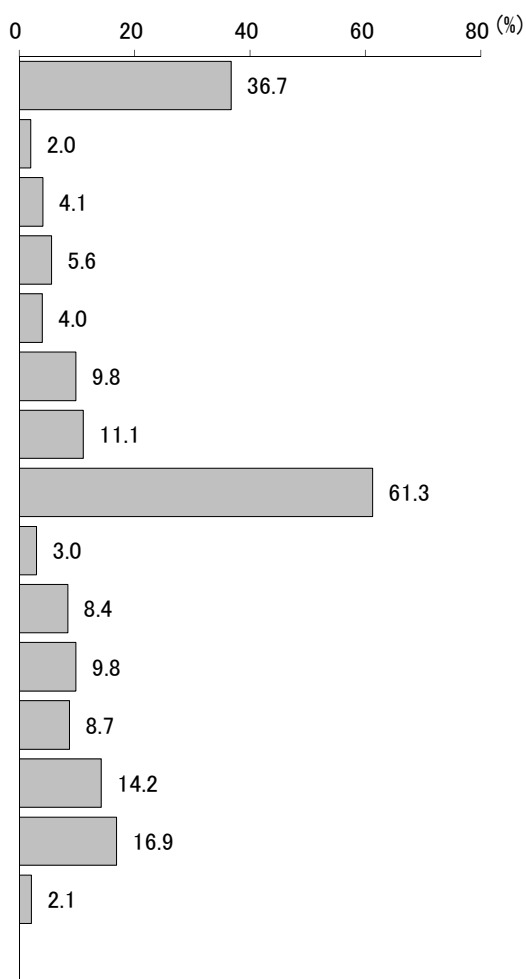
1. 基本属性

(1) 性別×年代

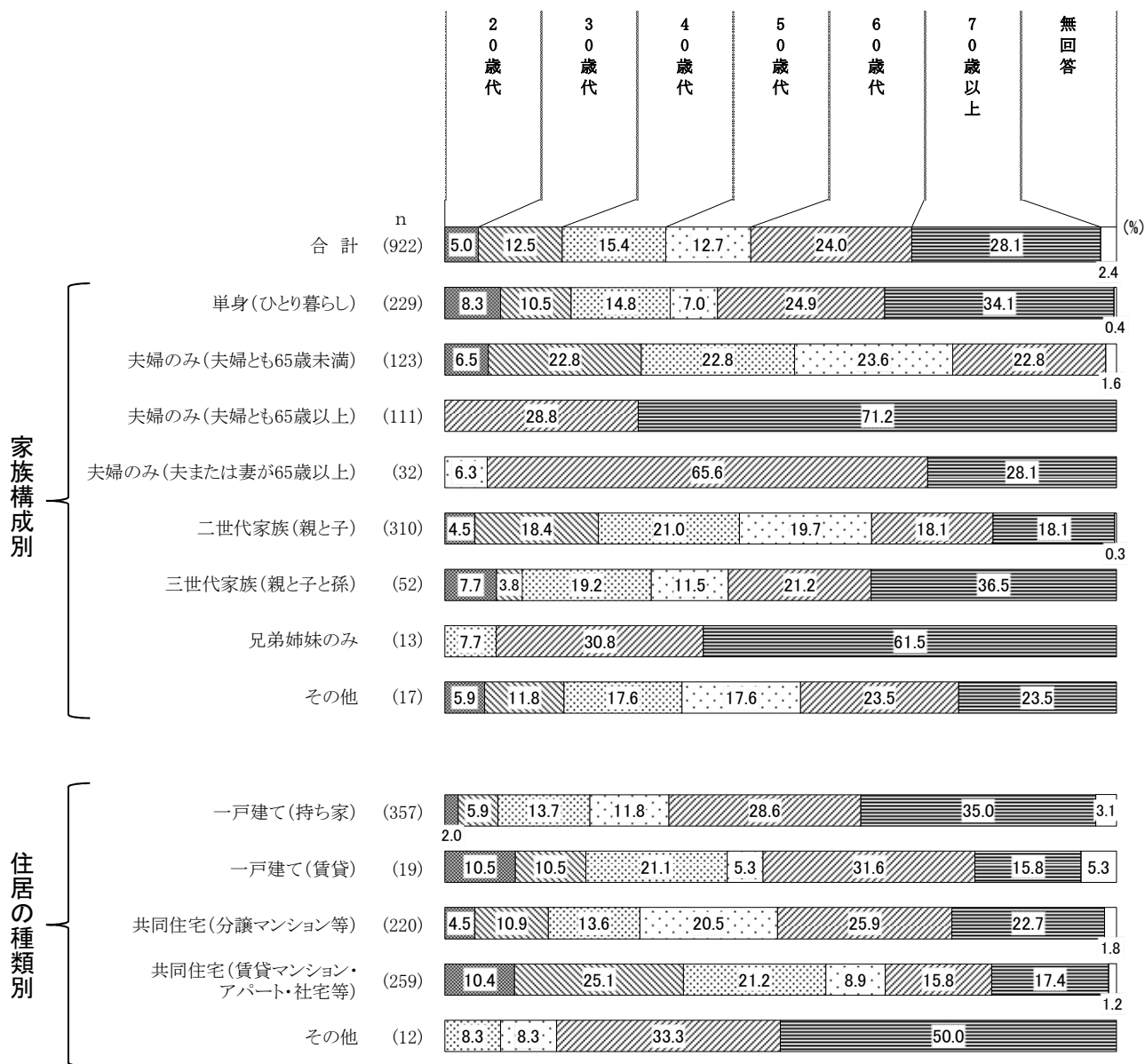
	基数	構成比
20歳代	46	5.0%
30歳代	115	12.5%
40歳代	142	15.4%
50歳代	117	12.7%
60歳代	221	24.0%
70歳以上	259	28.1%
無回答	22	2.4%
全体	922	100.0%



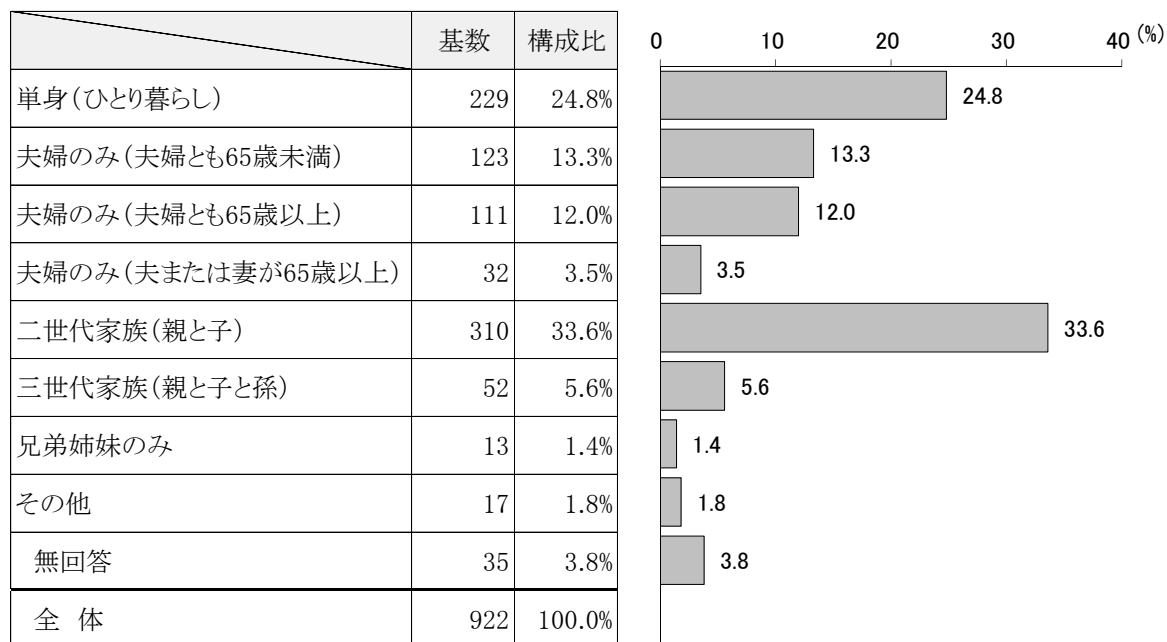
	基数	構成比
男性計	338	36.7%
20歳代	18	2.0%
30歳代	38	4.1%
40歳代	52	5.6%
50歳代	37	4.0%
60歳代	90	9.8%
70歳以上	102	11.1%
女性計	565	61.3%
20歳代	28	3.0%
30歳代	77	8.4%
40歳代	90	9.8%
50歳代	80	8.7%
60歳代	131	14.2%
70歳以上	156	16.9%
無回答	19	2.1%
全体	922	100.0%



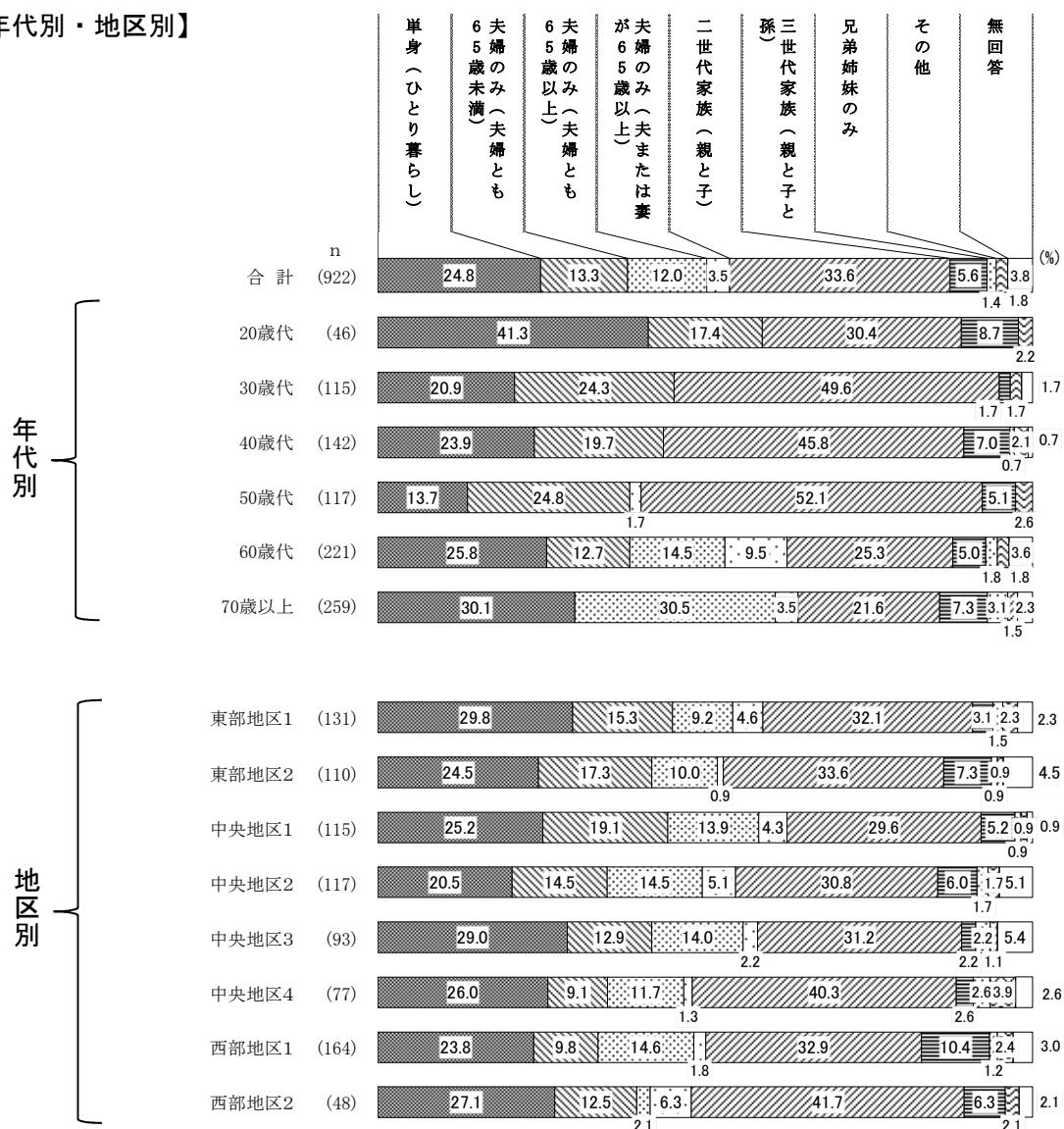
【家族構成別・住居の種類別】



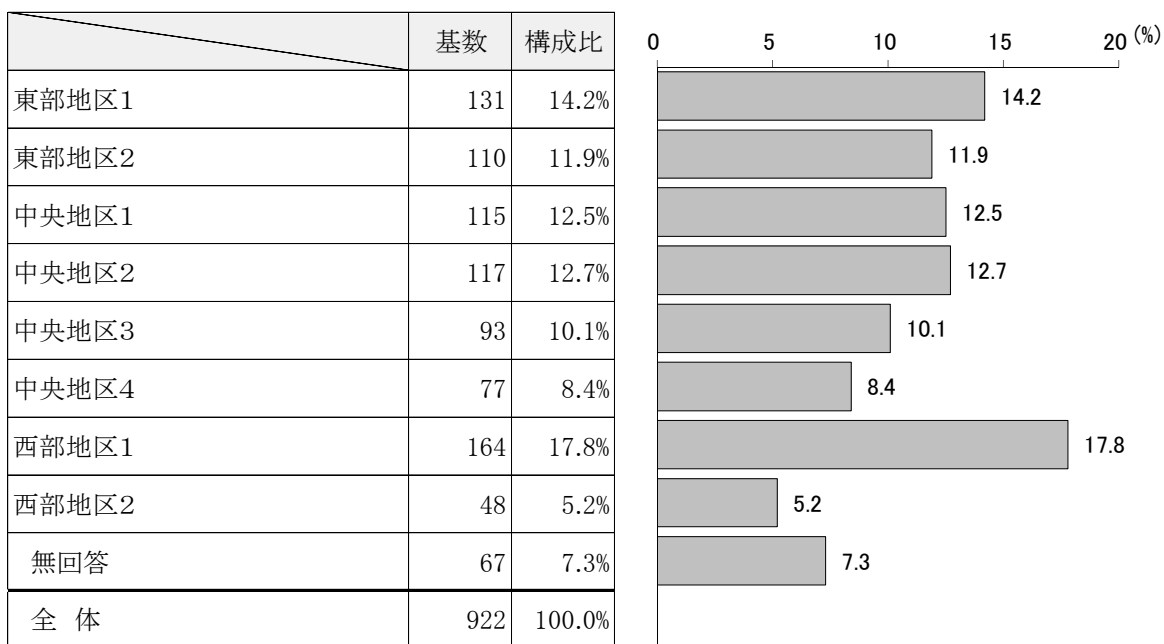
(2) 家族構成



【年代別・地区別】

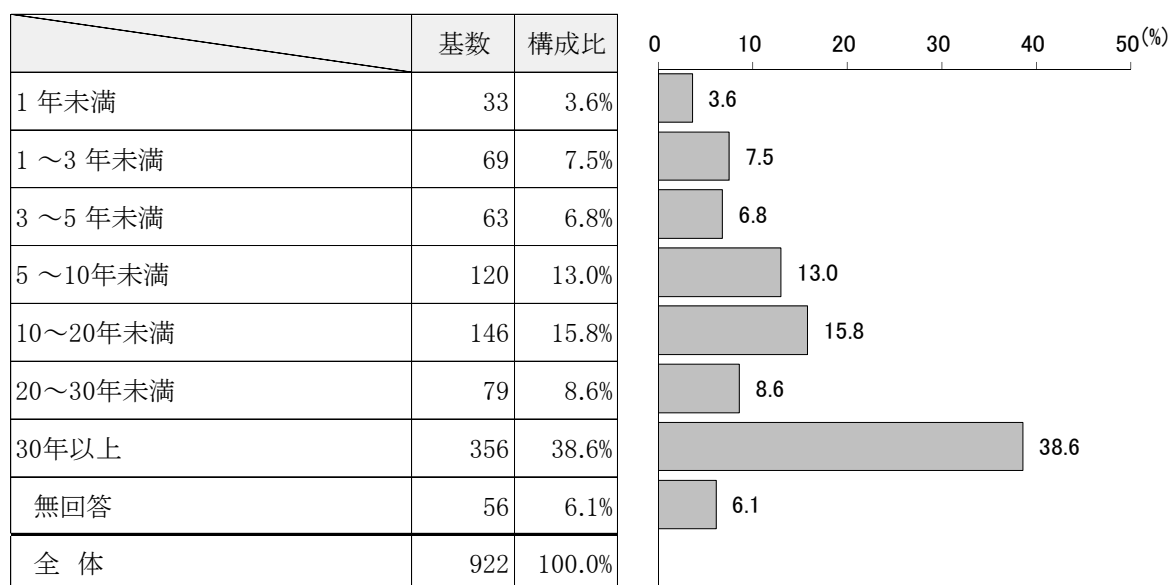


(3) 居住地域



	8区分	住所
東部	東部地区1	駒込1～7丁目、巣鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
	東部地区2	巣鴨3～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目
中央	中央地区1	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目
	中央地区2	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目
	中央地区3	西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
	中央地区4	池袋1・2・4丁目、池袋本町1～4丁目
西部	西部地区1	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目
	西部地区2	南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

(4) 居住年数



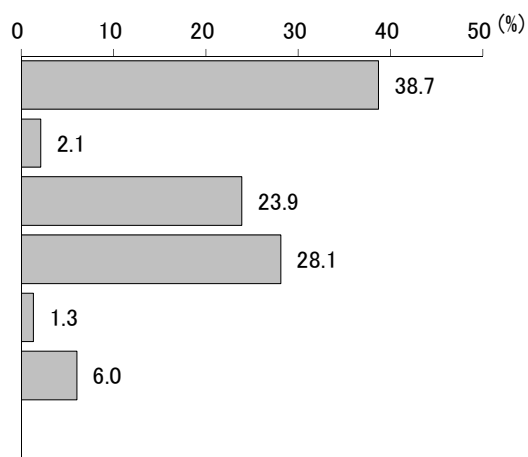
【地区別】(単位：%)

		調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答
合計		922	3.6	7.5	6.8	13.0	15.8	8.6	38.6	6.1
地区別	東部地区1	131	5.3	6.9	9.2	18.3	17.6	10.7	30.5	1.5
	東部地区2	110	5.5	13.6	7.3	13.6	18.2	5.5	36.4	-
	中央地区1	115	2.6	8.7	7.0	14.8	12.2	10.4	44.3	-
	中央地区2	117	2.6	8.5	11.1	12.8	23.1	8.5	33.3	-
	中央地区3	93	3.2	7.5	6.5	8.6	20.4	6.5	46.2	1.1
	中央地区4	77	1.3	1.3	6.5	16.9	14.3	9.1	50.6	-
	西部地区1	164	5.5	8.5	5.5	15.2	11.6	10.4	43.3	-
	西部地区2	48	2.1	6.3	4.2	2.1	25.0	10.4	50.0	-
住居の種類別	一戸建て(持ち家)	357	1.1	2	1.1	4.5	13.2	9.5	68.1	0.6
	一戸建て(賃貸)	19	5.3	10.5	15.8	15.8	21.1	-	31.6	-
	共同住宅(分譲マンション等)	220	2.7	8.2	11.8	18.6	28.6	10.5	19.5	-
	共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	259	8.5	15.8	11.6	23.2	12.0	7.7	20.8	0.4
	その他	12	-	8.3	-	-	8.3	8.3	75.0	-

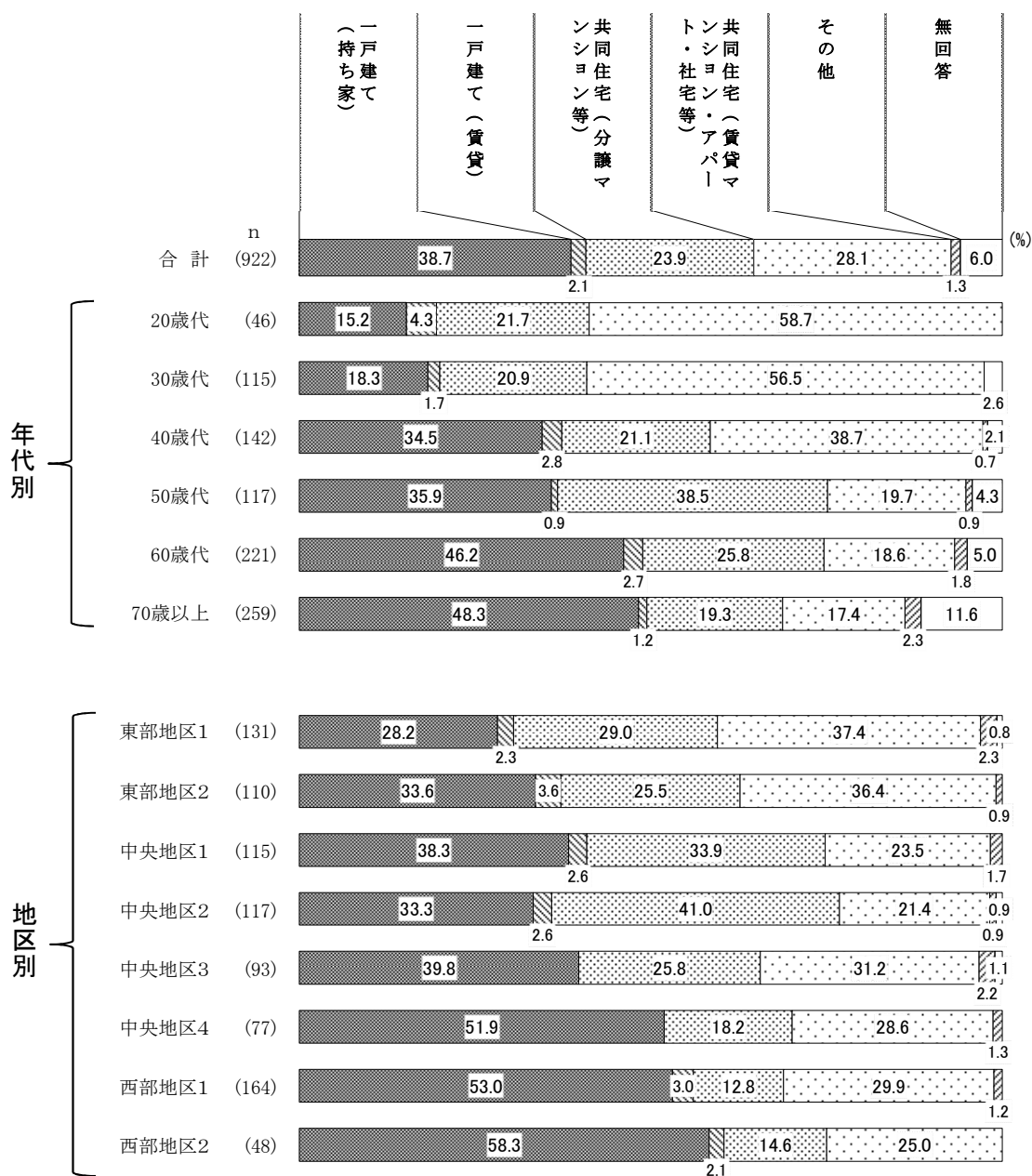
※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

(5) 住居の種類

	基数	構成比
一戸建て(持ち家)	357	38.7%
一戸建て(賃貸)	19	2.1%
共同住宅(分譲マンション等)	220	23.9%
共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	259	28.1%
その他	12	1.3%
無回答	55	6.0%
全体	922	100.0%

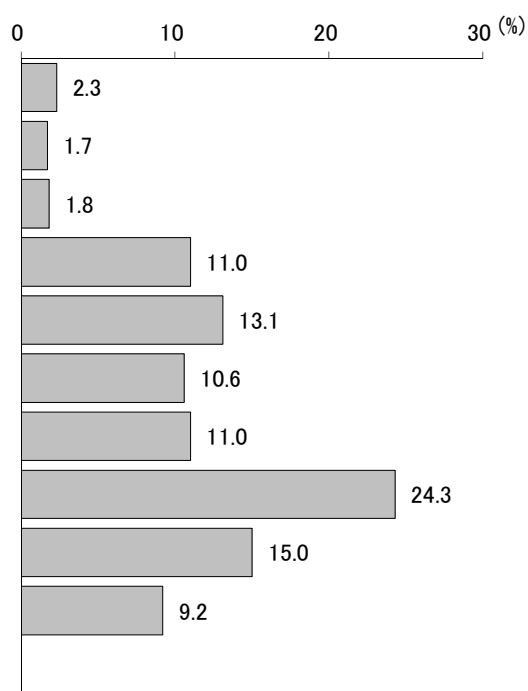


【年代別・地区別】



(6) 世帯年収

	基数	構成比
50万円未満	21	2.3%
50～80万円未満	16	1.7%
80～100万円未満	17	1.8%
100～200万円未満	101	11.0%
200～300万円未満	121	13.1%
300～400万円未満	98	10.6%
400～500万円未満	101	11.0%
500～1,000万円未満	224	24.3%
1,000万円以上	138	15.0%
無回答	85	9.2%
全体	922	100.0%



【家族構成別】(単位：%)

		調査数	50万円未満	85万円未満	180万円未満	210万円未満	320万円未満	430万円未満	540万円未満	150万円未満	1000万円以上	無回答
合計		922	2.3	1.7	1.8	11.0	13.1	10.6	11.0	24.3	15.0	9.2
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	229	5.2	4.4	5.2	23.1	17.0	10.5	9.2	14.8	2.2	8.3
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	123	-	0.8	-	2.4	4.1	8.1	9.8	34.1	35.8	4.9
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	111	1.8	0.9	0.9	12.6	27.0	16.2	16.2	9.0	6.3	9.0
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	32	-	3.1	3.1	6.3	15.6	18.8	15.6	12.5	12.5	12.5
	二世世代家族(親と子)	310	1.0	0.3	1.0	6.1	9.0	9.7	10.0	31.6	21.9	9.4
	三世世代家族(親と子と孫)	52	-	-	-	7.7	9.6	9.6	13.5	32.7	17.3	9.6
	兄弟姉妹のみ	13	-	15.4	-	15.4	30.8	-	15.4	15.4	-	7.7
	その他	17	-	-	-	17.6	11.8	11.8	11.8	35.3	-	11.8

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

2. くらし・健康の状況

くらしや健康の状況を把握し、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【健康状況】

- ・「主観的健康感（問1）」について、「健康である」と感じている人は、年代別では30歳代、家族構成別では三世帯世帯でそれぞれ最も多くなっています。（P16参照）
- ・「運動や体操（問2）」について、7割以上の方が何か運動や体操など体を動かしており、体を動かしたほうが良いと思っている層も加えるとほぼ全員の方が運動意識を持っています。「運動や体操をしている」との回答は、年代別では50歳代以上、家族構成別では夫婦のみ（いずれかが65歳以上）で最も多くなっています。（P18、P19参照）
- ・「運動や体操の頻度（問2-1）」について、運動や体操をしている方の約9割が、週1回以上の頻度で体を動かしています。（P21参照）

【くらし】

- ・「育児や介護（問3）」について、「育児のみをしている」との回答は、年代別では30歳代（40.0%）で最も多く、「介護のみをしている」は50歳代（20.5%）で最も多くなっています。「育児と介護の両方をしている」という、いわゆるダブルケアの回答は、最多が40歳代で3.5%となっています。（P22参照）
- ・「仕事（問4）」について、「仕事をしていたが、離職した」との回答は、男性の場合、70歳以上（9.8%）、女性の場合、30歳代（14.3%）でそれぞれ最も多くなっています。（P25参照）
- ・「くらしの状況（問5）」について、年代別では40歳代、世帯年収別では400万未満、家族構成別では単身（ひとり暮らし）でそれぞれ、「苦しい」が《ゆとりあり》を上回る結果となっています。（P28、P29参照）
- ・「くらしの負担内容（問6）」について、50歳代までは「収入が少ない」が最も多く、また、「自分や家族の健康状態」は40歳代以上で多くなってきています。また、30歳代では「育児」、50歳代では「介護」をあげる人も他の年代に比べて多くなっています。（P30参照）

■調査結果から見受けられる課題について

【運動習慣と主観的健康感について】

- ・主観的健康感、運動状況別でみると、運動や体操をしている人のほうが高くなっています。健康寿命の延命に向けても、運動習慣化の重要性がうかがえます。（P17参照）
- ・一方、主観的健康感に関わらず、ほとんどの方は運動や体操はした方がよいと回答しており、運動意識の高さがうかがえることから、運動習慣のきっかけづくりの重要性がうかがえます。（P17参照）

【くらしと主観的健康感について】

- ・主観的健康感、くらしの状況別でみると、「苦しい」と感じている人のほうが低くなっています。（P17参照）
- ・くらしの負担の大きいものとしては、年代別では年代が低くなるほど、「収入が少ない」との回答が増えています。一方、年代が高くなるほど、「自分や家族の健康状態」との回答が増えており、日常からの健康づくりの重要性がうかがえます。（P30参照）

(1) 主観的健康感

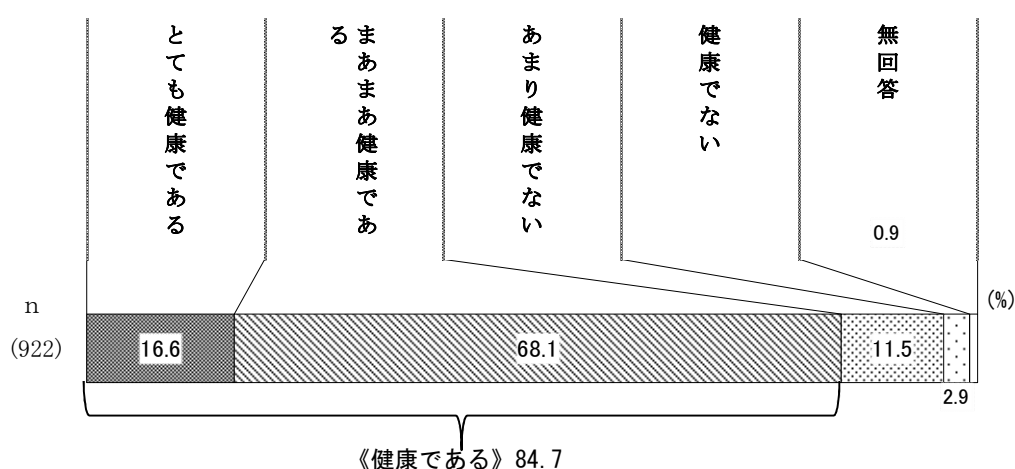
問1 普段、自分で健康だと思いますか。(〇は1つのみ)

主観的健康感について、「とても健康である」(16.6%)「まあまあ健康である」(68.1%)を合わせた《健康である》との回答は84.7%となっています。

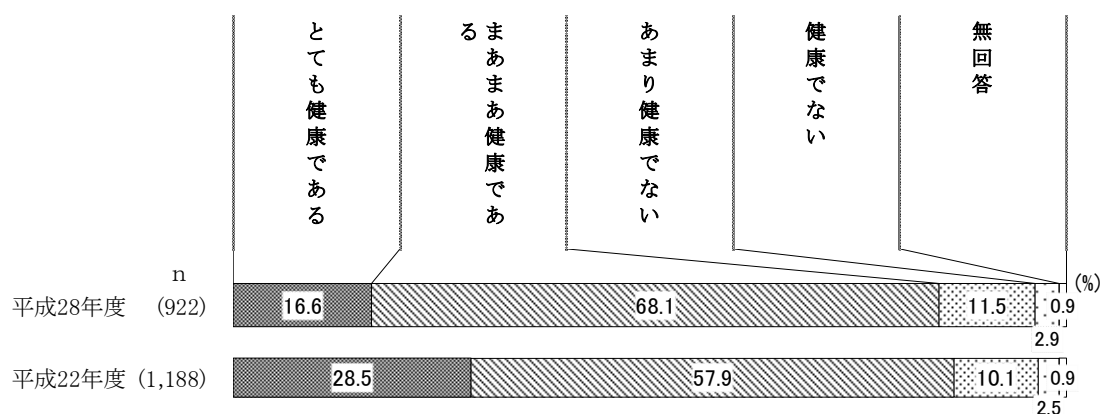
前々回調査と比べると、「とても健康である」との回答が11.9ポイント下がり、「まあまあ健康である」が10.2ポイント上がりました。

年代別で見ると、《健康である》との回答は、各年代とも8割を超える中、特に30歳代で92.2%と最も多くなっています。

家族構成別で見ると、《健康である》との回答は、三世帯世帯(親と子と孫)で約9割と最も多くなっています。

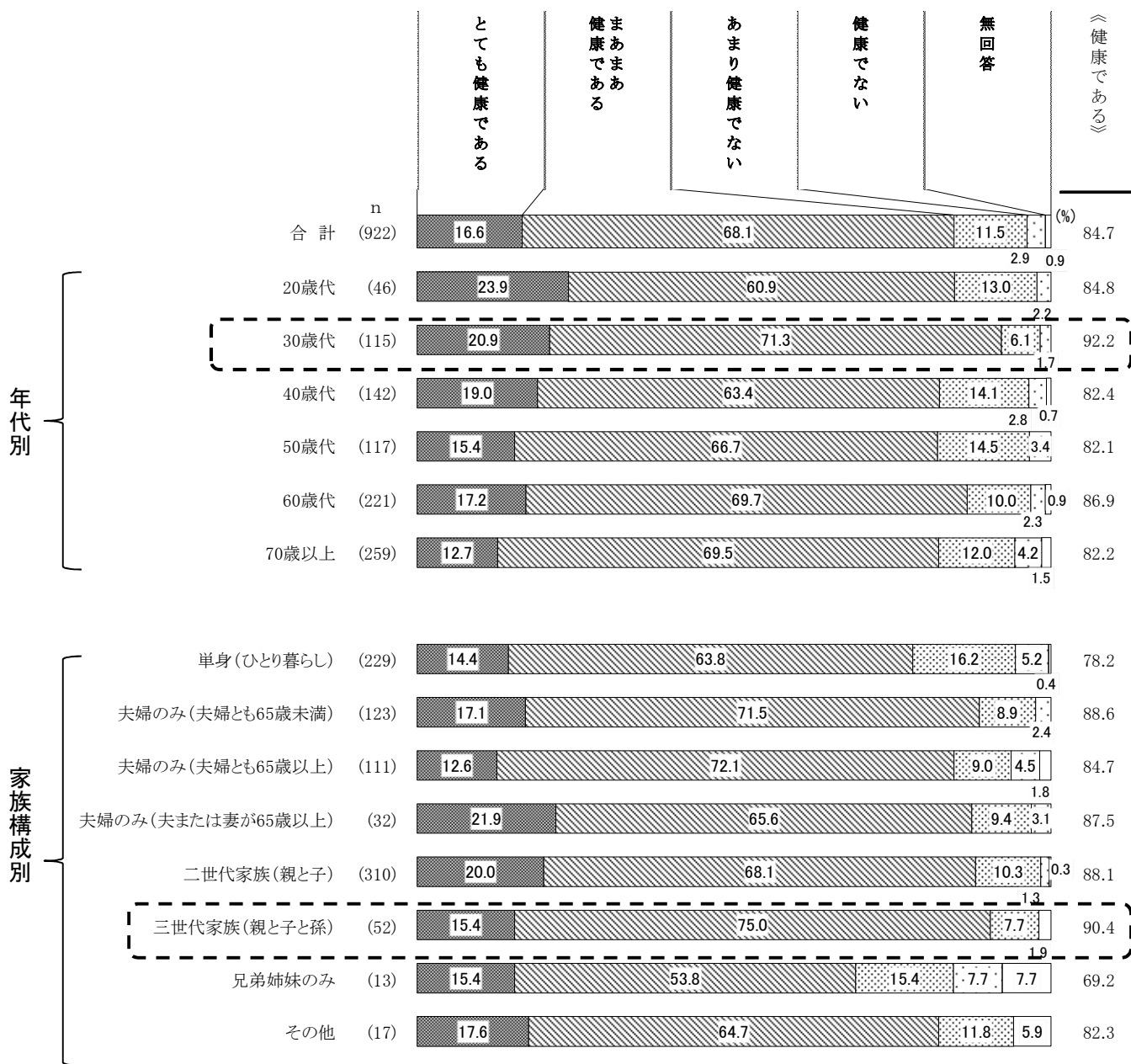


【前々回調査との比較】



※前回調査では同じ設問がないため、前々回調査との比較になっている。

【年代別・家族構成別】

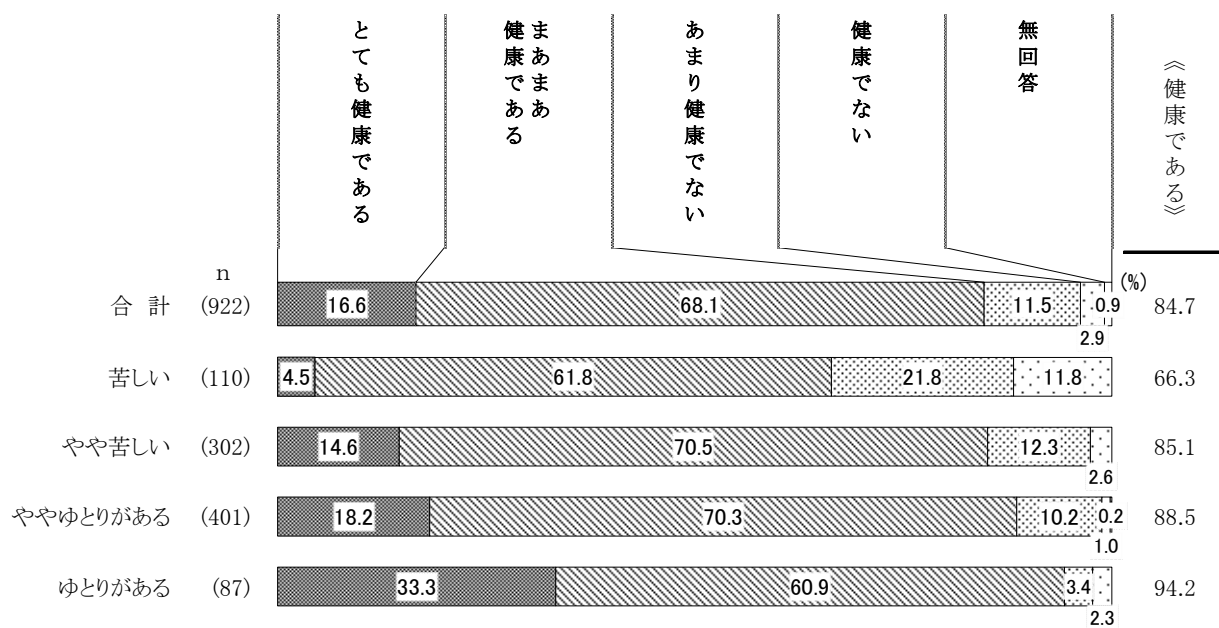


【単身(ひとり暮らし)の年代別詳細】(単位: %)

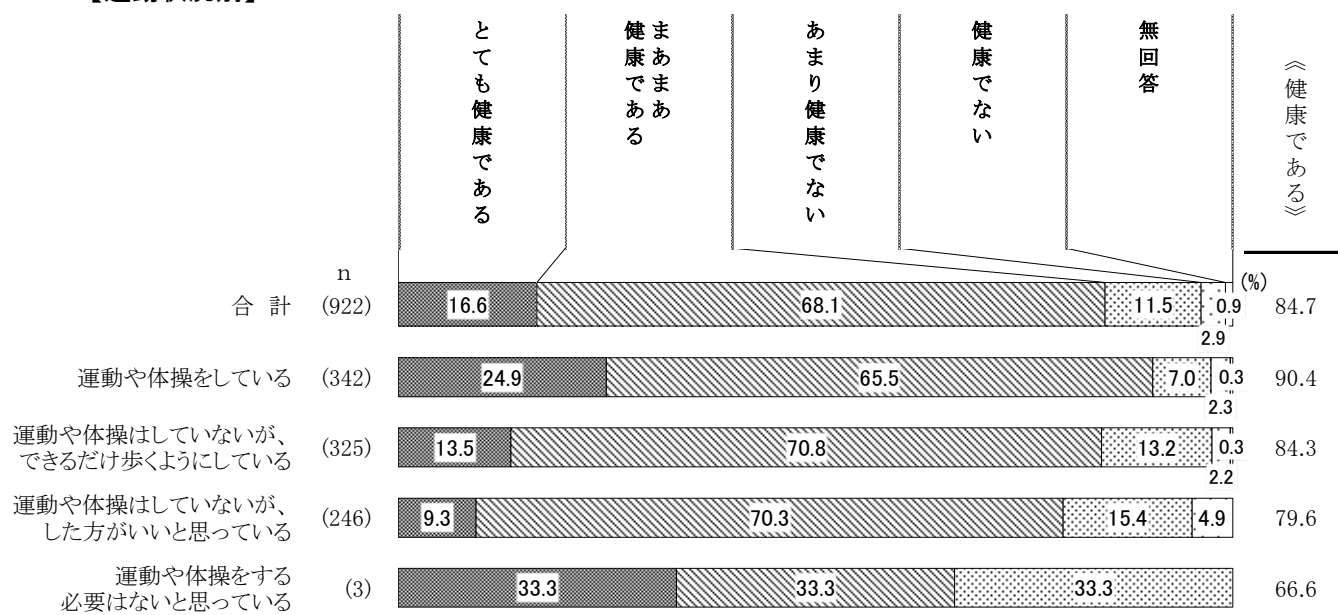
単身(ひとり暮らし)		回答数(件)	とても健康である	まあまあ健康である	あまり健康でない	健康でない	無回答
合計		229	14.4	63.8	16.2	5.2	0.4
年代別	20代	19	15.8	68.4	10.5	5.3	-
	30~50代	74	13.5	64.9	14.9	6.8	-
	60代以上	135	14.8	62.2	17.8	4.4	0.7

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【くらしの状況別】



【運動状況別】



(2) 運動や体操

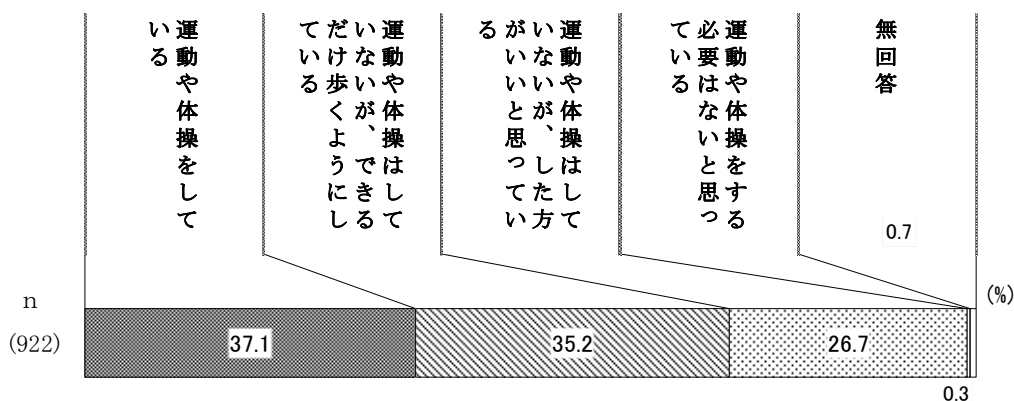
問2 何か運動や体操など体を動かすことをしていますか。(〇は1つのみ)

何か運動や体操など体を動かすことについて、37.1%の人が「運動や体操をしている」と回答しています。

年代別でみると、40歳代以下の場合「運動や体操はしていないが、した方がいいと思っている」、50歳代以上になると「運動や体操をしている」との回答がそれぞれ多くなっています。

家族構成別でみると、「運動や体操をしている」との回答は、夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）で5割を超える一方、三世代家族になると3割を下回る結果となっています。

主観的健康感別でみると、「運動や体操をしている」との回答は、とても健康である方で5割を超えており、健康感が下がると、「した方がいいと思っている」との回答が増えています。

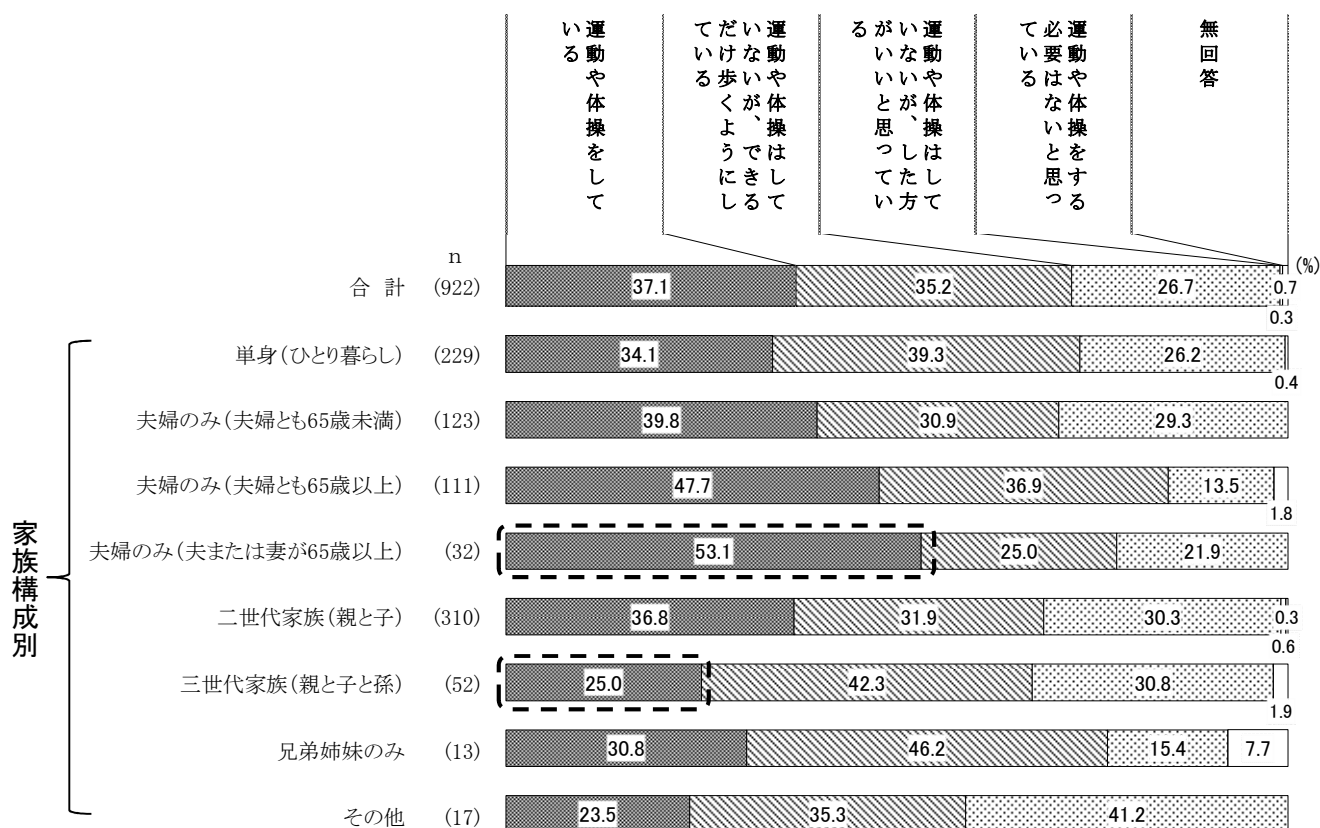


【年代別】(単位: %)

		回答数 (件)	運動や体操をしている	運動や体操はしていないが、歩いたり走ったりはしている	運動や体操はしていないが、思っていた方がいい	運動や体操をする必要はないと思う	無回答
合計		922	37.1	35.2	26.7	0.3	0.7
年代別	20歳代	46	28.3	34.8	34.8	2.2	-
	30歳代	115	30.4	29.6	39.1	0.9	-
	40歳代	142	30.3	28.2	40.8	-	0.7
	50歳代	117	38.5	33.3	27.4	0.9	-
	60歳代	221	41.6	38.9	18.6	-	0.9
	70歳以上	259	41.3	40.2	17.8	-	0.8

※網掛けは最大値 (ただし回答数30件未満を除く)

【家族構成別】

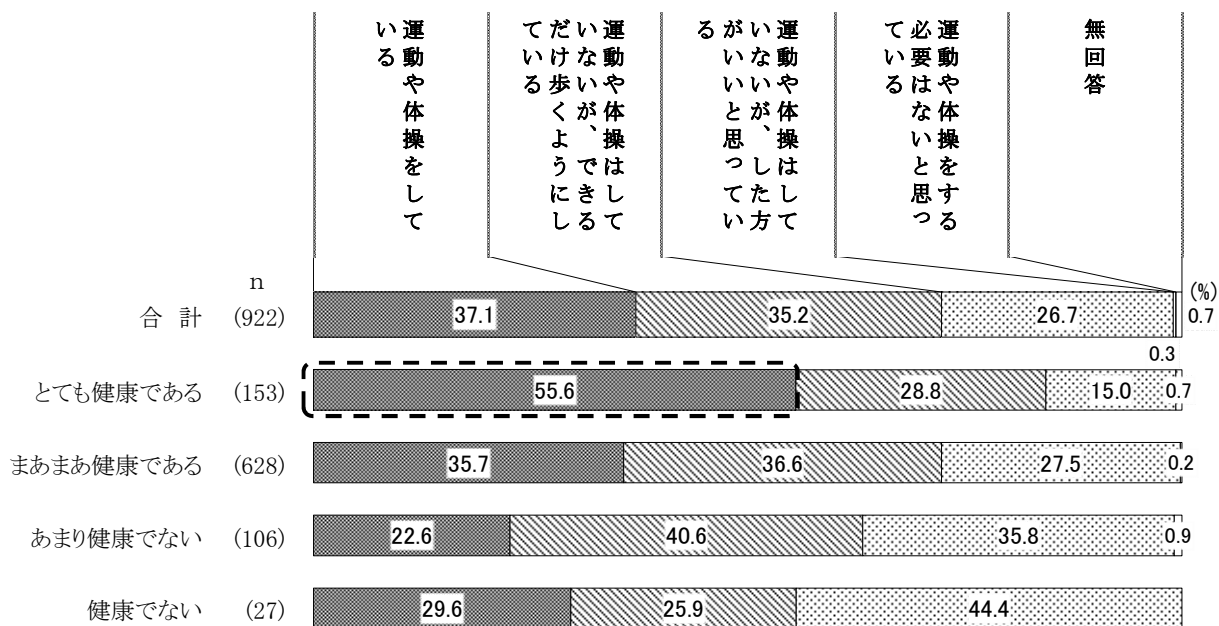


【単身(ひとり暮らし)の年代別詳細】(単位: %)

単身(ひとり暮らし)	回答数(件)	運動や体操をしている	ただい運動や体操はしているが、歩くようにしている	るがいないや体操はしていいと思っ	て必要はないと思っ	無回答	
合計	229	34.1	39.3	26.6	0.4	-	
年代別	20代	19	21.1	42.1	31.6	5.3	-
	30~50代	74	28.4	39.2	32.4	-	-
	60代以上	135	39.3	39.3	21.5	-	-

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【主観的健康感別（問1）】



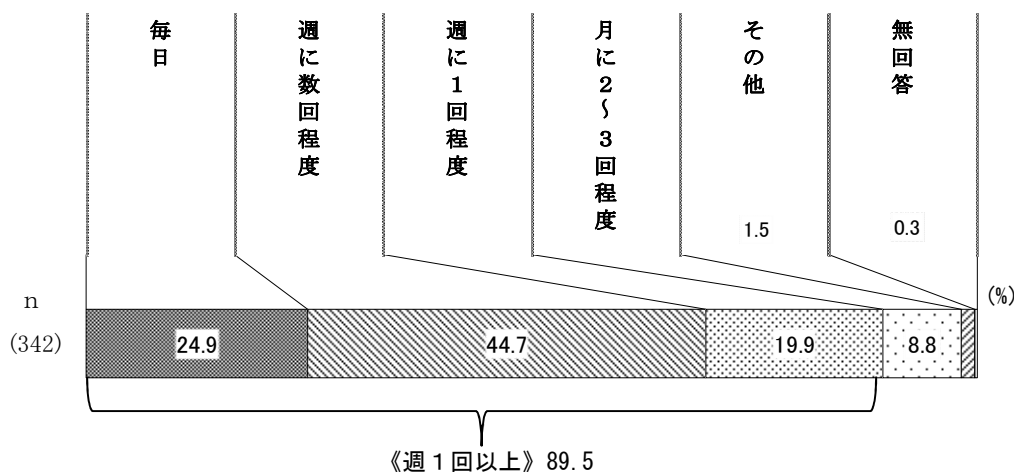
(3) 運動や体操の頻度

【問2で「1. 運動や体操をしている」とお答えの方に】

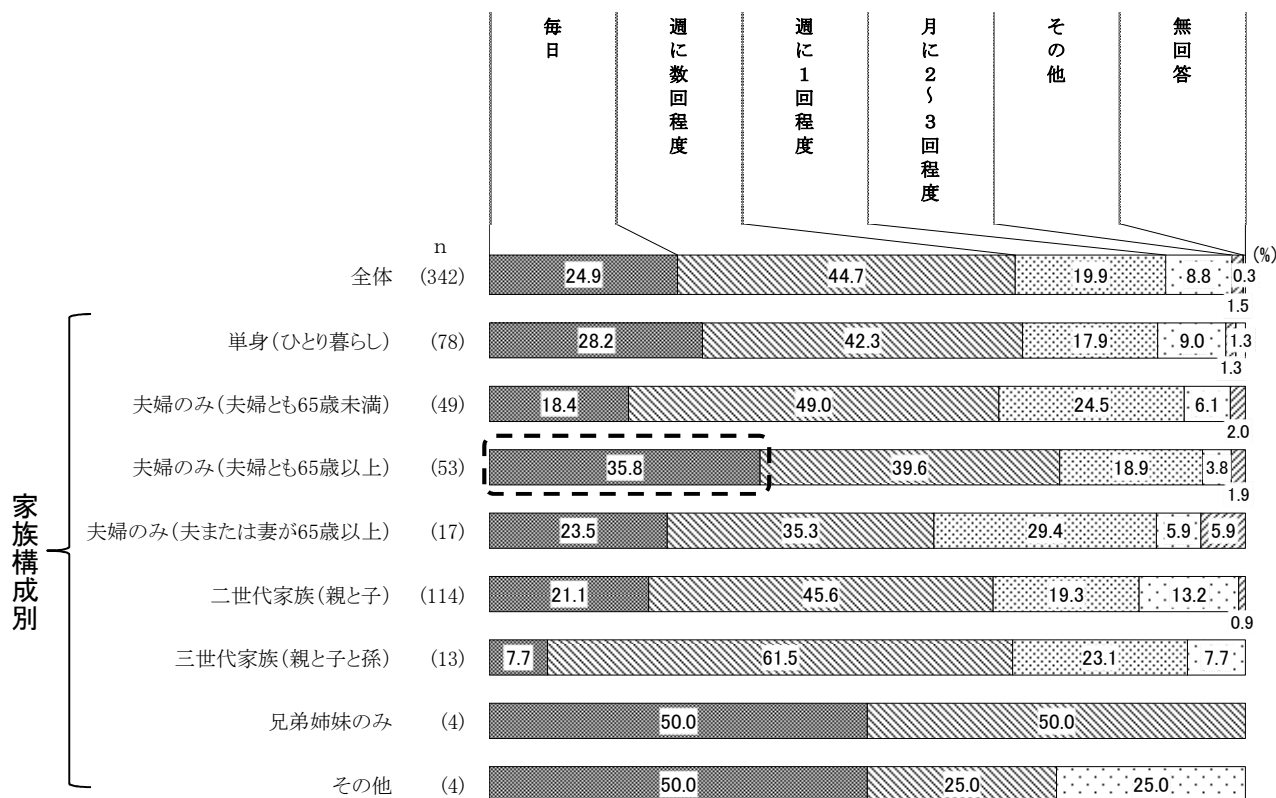
問2-1 運動や体操はどのくらいの頻度で行っていますか。(〇は1つのみ)

運動や体操など体を動かすことの頻度について、「週に数回程度」との回答が44.7%で最も多くなっており、「毎日」(24.9%)と「週に1回程度」(19.9%)を合わせると、約9割の人が週に1回以上運動や体操をしています。

家族構成別でみると、「毎日」との回答は、夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)で35.8%と多く、積極的に運動や体操をしていることがわかります。



【家族構成別】

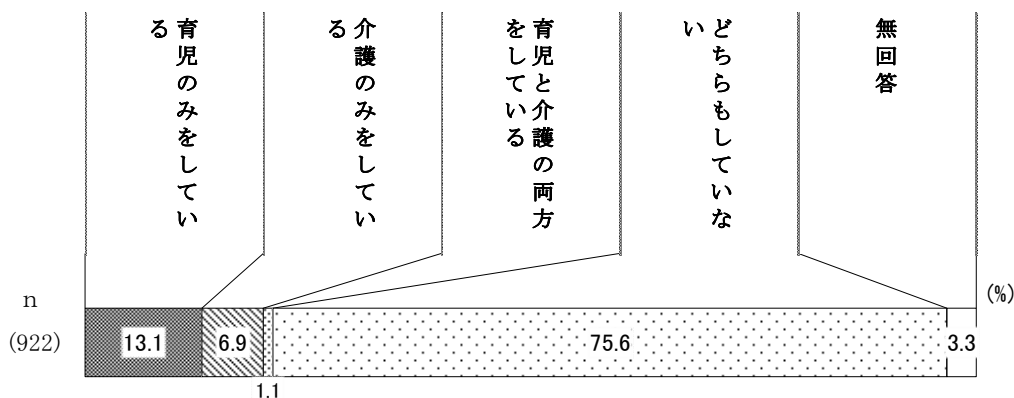


(4) 育児や介護

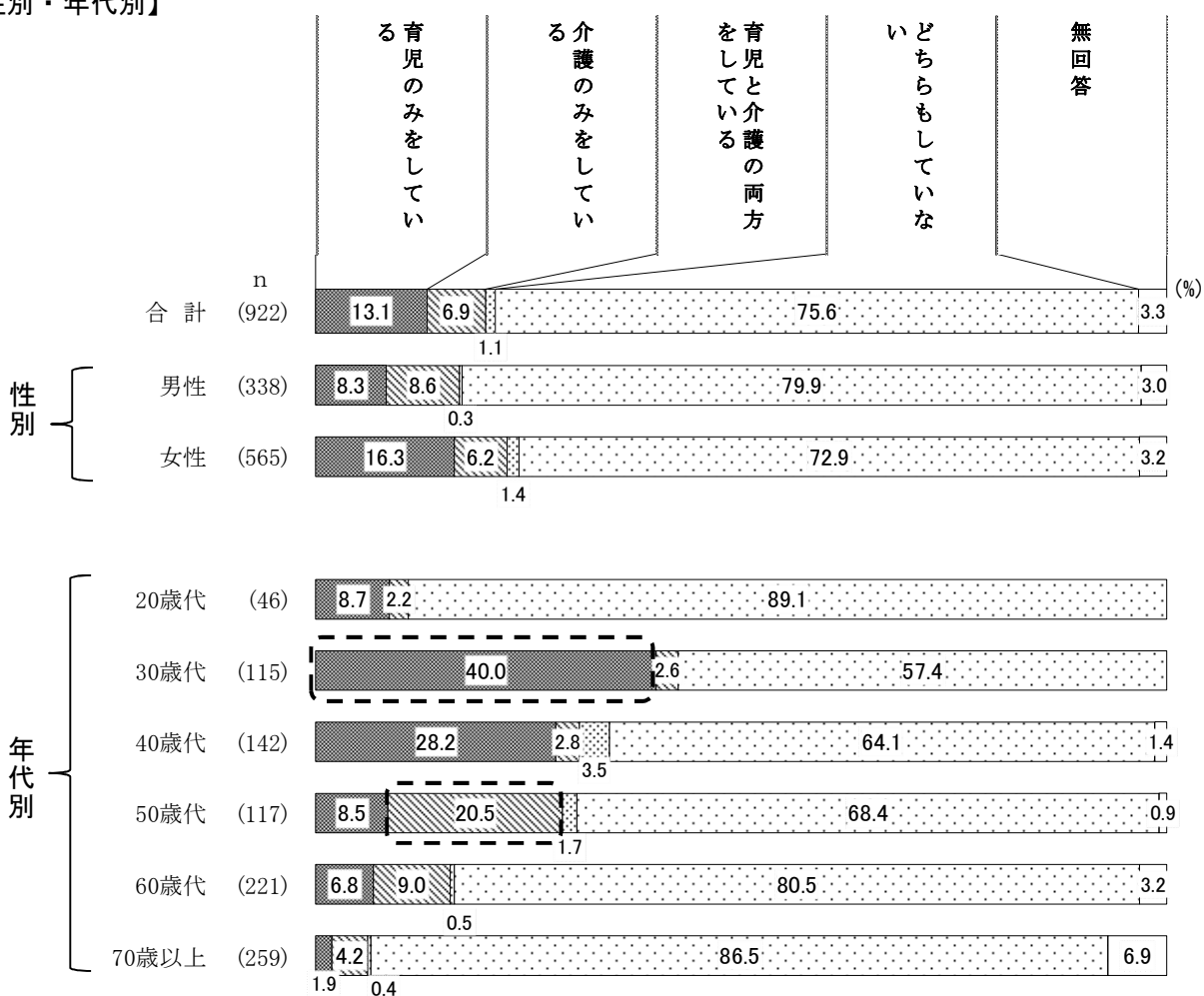
問3 育児や介護をしていますか。(○は1つのみ)

育児や介護について、75.6%の人が「どちらもしない」と回答しています。

年代別でみると、「育児のみをしている」との回答は、30歳代で4割と多く、次いで40歳代と続いています。一方「介護のみをしている」との回答は、50歳代で約2割と多くなっており、次いで60歳代と続いています。



【性別・年代別】



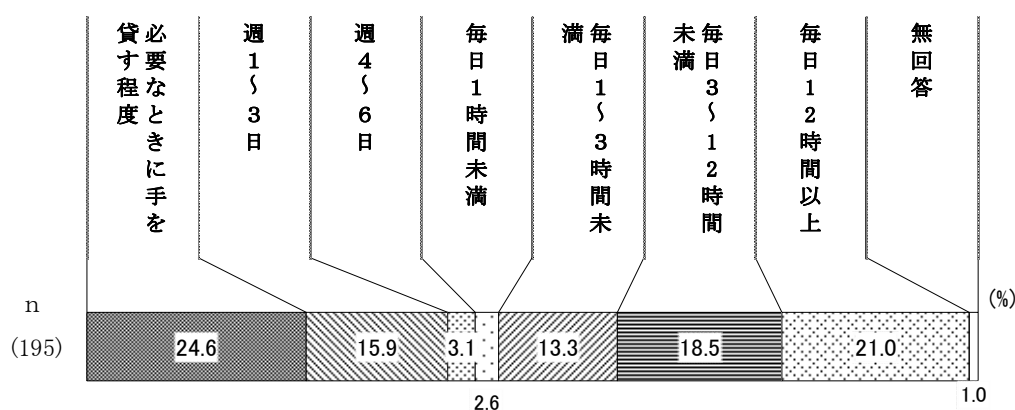
(5) 育児や介護の頻度

【問3で「1～3」のいずれかをお答えの方に】

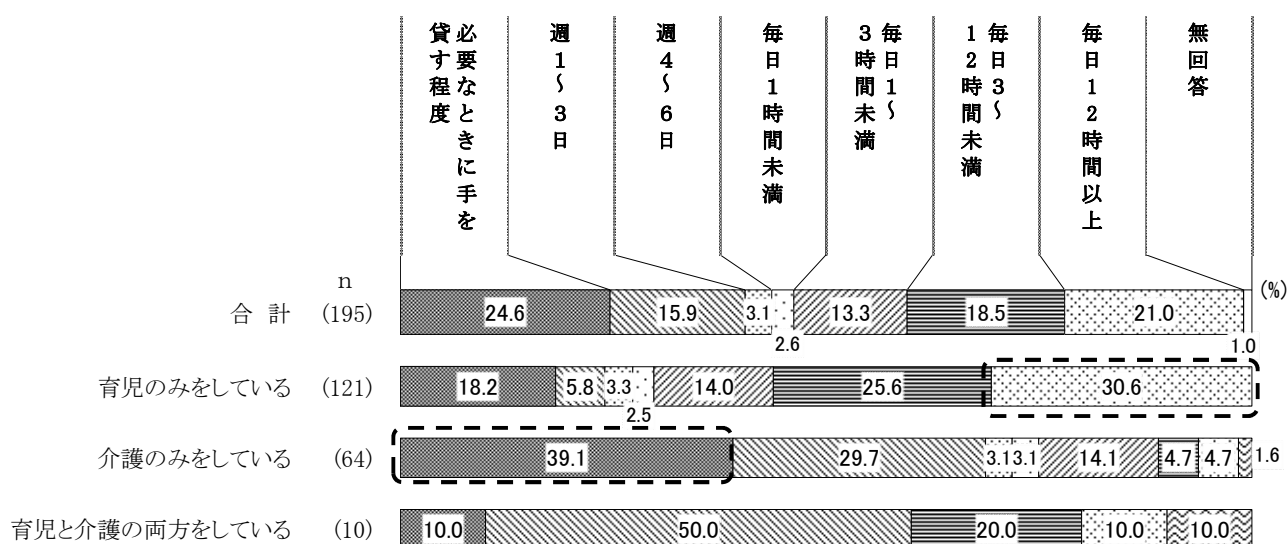
問3-1 育児や介護を行う頻度はどのくらいですか。(〇は1つのみ)

育児や介護を行う頻度について、24.6%の人が「必要なときに手を貸す程度」と回答しています。一方で、「毎日12時間以上」の人は21.0%となっています。

育児や介護の取組状況別でみると、育児のみをしている方の場合では、「毎日12時間以上」という長時間の回答が多く、介護のみをしている場合では「必要なときに手を貸す程度」との回答が39.1%で最も多くなっています。



【育児や介護の取組状況別 (問3)】



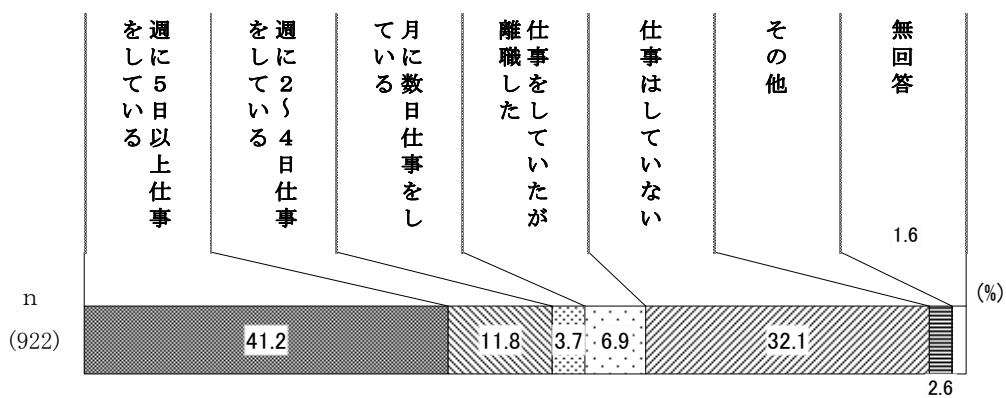
(6) 仕事

問4 収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つのみ)

収入を得る仕事について、41.2%の人が「週に5日以上仕事をしている」と回答しています。

性別でみると、「週に5日以上働いている」との回答は、男性の場合、50歳代以下は8割以上ですが、60歳代になると4割強まで下がります。女性の場合では、20歳代で7割以上ですが、年代が高くなるとともに減少し、50歳代では5割を下回っています。

育児や介護の取組状況別（問3）でみると、「仕事をしていたが離職した」との回答は、育児のみをしている人の場合で16.5%、介護のみをしている人の場合では7.8%となっています。

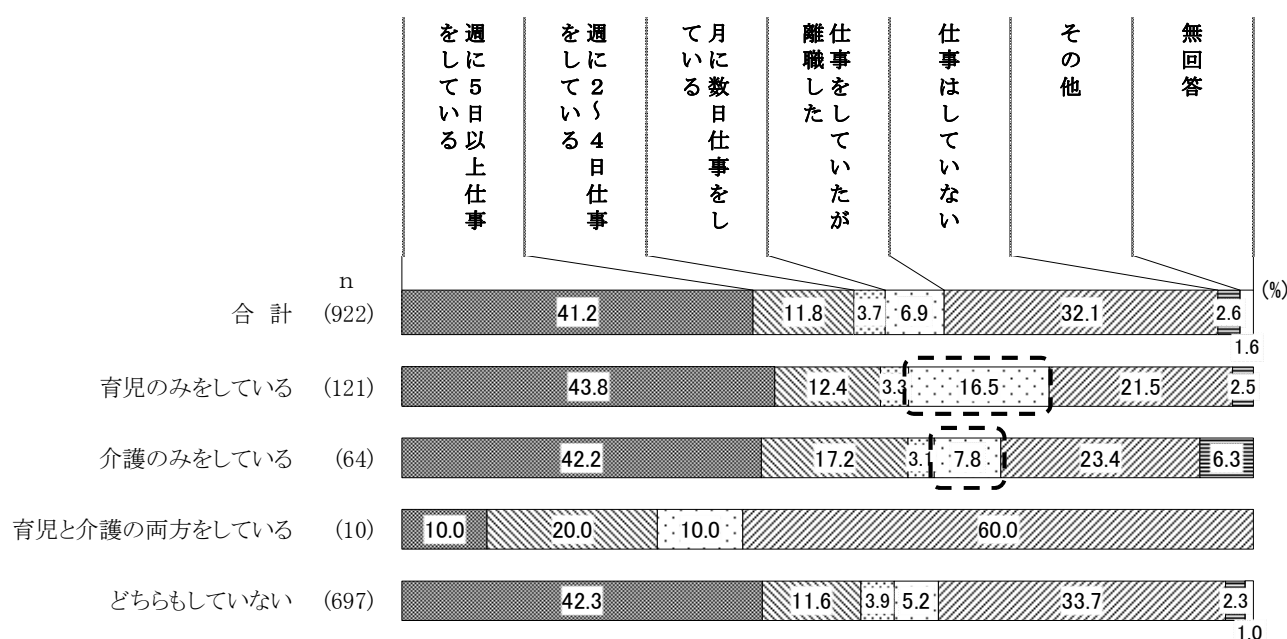


【性・年代別】(単位：%)

		回答数 (件)	週に5日以上 仕事をしている	週に2〜4日 仕事をしている	月に数日仕事を している	仕事をしていた が退職した	仕事はしていな い	その他	無回答
合 計		922	41.2	11.8	3.7	6.9	32.1	2.6	1.6
性・年代別	男性合計	338	51.2	8.9	2.1	5.6	29.9	0.9	1.5
	20歳代	18	88.9	5.6	-	-	5.6	-	-
	30歳代	38	81.6	10.5	2.6	2.6	2.6	-	-
	40歳代	52	82.7	3.8	-	1.9	9.6	-	1.9
	50歳代	37	89.2	-	-	2.7	5.4	2.7	-
	60歳代	90	41.1	14.4	4.4	6.7	30.0	2.2	1.1
	70歳以上	102	11.8	9.8	2.0	9.8	63.7	-	2.9
	女性合計	565	35.4	14.0	4.6	7.8	33.1	3.7	1.4
	20歳代	28	71.4	7.1	3.6	-	7.1	7.1	3.6
	30歳代	77	55.8	7.8	3.9	14.3	16.9	1.3	-
	40歳代	90	50.0	16.7	2.2	11.1	18.9	-	1.1
	50歳代	80	47.5	28.8	6.3	5.0	11.3	1.3	-
	60歳代	131	33.6	19.1	6.1	8.4	28.2	3.8	0.8
	70歳以上	156	5.8	4.5	4.5	4.5	69.9	7.7	3.2

※網掛けは最大値 (ただし回答数30件未満を除く)

【育児や介護の取組状況別 (問3)】

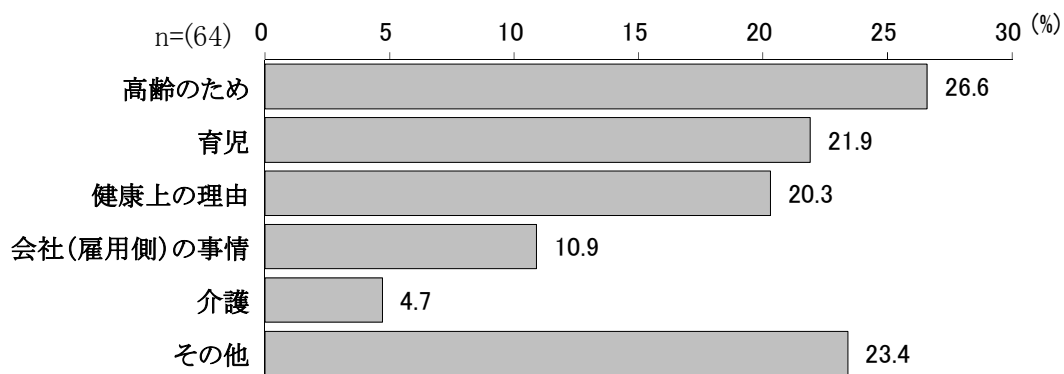


(7) 離職理由

【問4で「4. 仕事をしてきたが離職した」とお答えの方に】

問4-1 離職の原因は何ですか。(〇はいくつでも)

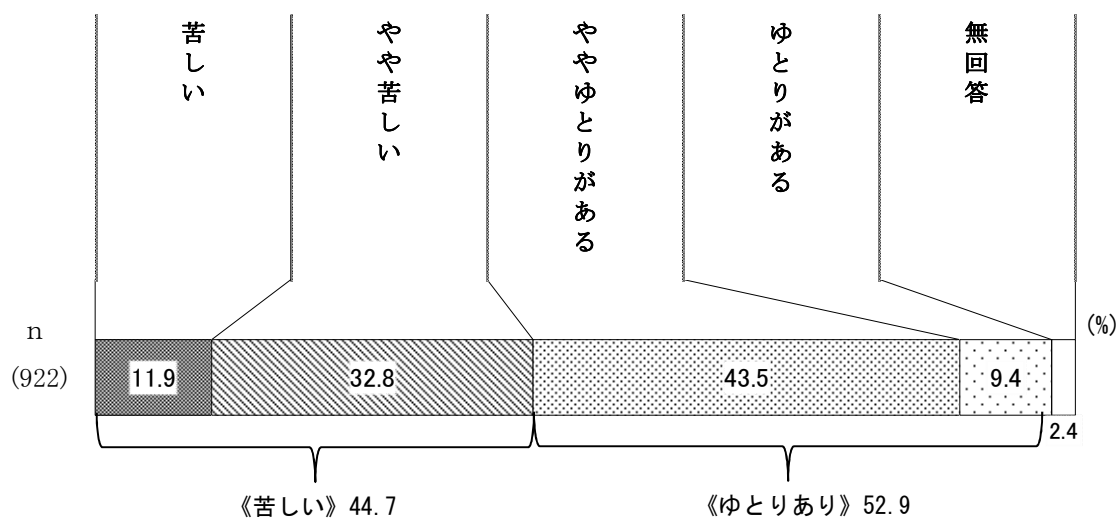
離職の原因は、「高齢のため」との回答が26.6%と最も多く、次いで「育児」(21.9%)、「健康上の理由」(20.3%)と続いています。



(8) 暮らしの状況

問5 現在の暮らしの状況をどう感じていますか。(〇は1つのみ)

現在の暮らしの状況について、43.5%の人が「ややゆとりがある」と回答しており、「ゆとりがある」(9.4%)と合わせた《ゆとりあり》と感じている人は5割を超えています。一方「苦しい」(11.9%)と「やや苦しい」(32.8%)を合わせた《苦しい》と感じている人は4割台半ばとなっています。

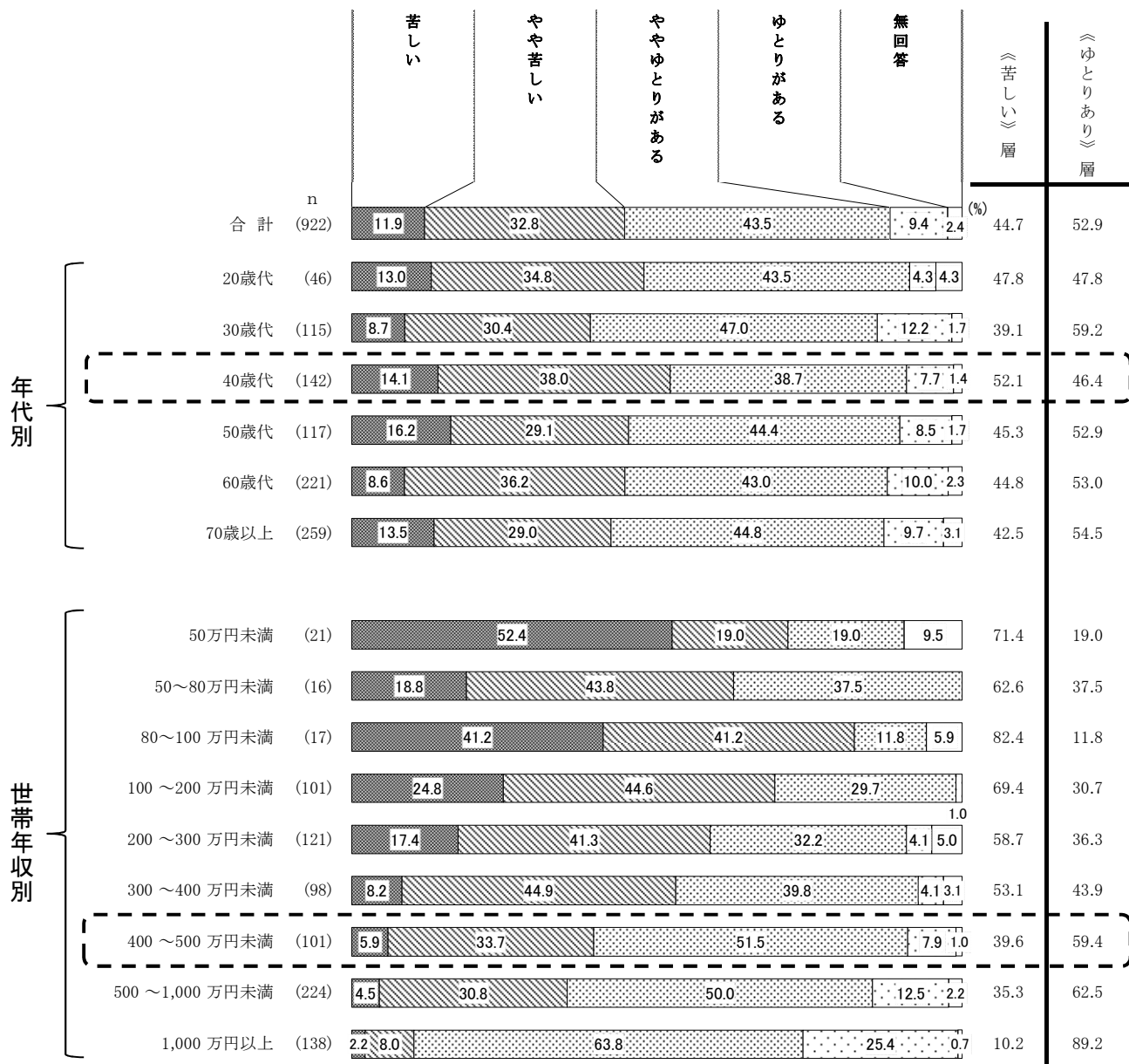


第2章 調査結果の詳細

年代別で見ると、《苦しい》と感じている人は、40歳代で最も多く、5割を超えます。

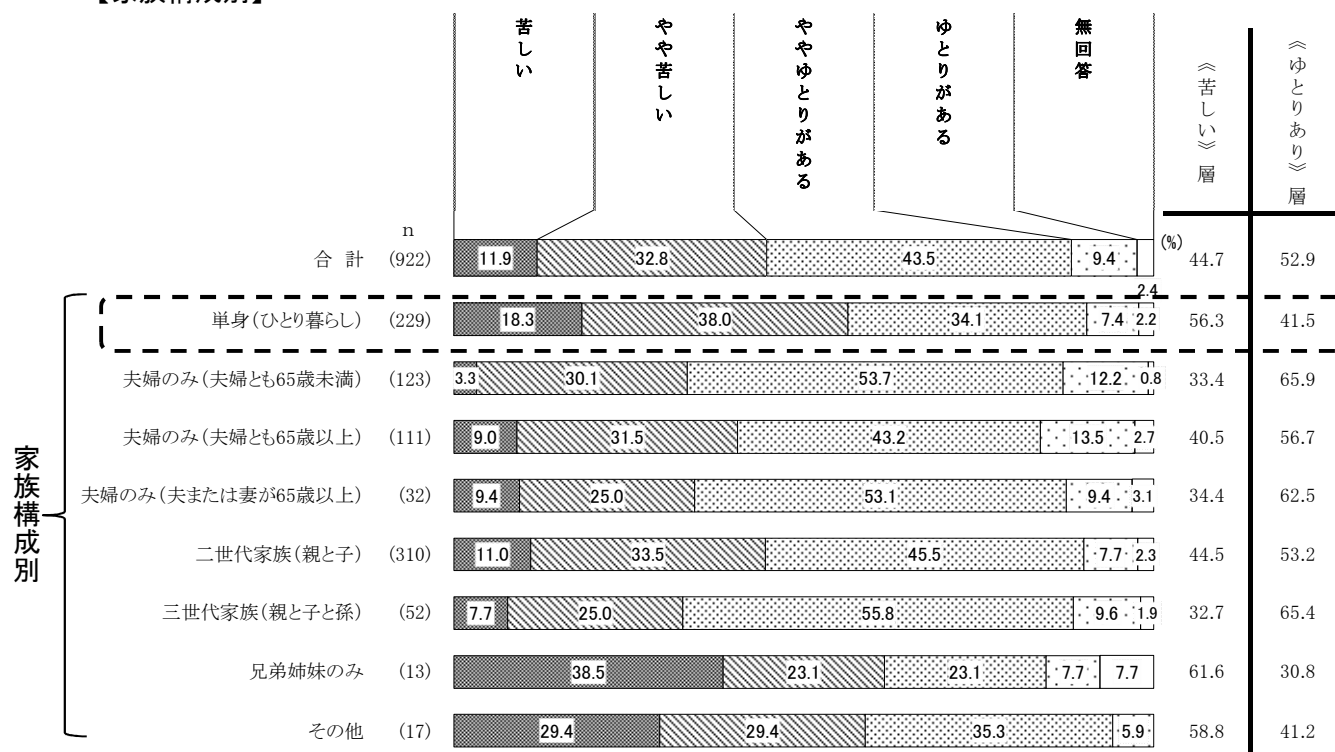
世帯年収別で見ると、年収400万円未満までは《苦しい》と感じている人のほうが《ゆとりあり》と感じている人より多いですが、400万円以上を超えると、その割合は逆転し、《ゆとりあり》と感じている人のほうが多くなっています。

【年代別・世帯年収別】



家族構成別でみると、《苦しい》と感じている人の割合は、単身（ひとり暮らし）で5割を超え、多くなっています。

【家族構成別】



【単身（ひとり暮らし）の年代別詳細】（単位：％）

単身(ひとり暮らし)		回答数(件)	苦しい	やや苦しい	あるややゆとりがある	ゆとりがある	無回答
合計		229	18.3	38.0	34.1	7.4	2.2
年代別	20代	19	21.1	42.1	26.3	5.3	5.3
	30～50代	74	23.0	35.1	32.4	6.8	2.7
	60代以上	135	15.6	38.5	36.3	8.1	1.5

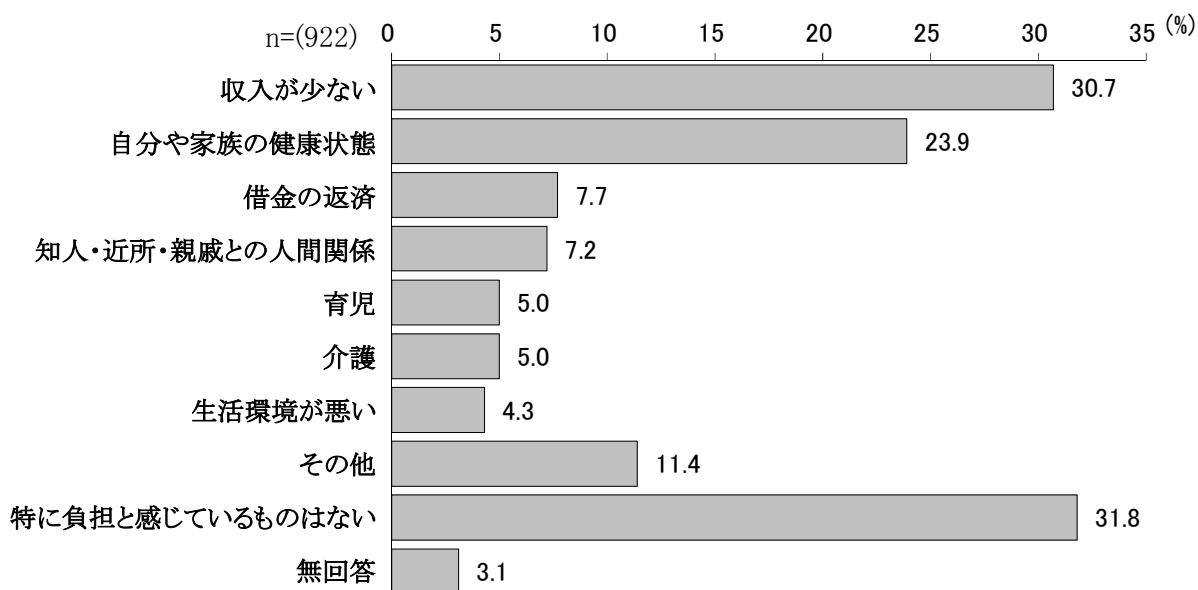
※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

(9) 暮らしの負担内容

問6 暮らしの中で負担が大きいと感じているものは何ですか。(〇はいくつでも)

暮らしの中で負担が大きいと感じているものは、「収入が少ない」との回答が30.7%と最も多く、次いで「自分や家族の健康状態」(23.9%)と続いています。一方「特に負担と感じているものはない」との回答は31.8%となっています。

年代別でみると、50歳代以下では「収入が少ない」との回答が最も多くなっています。2番目に高い項目は、30歳代では「その他」に次いで「育児」、40歳代以上では「自分や家族の健康状態」があげられています。



【年代別】(単位：%)

	回答数(件)	収入が少ない	自分や家族の健康状態	借金の返済	知人・近所・親戚との人間関係	育児	介護	生活環境が悪い	その他	特に負担と感じているものはない	無回答	
合計	922	30.7	23.9	7.7	7.2	5.0	5.0	4.3	11.4	31.8	3.1	
年代別	20歳代	46	47.8	10.9	6.5	6.5	2.2	4.3	4.3	34.8	4.3	
	30歳代	115	34.8	11.3	8.7	8.7	17.4	1.7	4.3	20.9	27.8	1.7
	40歳代	142	36.6	24.6	12.7	5.6	12.0	2.1	4.2	17.6	23.9	2.8
	50歳代	117	30.8	25.6	12.8	6.0	3.4	14.5	5.1	13.7	26.5	2.6
	60歳代	221	25.8	28.1	8.6	8.1	0.5	6.8	4.1	9.0	31.2	2.3
	70歳以上	259	27.0	26.6	2.3	6.6	-	2.7	3.5	6.6	40.5	4.6

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

家族構成別でみると、単身（ひとり暮らし）や二世世代家族の場合「収入が少ない」が最も多く、夫婦のみ（夫婦ともに65歳以上）の場合では「自分や家族の健康状態」が最も多くなっています。

【家族構成別】（単位：％）

		回答数 (件)	収入が 少ない	状態 自分 や 家族 の 健康	借金 の 返済	と 知 人 ・ 近 所 ・ 親 戚 の 人 間 関 係	育 児	介 護	生 活 環 境 が 悪 い	そ の 他	特 に 負 担 と 感 じ て い る も の は な い	無 回 答
合 計		922	30.7	23.9	7.7	7.2	5.0	5.0	4.3	11.4	31.8	3.1
家 族 構 成 別	単身 (ひとり暮らし)	229	38.9	19.2	6.6	9.2	-	3.5	6.1	14.0	28.4	4.8
	夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	123	18.7	26.0	9.8	8.1	0.8	7.3	5.7	12.2	40.7	-
	夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	111	24.3	36.9	5.4	6.3	-	3.6	2.7	3.6	36.9	1.8
	夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	32	28.1	21.9	6.3	6.3	3.1	6.3	-	6.3	40.6	3.1
	二世世代家族 (親と子)	310	33.2	19.7	8.1	5.5	13.2	5.5	2.9	13.5	29.0	3.2
	三世世代家族 (親と子と孫)	52	26.9	25.0	13.5	3.8	3.8	9.6	5.8	9.6	34.6	1.9
	兄弟姉妹のみ	13	38.5	30.8	7.7	7.7	-	-	-	15.4	23.1	7.7
	その他	17	35.3	23.5	17.6	-	-	5.9	-	5.9	35.3	5.9

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【単身（ひとり暮らし）の年代別詳細】（単位：％）

		回答数 (件)	収入が 少ない	状態 自分 や 家族 の 健康	借金 の 返済	と 知 人 ・ 近 所 ・ 親 戚 の 人 間 関 係	育 児	介 護	生 活 環 境 が 悪 い	そ の 他	特 に 負 担 と 感 じ て い る も の は な い	無 回 答
合 計		229	38.9	19.2	6.6	9.2	-	3.5	6.1	14.0	28.4	4.8
年 代 別	20代	19	63.2	10.5	10.5	5.3	-	-	10.5	5.3	15.8	5.3
	30～50代	74	47.3	21.6	10.8	8.1	-	2.7	5.4	25.7	16.2	4.1
	60代以上	135	31.1	19.3	3.7	10.4	-	3.7	5.9	8.9	37.0	5.2

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

第2章 調査結果の詳細

世帯年収別で見ると、400万円未満では「収入が少ない」との回答が最も多く、400万円以上になると「特に負担と感じているものはない」との回答が最も多くなっています。

【世帯収入別】（単位：％）

		回答数 (件)	収入が 少ない	状態 自分や 家族の 健康	借金の 返済	知人・ 近所・ 親戚 との 人間 関係	育児	介護	生活 環境が 悪い	その他	特に 負担と 感じて いる もの はない	無 回答
合 計		922	30.7	23.9	7.7	7.2	5.0	5.0	4.3	11.4	31.8	3.1
世帯 収入 別	50万円未満	21	47.6	38.1	4.8	23.8	-	4.8	14.3	9.5	14.3	4.8
	50～80万円未 満	16	31.3	25.0	-	12.5	-	6.3	6.3	25.0	37.5	-
	80～100万円 未満	17	58.8	5.9	-	5.9	-	-	5.9	5.9	23.5	-
	100～200万円 未満	101	51.5	25.7	7.9	7.9	3.0	3.0	5.0	6.9	17.8	4.0
	200～300万円 未満	121	47.9	35.5	10.7	5.8	-	2.5	4.1	6.6	22.3	3.3
	300～400万円 未満	98	41.8	28.6	7.1	10.2	3.1	7.1	3.1	11.2	20.4	3.1
	400～500万円 未満	101	25.7	27.7	5.0	7.9	-	5.9	5.9	8.9	42.6	1.0
	500～1,000万 円未満	224	19.6	17.4	7.6	4.5	9.8	5.4	3.6	17.4	37.5	2.7
1,000万円 以上	138	9.4	18.1	11.6	6.5	10.1	5.8	3.6	13.0	44.2	2.2	

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【くらしの状況別】（単位：％）

		回答数 (件)	収入が 少ない	状態 自分や 家族の 健康	借金の 返済	知人・ 近所・ 親戚 との 人間 関係	育児	介護	生活 環境が 悪い	その他	特に 負担と 感じて いる もの はない	無 回答
合 計		922	30.7	23.9	7.7	7.2	5.0	5.0	4.3	11.4	31.8	3.1
くらし の 状 況 別	苦しい	110	76.4	29.1	17.3	11.8	3.6	5.5	7.3	13.6	0.9	1.8
	やや苦しい	302	55.0	29.5	12.9	6.0	6.3	4.3	4.3	13.2	11.6	1.3
	ややゆとりが ある	401	7.7	22.4	3.2	7.7	5.2	6.5	4.5	10.0	47.6	1.7
	ゆとりがある	87	2.3	8.0	-	3.4	2.3	1.1	1.1	6.9	75.9	1.1

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

3. 住民同士の支え合いや助け合い

地域住民同士の支え合いや助け合いの状況を整理するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出しました。

■結果の概要

【地域や人とのつながりの状況】

- ・「近所付き合いの程度（問7）」について、6割強の人が「あいさつをする程度」と回答しており、前回調査と大きな差はみられません。「ほとんど付き合いがない」との回答は、年代別では20歳代（56.5%）、家族構成別では単身（ひとり暮らし）（36.2%）、居住種別では共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）（35.1%）で多くなっています。単身（ひとり暮らし）の中を年齢別にみると、20歳代（73.7%）、30～50歳代（62.2%）で多い状況です。（P34～P36参照）
- ・「付き合い人数（問8）」について、「いない」との回答は、家族構成別では夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）（38.2%）が最も多く、次いで単身（ひとり暮らし）（25.3%）と続いています。（P39参照）
- ・「相談相手人数（問9）」について、「いない」との回答は、家族構成別では単身（ひとり暮らし）（25.8%）と夫婦のみ（ともに65歳未満）（27.6%）で多くなっています。（P41参照）

【支え合いや助け合いの状況】

- ・「支え合いや助け合いの必要性（問10）」について、約8割の人が《必要だと思う》と回答しています。住居の種類別では「共同住宅（分譲マンション等）」、近所付き合いの程度別では「親しく付き合い合っている人」でそれぞれ最も多くなっています。前々回、前回の調査結果と傾向に大きな差はみられません。（P42、P43参照）
- ・「支え合いや助け合いに必要な取り組み（問10-1）」について、年代別では、50歳代以下では「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」、60歳以上では「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」がそれぞれ最も多くなっています。前々回・前回調査と比べると、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」との回答が減る一方で、「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」との回答が増えています。（P44、P45参照）
- ・「手助けしていること（問11）」について、4割弱の方が「あいさつや声かけ」と回答しており、年代が高くなるほど、その割合も高くなっています。（P47、P48参照）

■調査結果から見受けられる課題について

【地域とのつながりの要素について】

- ・住民同士の支え合いや助け合いの必要性はどの年代とも感じており、気軽に集まれる場、住民相互の交流活動といった、人とのゆるいつながりの重要性がうかがえます。（P45参照）

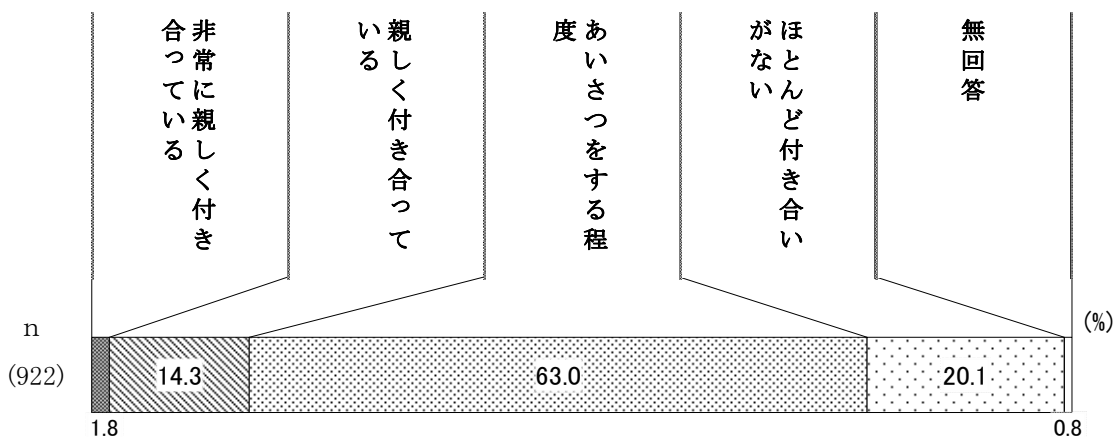
【住まいや近所付き合いと支え合い・助け合いについて】

- ・共同住宅（分譲マンション等）において、支え合い・助け合いで《必要だと思う》割合が高くなっており、集合住宅における支え合い・助け合いの必要性がうかがえます。また、近所付き合いの程度が深くなるほど、近隣での手助けをしている割合も高くなっており、「あいさつや声かけ」といったちょっとしたきっかけづくりの重要性がうかがえます。（P43、P49参照）

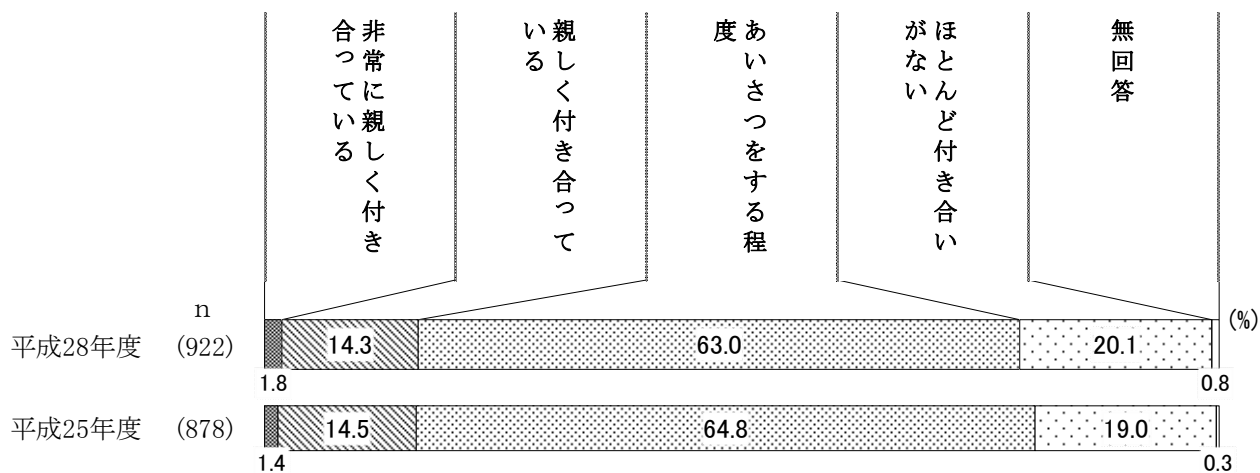
(1) 近所付き合いの程度

問7 日頃、ご近所の方との程度お付き合いをしていますか。(○は1つのみ)

近所の人とは「あいさつをする程度」と回答した人が63.0%を占めています。
 前回調査と比べると、近所付き合いの状況に大きな差はみられません。



【前回調査との比較】



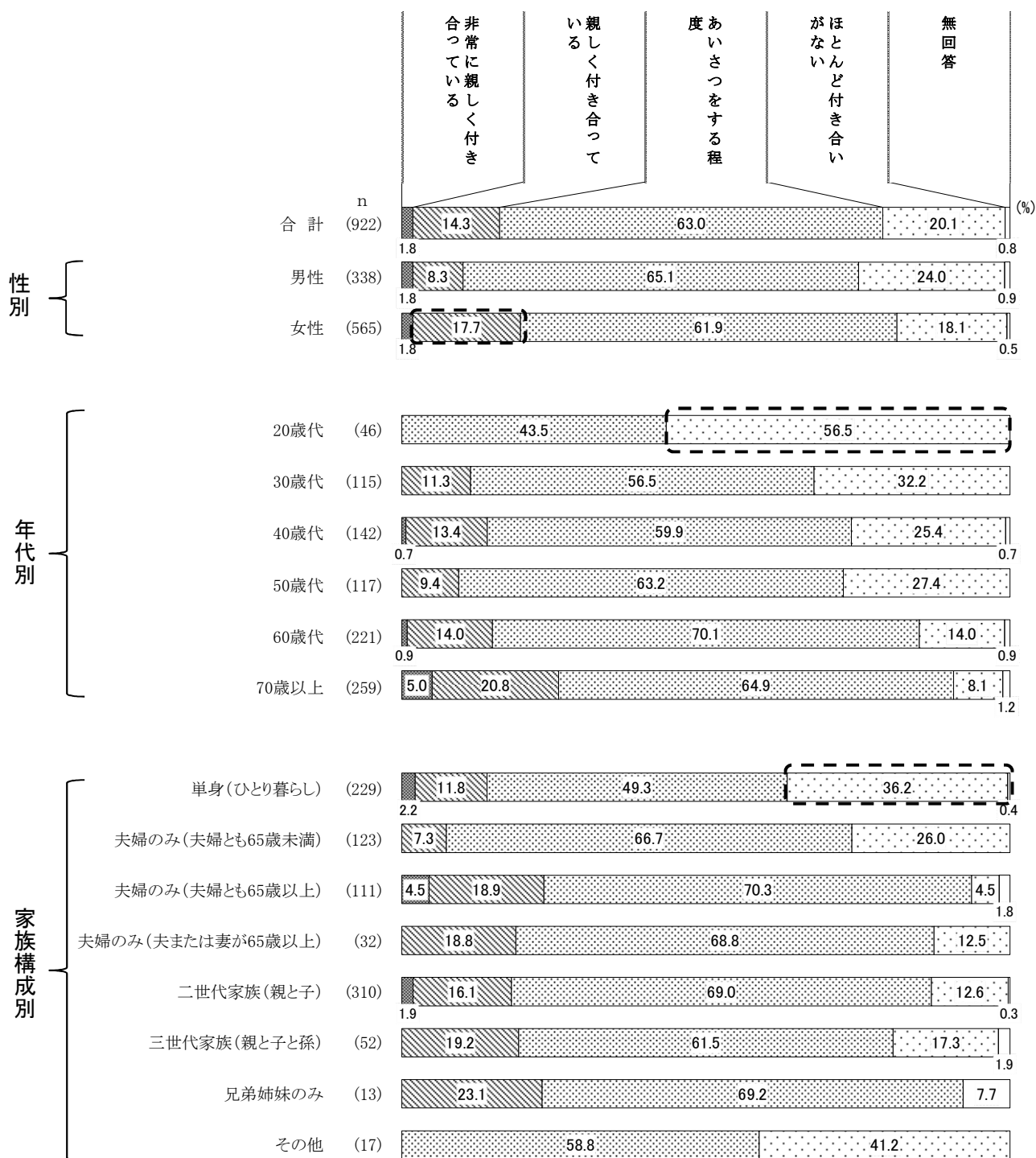
近所付き合いの程度は、性別で見ると、男性より女性のほうが「親しく付き合っている」が多く、「ほとんど付き合いがない」との回答が少なくなっています。

年代別で見ると、「ほとんど付き合いがない」との回答は、20歳代で最も多く、5割を超えます。60歳代になると、その割合は1割台まで減少しています。

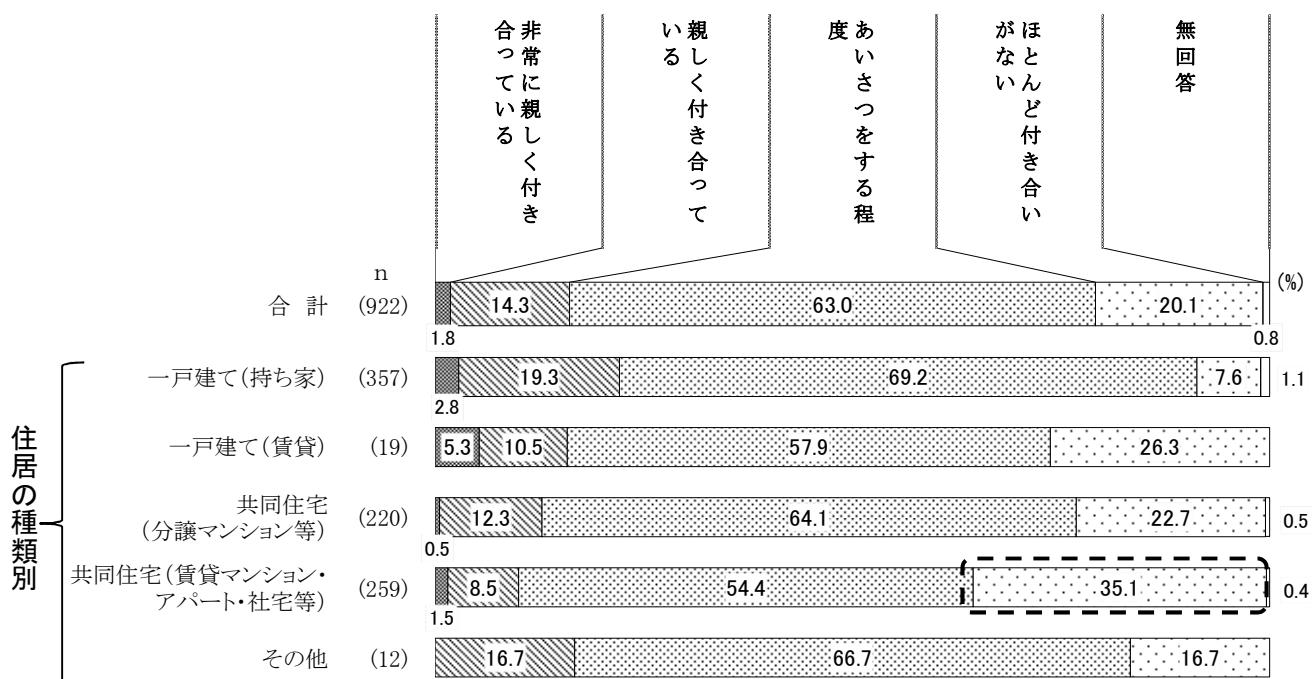
家族構成別で見ると、「ほとんど付き合いがない」との回答は、単身（ひとり暮らし）で36.2%と最も多くなっています。

居住種別で見ると、「ほとんど付き合いがない」との回答は、共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）で35.1%と多くなっています。

【性別・年代別・家族構成別】



【住居の種類別】



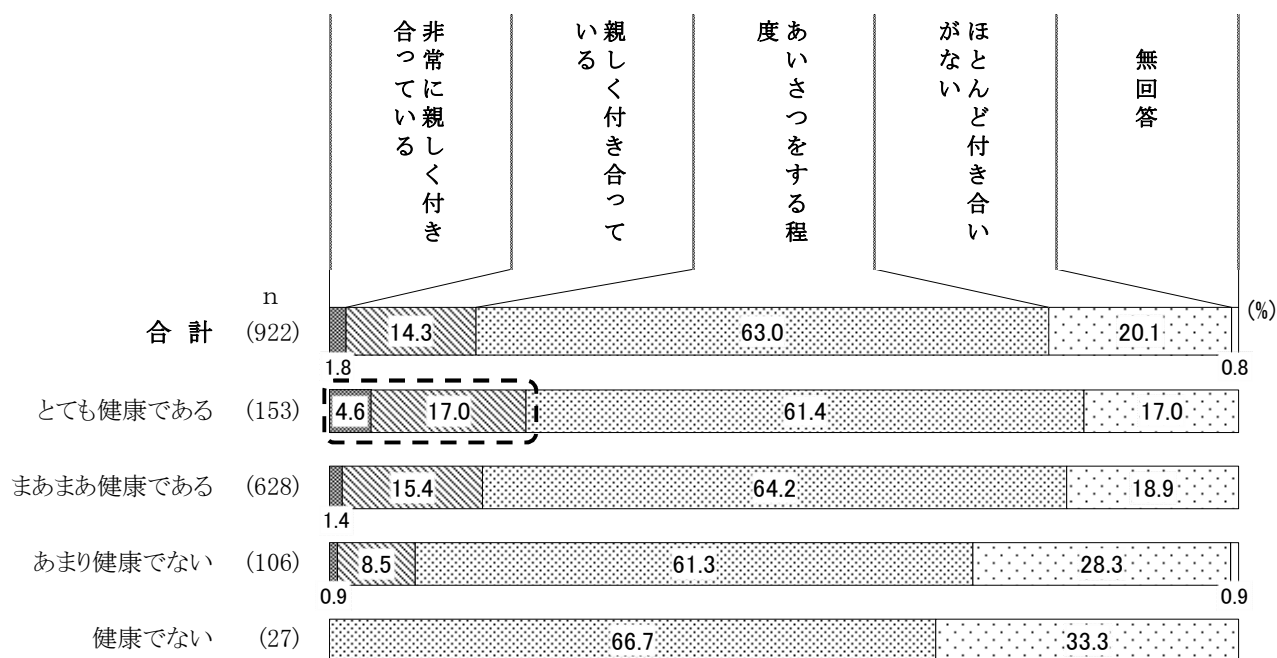
【单身(ひとり暮らし)の年代別詳細】(単位: %)

单身(ひとり暮らし)		回答数(件)	非常に親しく付き合っている (%)	親しく付き合っている (%)	あいさつをする程度 (%)	ほとんど付き合っていない (%)	無回答 (%)
合計		229	2.2	11.8	49.3	36.2	0.4
年代別	20代	19	-	-	26.3	73.7	-
	30~50代	74	-	5.4	32.4	62.2	-
	60代以上	135	3.7	17.0	61.5	17.0	0.7

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

主観的健康感別で見ると、健康感が高いほうが、近所付き合いの程度は深く、「ほとんど付き合いがない」との回答は少なくなっています。

【主観的健康感別（問1）】



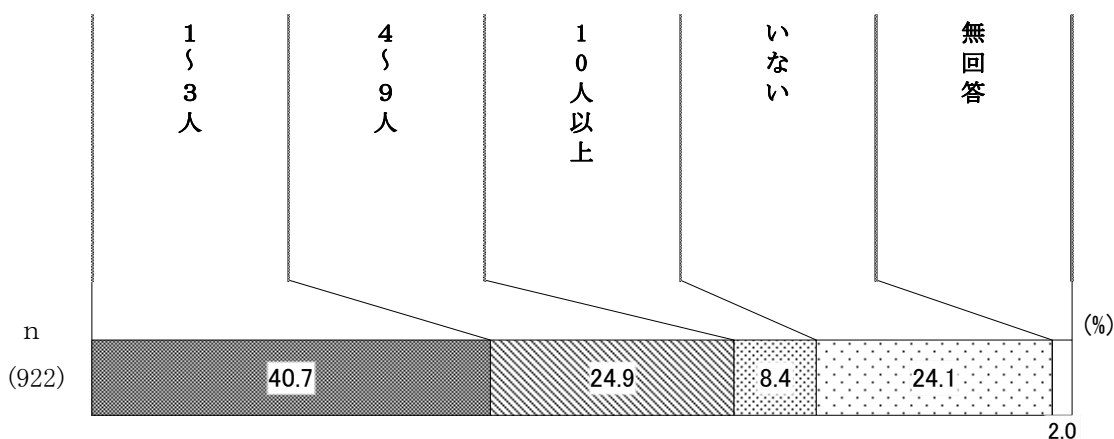
(2) 付き合い人数

問8 普段、親しくお付き合いをされている方は何人くらいいますか。(〇は1つのみ)

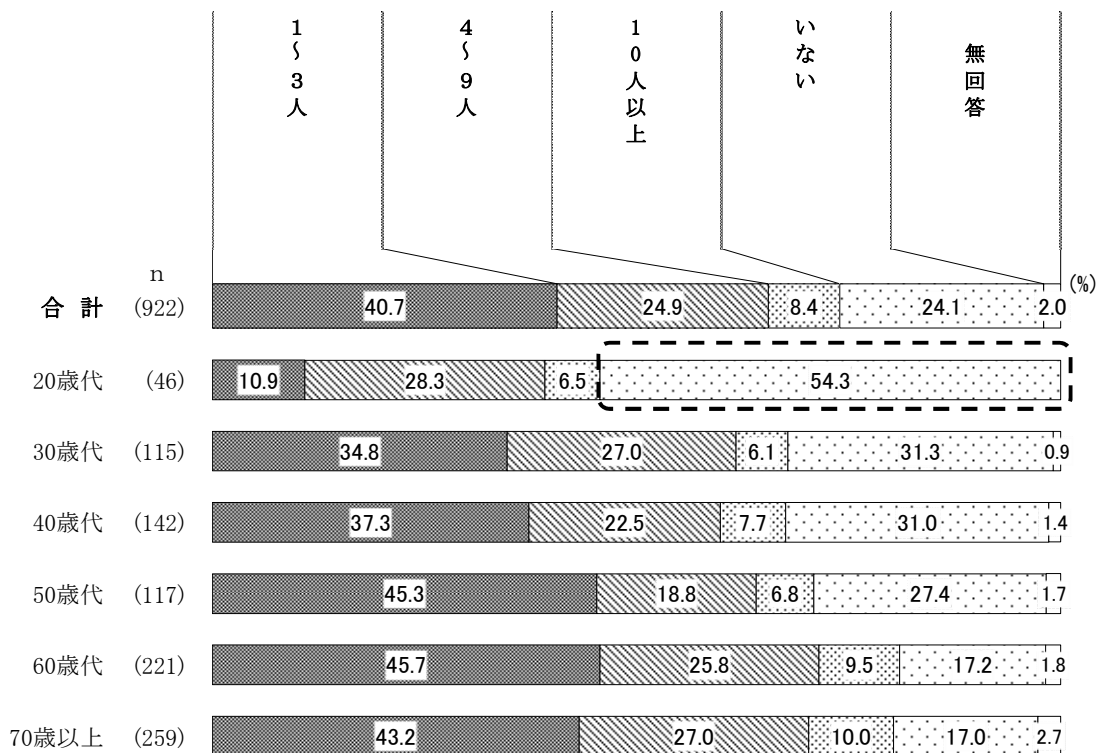
普段、親しくお付き合いをされている方の人数は、40.7%の人が「1～3人」と回答しています。一方「いない」との回答は24.1%となっています。

年代別で見ると、親しくお付き合いをされている人が「いない」との回答は、20歳代で54.3%と最も多くなっています。

家族構成別で見ると、親しくお付き合いをされている方が「いない」との回答は、夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）で38.2%と最も多く、次いで単身（ひとり暮らし）（25.3%）と続いています。



【年代別】



【家族構成別】(単位：%)

		回答数 (件)	1 ～ 3 人	4 ～ 9 人	10 人 以上	い な い	無 回 答
合 計		922	40.7	24.9	8.4	24.1	2.0
家 族 構 成 別	単身 (ひとり暮らし)	229	40.2	24.9	8.3	25.3	1.3
	夫婦のみ(夫婦とも 65歳未満)	123	36.6	20.3	4.9	38.2	-
	夫婦のみ(夫婦とも 65歳以上)	111	38.7	28.8	10.8	17.1	4.5
	夫婦のみ(夫または 妻が65歳以上)	32	46.9	34.4	3.1	9.4	6.3
	二世世代家族 (親と子)	310	42.9	24.8	9.7	21.3	1.3
	三世世代家族 (親と子と孫)	52	40.4	30.8	9.6	17.3	1.9
	兄弟姉妹のみ	13	38.5	15.4	7.7	30.8	7.7
	その他	17	23.5	23.5	5.9	47.1	-

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【単身(ひとり暮らし)の年代別詳細】(単位：%)

		回答数 (件)	1 ～ 3 人	4 ～ 9 人	10 人 以上	い な い	無 回 答
合 計		229	40.2	24.9	8.3	25.3	1.3
年 代 別	20代	19	5.3	42.1	5.3	47.4	-
	30～50代	74	33.8	21.6	8.1	35.1	1.4
	60代以上	135	48.9	24.4	8.9	16.3	1.5

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

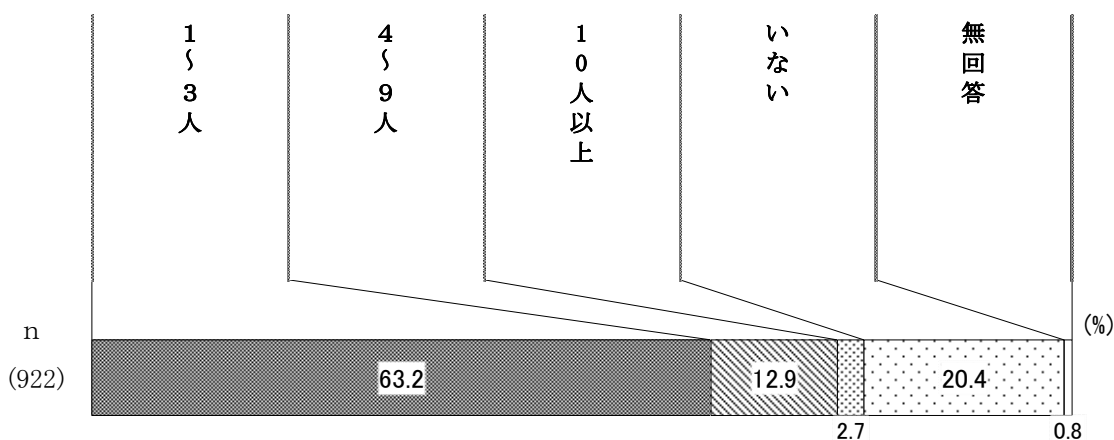
(3) 相談相手人数

問9 身近に相談できる人は何人くらいいますか。(〇は1つのみ)

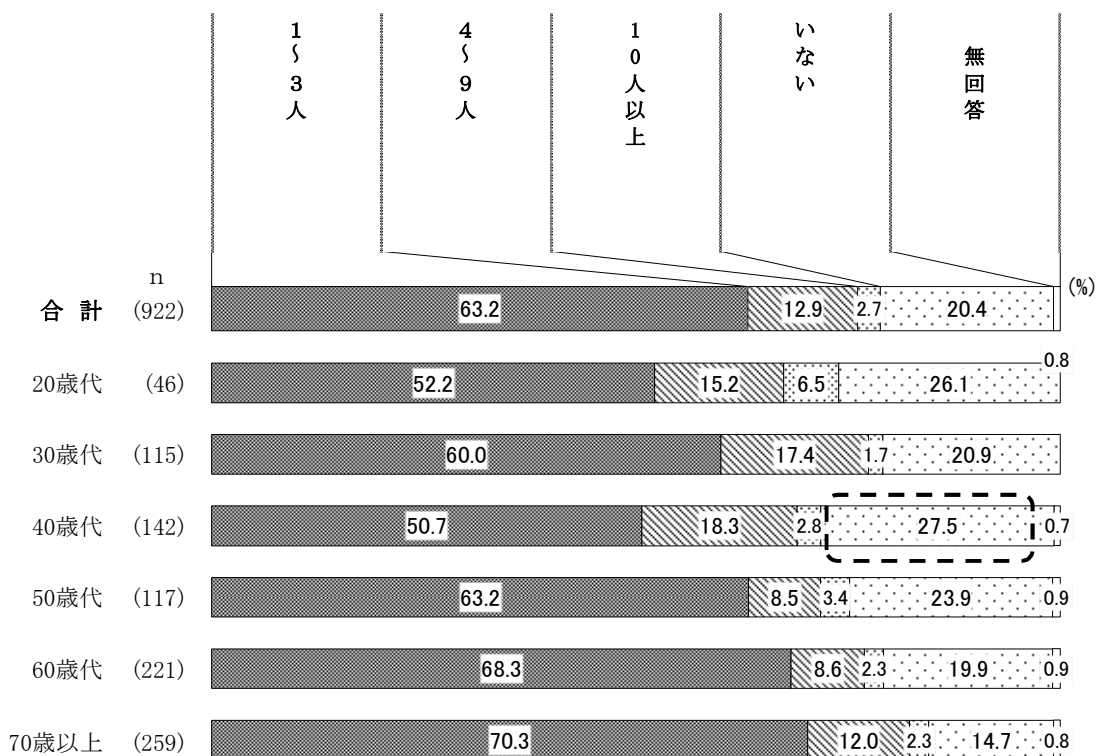
身近に相談できる人の人数は、63.2%の人が「1～3人」と回答しています。一方「いない」との回答は20.4%となっています。

年代別でみると、身近で相談できる人が「いない」との回答は、40歳代で27.5%と最も多くなっています。

家族構成別でみると、身近で相談できる人が「いない」との回答は、夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）で27.6%と最も多く、次いで単身（ひとり暮らし）（25.8%）と続いています。



【年代別】



【家族構成別】(単位：%)

		回答数 (件)	1 ～ 3 人	4 ～ 9 人	10 人 以上	い な い	無 回 答
合 計		922	63.2	12.9	2.7	20.4	0.8
家 族 構 成 別	単身 (ひとり暮らし)	229	60.7	10.0	3.5	25.8	-
	夫婦のみ(夫婦とも 65歳未満)	123	59.3	10.6	2.4	27.6	-
	夫婦のみ(夫婦とも 65歳以上)	111	73.0	9.0	2.7	13.5	1.8
	夫婦のみ(夫または 妻が65歳以上)	32	65.6	15.6	-	18.8	-
	二世世代家族 (親と子)	310	62.9	16.5	2.9	17.1	0.6
	三世世代家族 (親と子と孫)	52	73.1	9.6	1.9	13.5	1.9
	兄弟姉妹のみ	13	61.5	15.4	-	15.4	7.7
	その他	17	52.9	23.5	-	23.5	-

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【単身(ひとり暮らし)の年代別詳細】(単位：%)

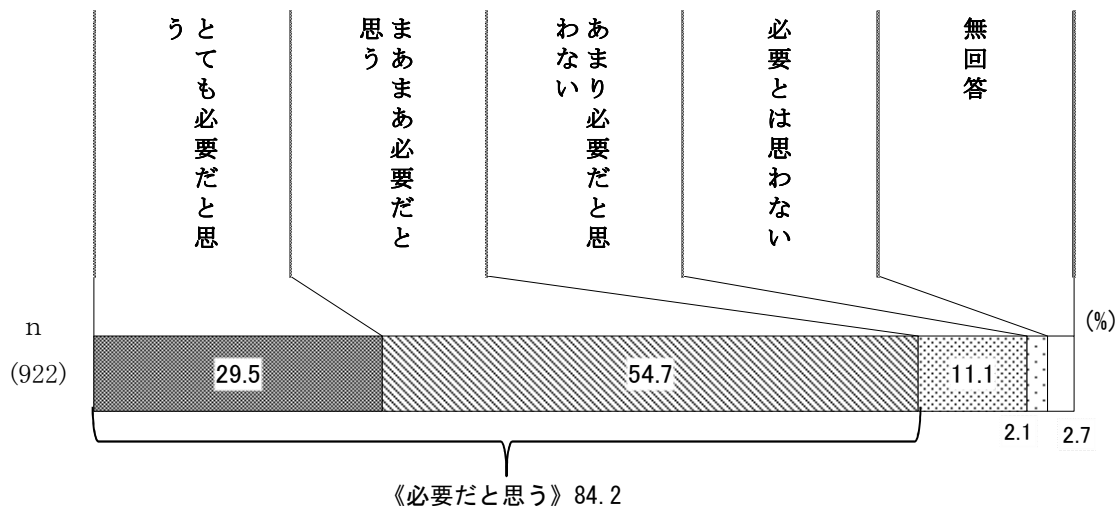
単身 (ひとり暮らし)		回答数 (件)	1 ～ 3 人	4 ～ 9 人	10 人 以上	い な い	無 回 答
合 計		229	60.7	10.0	3.5	25.8	-
年 代 別	20代	19	52.6	10.5	10.5	26.3	-
	30～50代	74	54.1	10.8	1.4	33.8	-
	60代以上	135	65.9	9.6	3.7	20.7	-

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

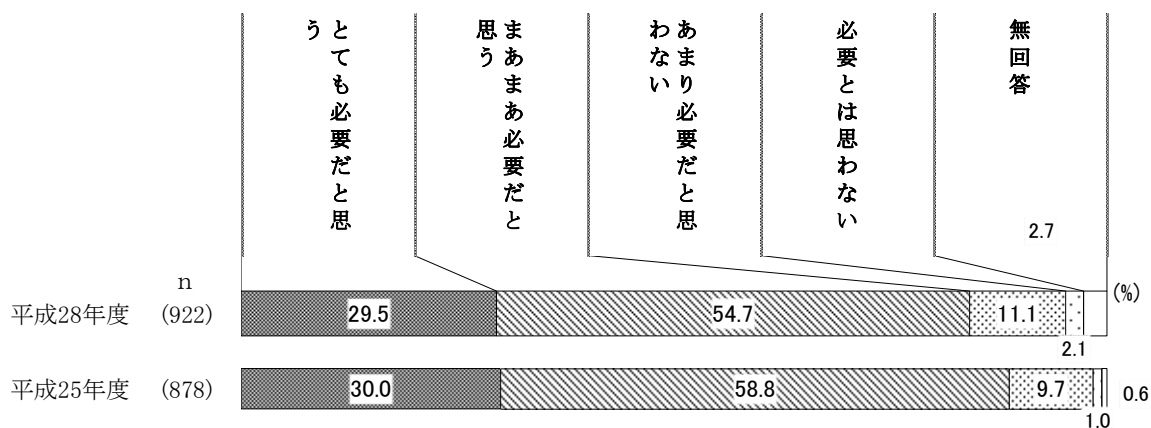
(4) 支え合いや助け合いの必要性

問10 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(〇は1つのみ)

住民同士の支え合いや助け合いについては、54.7%の人が「まあまあ必要だと思う」と回答しており、「とても必要だと思う」(29.5%)と合わせた《必要だと思う》層は約8割となっています。前回調査と比べると、《必要だと思う》との回答は4.6ポイント下がっています。



【前回調査との比較】



[参考]平成22年度調査

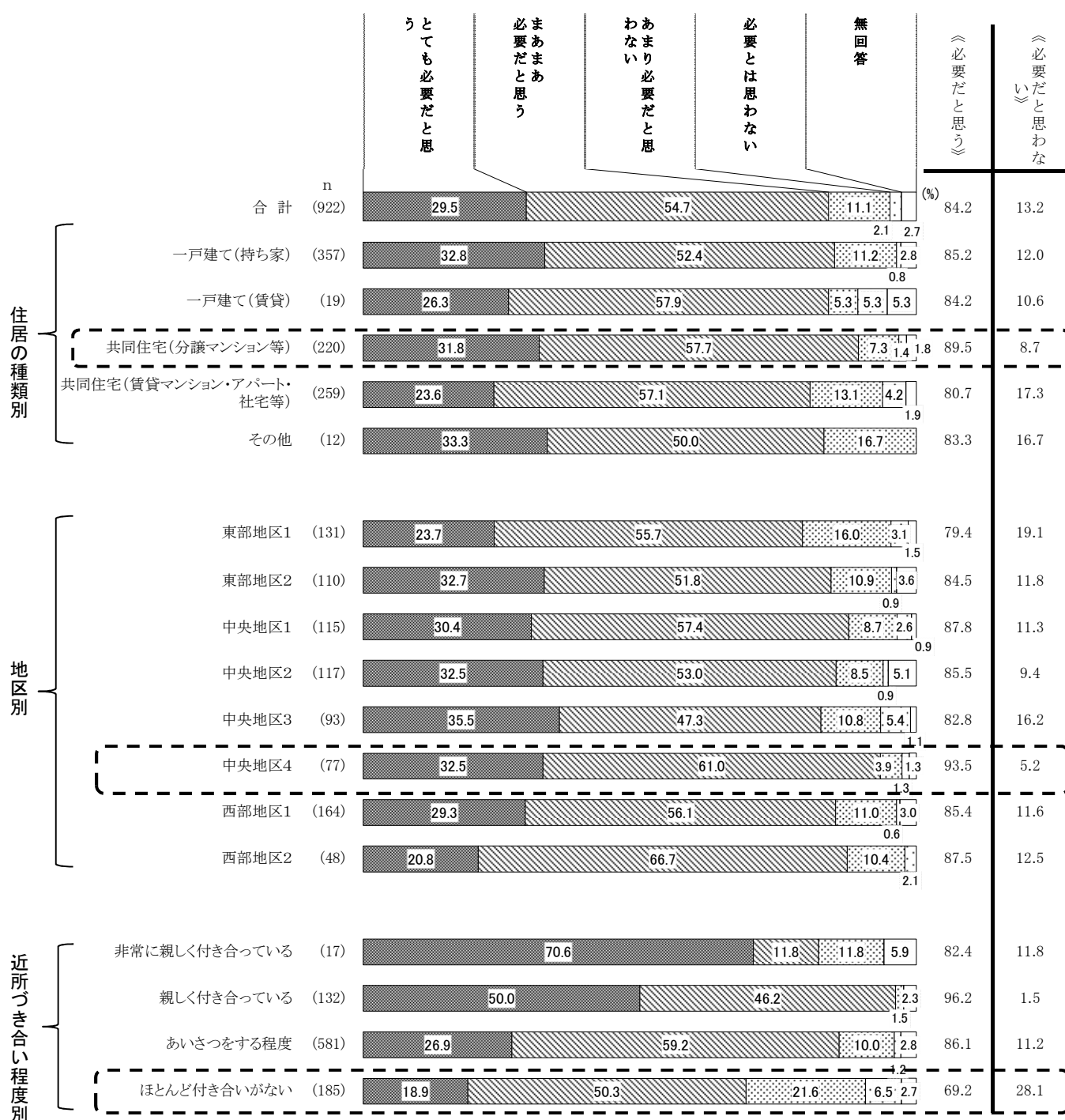
	必要だと思う	必要だと思わない	わからない	無回答
N=1,188	82.7%	4.0%	11.0%	2.3%

住居の種類別でみると、《必要だと思う》との回答は、共同住宅（分譲マンション等）で89.5%と最も多くなっています。

地区別でみると、地域によるばらつきがあり、《必要だと思う》との回答は、中央地区4で93.5%と最も多くなっています。

近所づき合い程度別でみると、ほとんど付き合いがない場合、支え合いや助け合いを《必要だとは思わない》との回答が28.1%と多くなっています。

【住居の種類別・地区別・近所づき合い程度別】



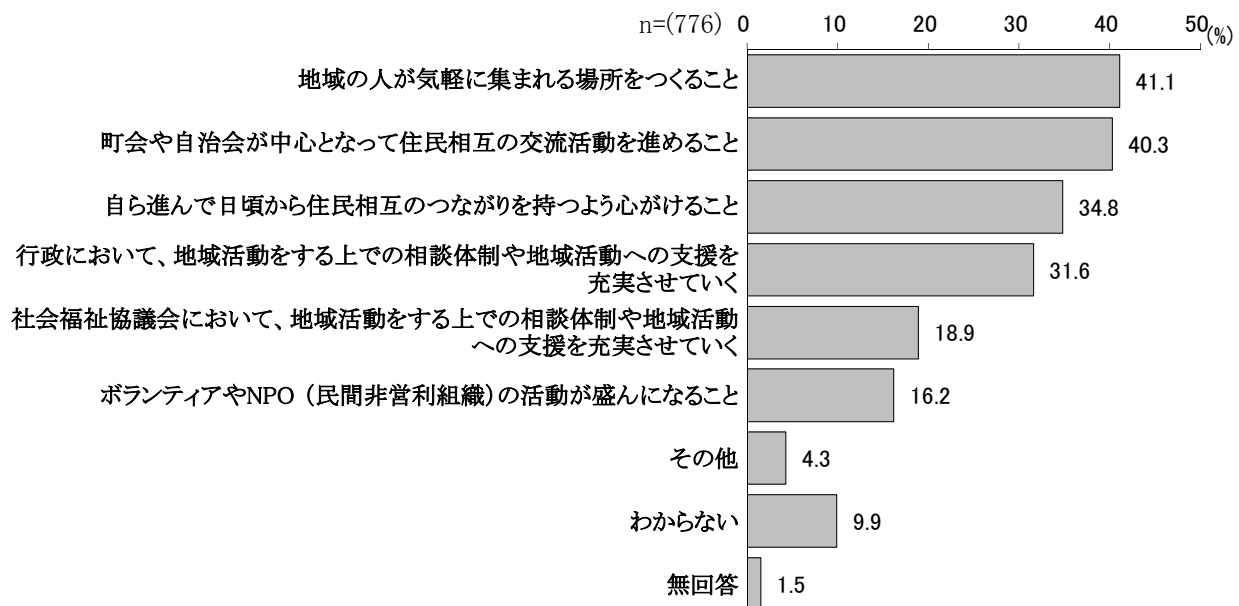
(5) 支え合いや助け合いに必要な取り組み

【問10で「1. とても必要だと思う」、「2. まあまあ必要だと思う」とお答えの方に】

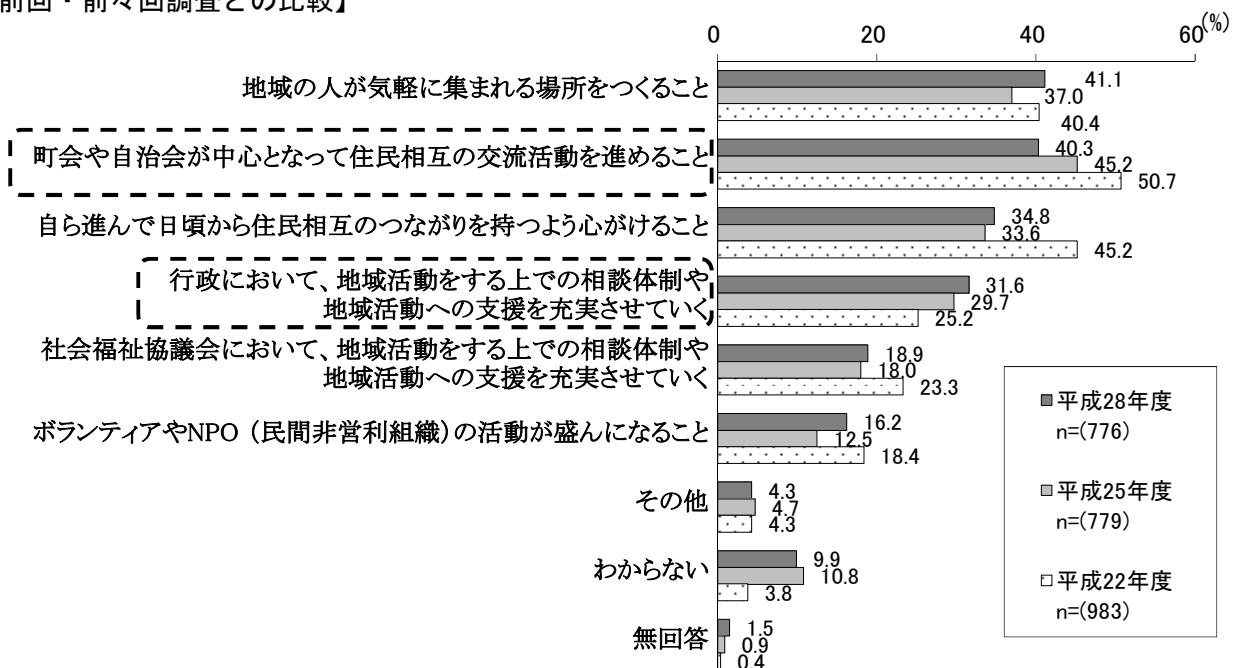
問10-1 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするために必要な取組みとしては、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」をあげる人が41.1%と最も多く、次いで「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」(40.3%)、「自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること」(34.8%)と続いています。

前回・前々回調査と比べると、必要な取組みとして、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」との回答が減り、かわりに「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」との回答が増えています。



【前回・前々回調査との比較】



年代別でみると、50歳代までは「地域の人気軽が集まれる場所をつくること」、60歳代以上では「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」との回答が多くなっています。

【年代別】(単位：%)

		回答数(件)	地域の人気軽が集まれる場所をつくること	町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること	自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること	いく	行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく	充実させていく	社会福祉協議会において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく	ボランティアやNPO(民間非営利組織)の活動が盛んになること	その他	わからない	無回答
合計		776	41.1	40.3	34.8	31.6	18.9	16.2	4.3	9.9	1.5		
年代別	20歳代	35	37.1	20.0	25.7	34.3	22.9	14.3	-	8.6	-		
	30歳代	97	44.3	33.0	37.1	27.8	19.6	17.5	4.1	7.2	-		
	40歳代	118	41.5	35.6	39.0	33.1	16.9	19.5	3.4	11.9	1.7		
	50歳代	105	37.1	33.3	27.6	33.3	27.6	19.0	5.7	14.3	-		
	60歳代	184	37.5	38.0	38.6	34.8	19.6	15.2	3.8	8.2	1.1		
	70歳以上	221	44.8	52.9	32.1	27.6	13.6	12.7	5.4	10.4	3.2		

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【家族構成別】(単位：%)

		回答数(件)	地域の人気軽が集まれる場所をつくること	町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること	自ら進んで日頃から住民相互のつながりを持つよう心がけること	いく	行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく	充実させていく	社会福祉協議会において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく	ボランティアやNPO(民間非営利組織)の活動が盛んになること	その他	わからない	無回答
合計		776	41.1	40.3	34.8	31.6	18.9	16.2	4.3	9.9	1.5		
住居種別	一戸建て(持ち家)	304	37.8	44.4	35.2	29.9	18.4	12.8	4.9	9.2	1.3		
	一戸建て(賃貸)	16	18.8	56.3	37.5	25.0	31.3	31.3	6.3	6.3	-		
	共同住宅(分譲マンション等)	197	37.6	37.6	36.5	31.5	19.3	18.3	2.0	13.2	2.0		
	共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	209	47.8	32.1	33.5	32.5	18.7	19.6	4.3	9.1	1.9		
	その他	10	30.0	50.0	30.0	40.0	40.0	-	20.0	-	-		

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

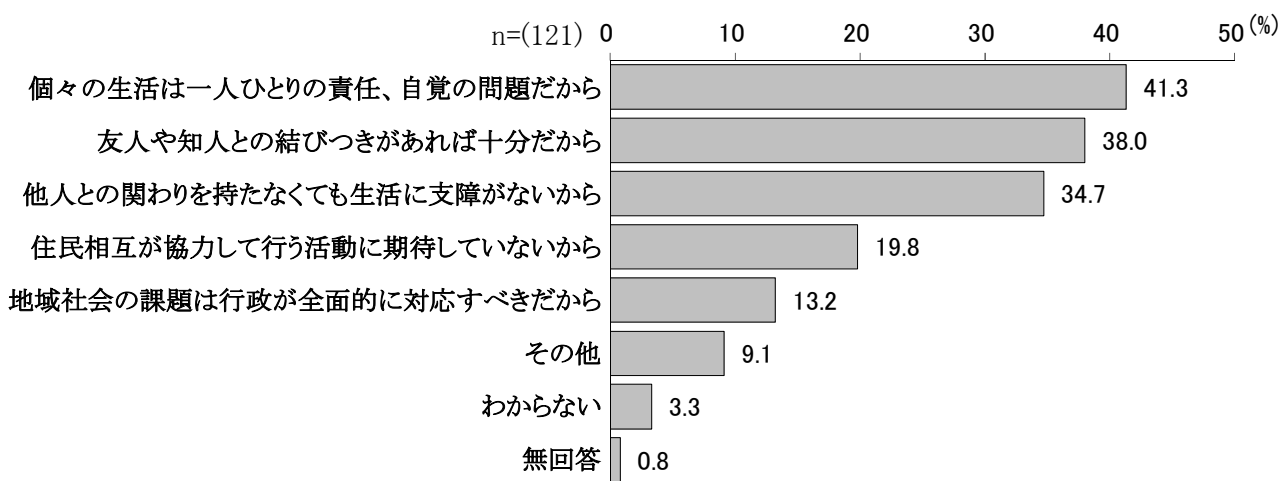
(6) 支え合いや助け合いが必要ない理由

【問10で「3. あまり必要だと思わない」、「4. 必要とは思わない」とお答えの方に】

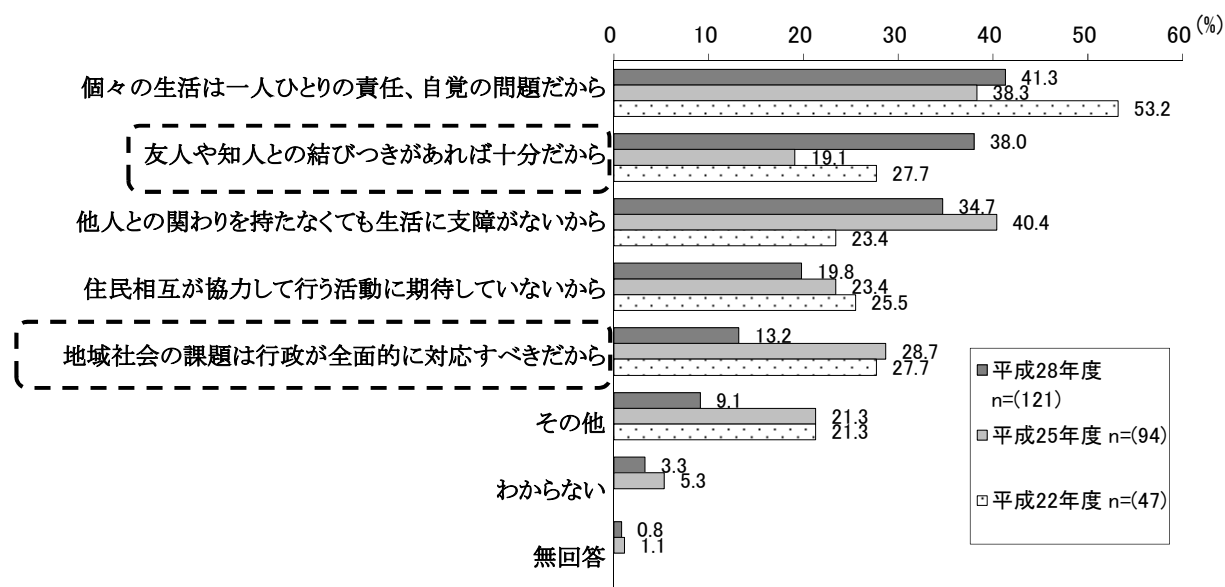
問10-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思う理由としては、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」をあげる人が41.3%と最も多く、次いで「友人や知人との結びつきがあれば十分だから」(38.0%)、「他人との関わりを持たなくても生活に支障がないから」(34.7%)と続いています。

前回・前々回調査と比べると、必要がない理由として、「友人や知人との結びつきがあれば十分だから」との回答が前回に比べて約2倍に増える一方で、「地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから」との回答は半分以下に減りました。



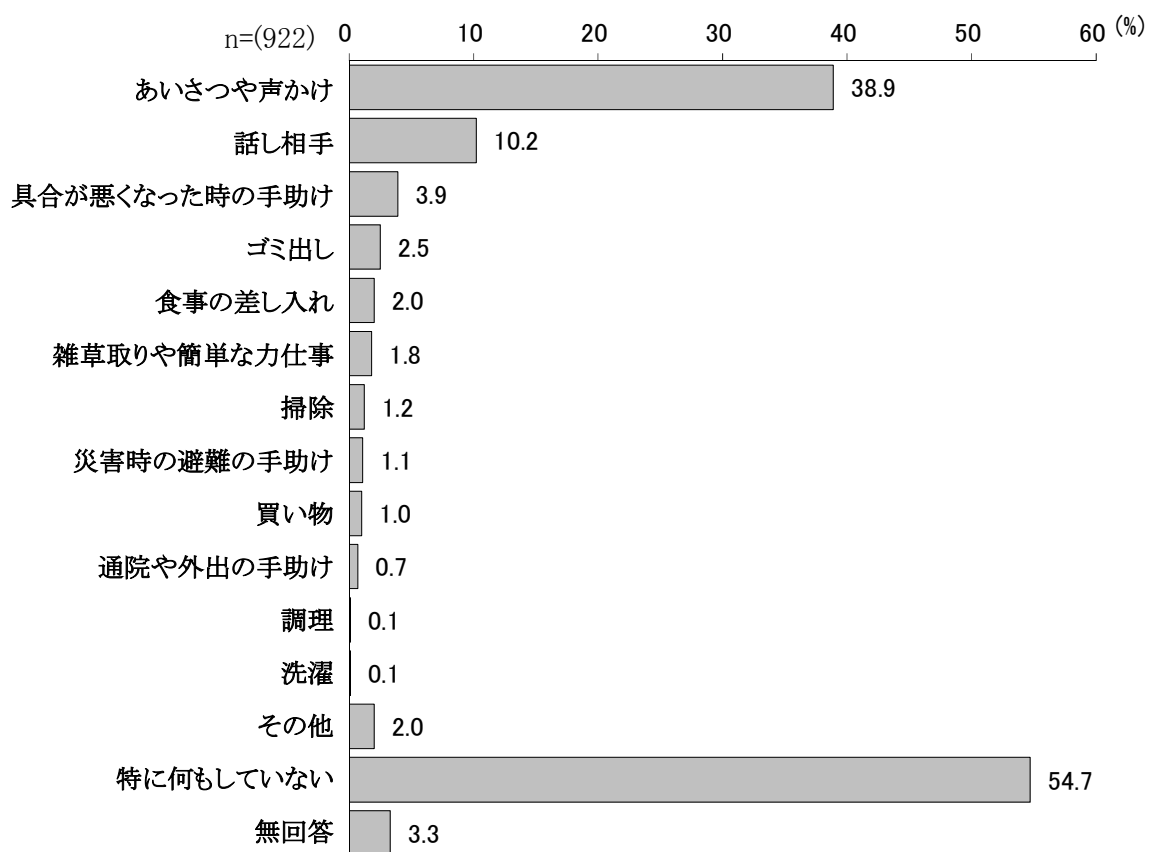
【前回・前々回調査との比較】



(7) 手助けしていること

問11 近隣の高齢者等の家庭に対し手助けしていることはありますか。(〇はいくつでも)

近隣の高齢者等の家庭に対して手助けしていることについては、「あいさつや声かけ」をあげる人が38.9%と最も多く、次いで「話し相手」(10.2%)、「具合が悪くなった時の手助け」(3.9%)と続いています。一方、約5割の人は「特に何もしていない」(54.7%)と回答しています。



第2章 調査結果の詳細

年代別でみると、年代が高くなるほど、「特に何もしていない」との回答は減ってきており、また「あいさつや声かけ」との回答が増えています。

居住種類別でみると、共同住宅の場合では「特に何もしていない」状況が6割台となっており、一戸建てに比べて多くなっています。

【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	あいさつや声かけ	話し相手	具合が悪くなった時の 手助け	ゴミ出し	食事の差し入れ	事 雑草取りや簡単な力仕	掃除	災害時の避難の手助け
合 計	922	38.9	10.2	3.9	2.5	2.0	1.8	1.2	1.1
年代別	20歳代	46	17.4	-	2.2	-	2.2	-	-
	30歳代	115	28.7	4.3	1.7	-	-	-	0.9
	40歳代	142	29.6	7.7	2.1	-	1.4	-	1.4
	50歳代	117	39.3	6.8	0.9	0.9	0.9	0.9	-
	60歳代	221	45.2	14	5.4	3.6	1.4	2.7	0.9
	70歳以上	259	45.6	13.5	5.8	4.6	4.6	3.5	2.3

	買い物	通院や外出の手助け	調理	洗濯	その他	特に何もしていない	無回答
合 計	1.0	0.7	0.1	0.1	2.0	54.7	3.3
年代別	20歳代	-	-	-	-	80.4	-
	30歳代	0.9	-	-	-	70.4	0.9
	40歳代	0.7	0.7	-	-	66.2	3.5
	50歳代	0.9	-	-	-	53.8	4.3
	60歳代	1.8	1.4	-	0.5	51.1	1.8
	70歳以上	0.8	0.8	0.4	-	42.1	4.6

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

【近所づき合いの程度別（問7）】（単位：％）

		回答数 (件)	あいさつや声かけ	話し相手	具合が悪くなった時の 手助け	ゴミ出し	食事の差し入れ	事 雑草取りや簡単な力仕	掃除	災害時の避難の手助け
合 計		922	38.9	10.2	3.9	2.5	2.0	1.8	1.2	1.1
近所づき合いの程度別	非常に親しく付き合っている	17	82.4	35.3	17.6	17.6	17.6	11.8	5.9	11.8
	親しく付き合っている	132	59.1	25.8	11.4	5.3	4.5	-	2.3	1.5
	あいさつをする程度	581	41.5	8.3	2.4	1.9	1.4	2.2	1.2	0.9
	ほとんど付き合っていない	185	11.4	1.6	1.1	0.5	0.5	0.5	-	0.5

		買い物	通院や外出の手助け	調理	洗濯	その他	特に何もしていない	無回答
合 計		1.0	0.7	0.1	0.1	2.0	54.7	3.3
近所づき合いの程度別	非常に親しく付き合っている	11.8	11.8	-	5.9	-	11.8	-
	親しく付き合っている	3.0	0.8	0.8	-	4.5	31.1	2.3
	あいさつをする程度	0.5	0.3	-	-	1.0	53.0	3.4
	ほとんど付き合っていない	-	0.5	-	-	3.2	81.6	3.8

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

第2章 調査結果の詳細

【住居の種類別】（単位：％）

		回答数 (件)	あいさつや声かけ	話し相手	具合が悪くなった時の 手助け	ゴミ出し	食事の差し入れ	雑草取りや簡単な力仕事	掃除	災害時の避難の手助け
合 計		922	38.9	10.2	3.9	2.5	2.0	1.8	1.2	1.1
住居の種類別	一戸建て（持ち家）	357	49.9	15.7	5	4.2	2.8	2.5	2	1.1
	一戸建て（賃貸）	19	36.8	10.5	10.5	10.5	5.3	10.5	5.3	5.3
	共同住宅（分譲マンション等）	220	31.4	5	1.4	-	0.9	0.9	-	0.5
	共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）	259	27.8	6.6	3.1	1.5	1.2	0.8	1.2	1.2
	その他	12	50	8.3	8.3	8.3	-	8.3	-	8.3

		買い物	通院や外出の手助け	調理	洗濯	その他	特に何もしていない	無回答
合 計		1.0	0.7	0.1	0.1	2.0	54.7	3.3
住居の種類別	一戸建て（持ち家）	1.1	0.8	0.3	-	1.7	42.9	3.1
	一戸建て（賃貸）	5.3	5.3	-	5.3	-	57.9	5.3
	共同住宅（分譲マンション等）	0.5	0.9	-	-	1.4	61.8	4.1
	共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）	0.8	-	-	-	1.9	66.8	2.7
	その他	8.3	-	-	-	16.7	41.7	-

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

4. 地域での活動

地域での活動状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【地域活動やボランティア活動の現状】

- ・「地域活動への参加経験（問12）」について、6割強の方が「いずれにも参加していない」と回答しています。前回調査と比べて、大きな差はみられません。年代が高くなるほど、「いずれにも参加していない」は減少しています。活動内容では、「町会・自治会の活動」は70歳以上、「子ども会・PTAの活動」は40歳代で多くなっています。（P52～P54参照）
- ・「地域活動に参加しない理由（問12-1）」について、年代別でみると、60歳代までは「仕事が忙しかったから」、70歳以上では「自分が参加したい活動や団体等が見つからなかったから」との回答が最も多くなっています。（P56参照）

【今後の地域活動やボランティア活動に向けて】

- ・「地域活動への参加意向（問12-2）」について、年代別でみると、20歳代では「時間に余裕が持てるようになったら参加してみたい」、30歳代以降では「興味を持てる活動があれば参加してみたい」との回答が多くなっています。（P58参照）
- ・「地域活動への参加に必要なこと（問14）」について、年代別でみると、20歳代では「活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる」との回答が5割で多く、30歳代から60歳代では、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」や「活動についての具体的な情報を広く紹介する」が5割を超えています。（P63参照）

■調査結果から見受けられる課題について

【地域活動やボランティア活動とその阻害要因について】

- ・地域活動やボランティア活動に参加しない理由として、「仕事が忙しかったから」の次に注目すると、30歳代から50歳代で「どうやったら参加できるか方法がわからない」、40歳代から60歳代で「興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから」が上位にあげられており、参加の情報や周りからの誘いといった、活動の入口支援の重要性がうかがえます。（P56参照）

【地域活動やボランティア活動の参加促進に向けて】

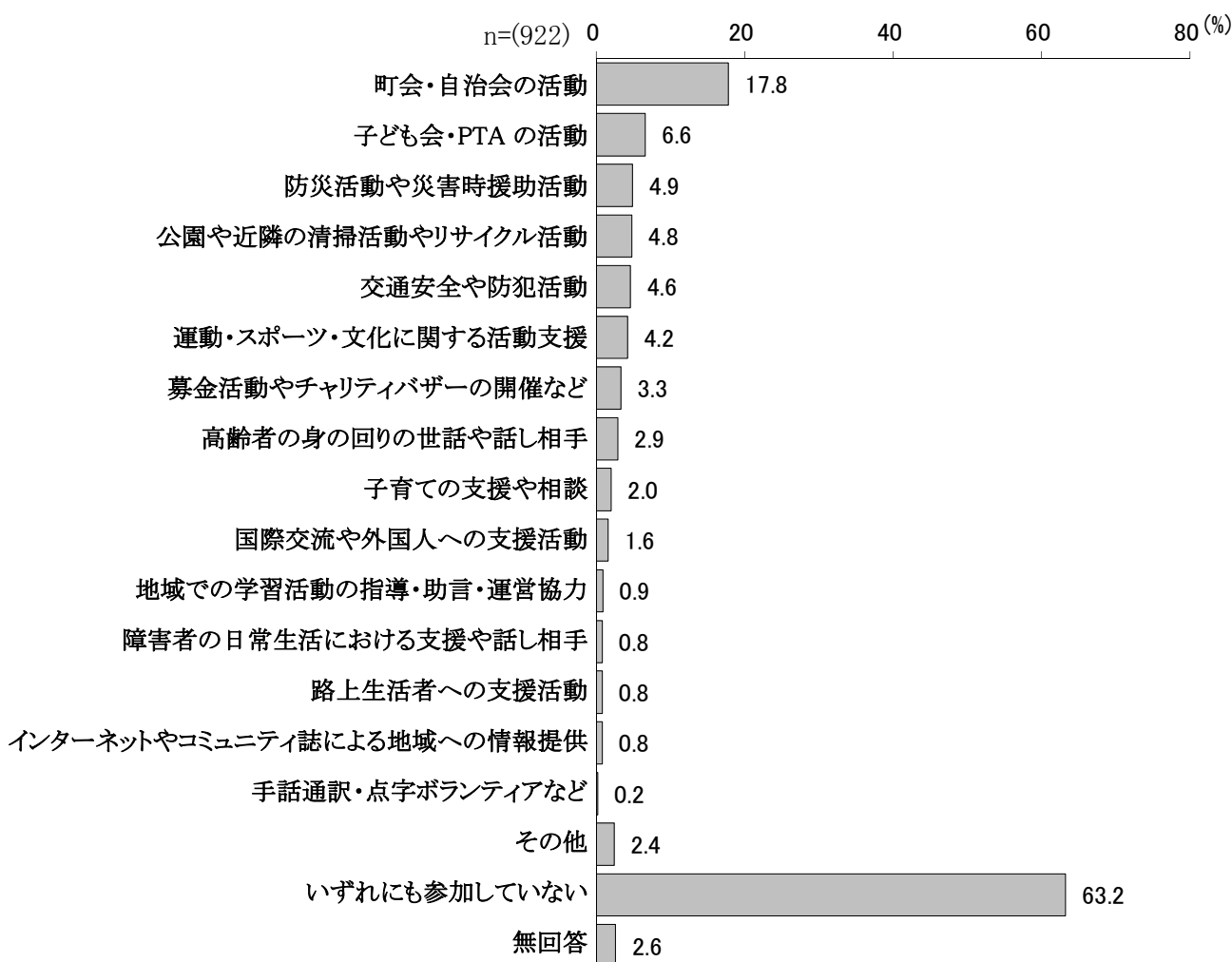
- ・参加に必要なこととして、30歳代以降では、参加方法や活動内容の具体的な情報の紹介があげられています。そして、60歳代からは「日頃から地域の人々との付き合いを深める」が上位3位に入ってきており、リタイア後の地域とのつながりの重要性がうかがえます。（P63参照）

(1) 地域活動への参加経験

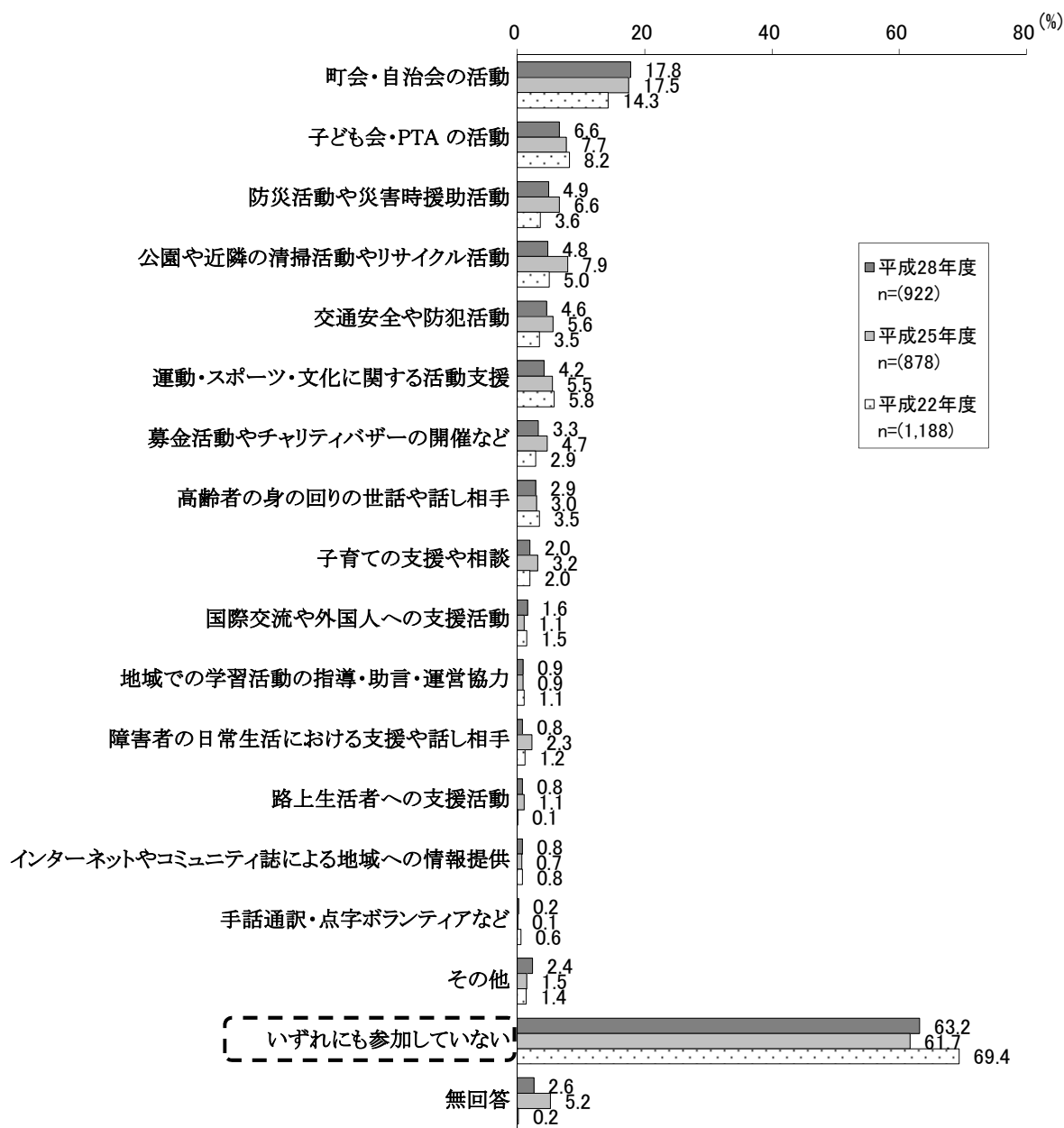
問12 過去1年くらいの中に、以下のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

最も活動した人が多い地域活動・ボランティア活動は「町会・自治会の活動」で、17.8%の人が活動していますが、約6割の人は「いずれにも参加していない」(63.2%)と回答しています。

前回・前々回調査と比べると、「いずれにも参加していない」との回答は前々回調査より6.2ポイント減りましたが、前回調査とは大きな差は見られません。



【前回・前々回調査との比較】



第2章 調査結果の詳細

年代別でみると、「町会・自治会の活動」は年代が高くなるほど増加し、「いずれにも参加していない」は、年代が高くなるほど、減少する傾向がみられます。

【年代別】（単位：％）

	回答数 (件)	町会・自治会の活動	子ども会・PTAの活動	防災活動や災害時援助活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	交通安全や防犯活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	募金活動やチャリティバザーの開催など	高齢者の身の回りの世話や話し相手	子育ての支援や相談
合計	922	17.8	6.6	4.9	4.8	4.6	4.2	3.3	2.9	2.0
年代別	20歳代	46	4.3	2.2	-	-	4.3	4.3	-	6.5
	30歳代	115	9.6	10.4	-	5.2	1.7	2.6	0.9	5.2
	40歳代	142	14.1	21.1	4.2	3.5	5.6	0.7	1.4	0.7
	50歳代	117	17.9	9.4	3.4	1.7	1.7	4.3	1.7	3.4
	60歳代	221	19.9	2.3	8.6	6.3	5.0	4.5	2.3	0.9
	70歳以上	259	23.6	0.8	5.8	6.6	6.2	6.6	6.2	0.8

	国際交流や外国人への支援活動	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	障害者の日常生活における支援や話し相手	路上生活者への支援活動	インターネットやコミュニティ誌による地域への情報提供	手話通訳・点字ボランティアなど	その他	いずれにも参加していない	無回答
合計	1.6	0.9	0.8	0.8	0.8	0.2	2.4	63.2	2.6
年代別	20歳代	6.5	-	-	-	-	-	78.3	-
	30歳代	1.7	-	-	0.9	2.6	0.9	72.2	-
	40歳代	0.7	0.7	1.4	0.7	-	-	64.8	0.7
	50歳代	0.9	0.9	-	-	-	0.9	66.7	1.7
	60歳代	2.3	0.5	-	1.4	1.8	-	62.9	1.4
	70歳以上	1.2	1.9	1.9	0.8	-	-	54.8	6.6

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

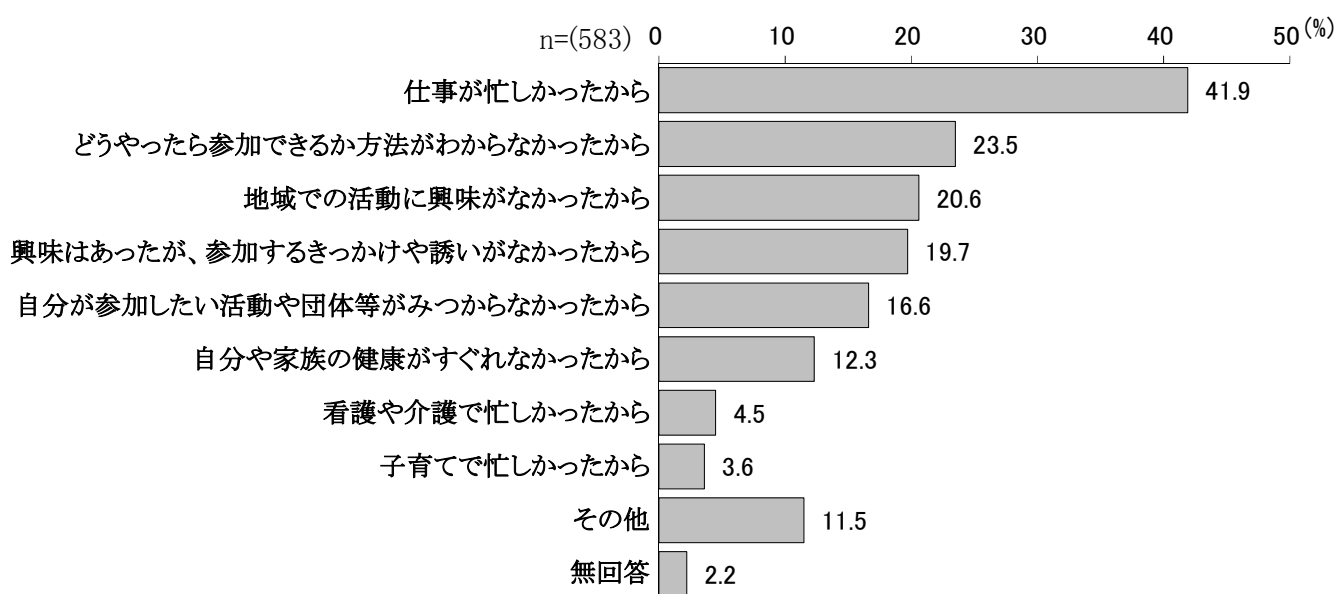
(2) 地域活動に参加しない理由

【問12で「17. いずれにも参加していない」とお答えの方に】

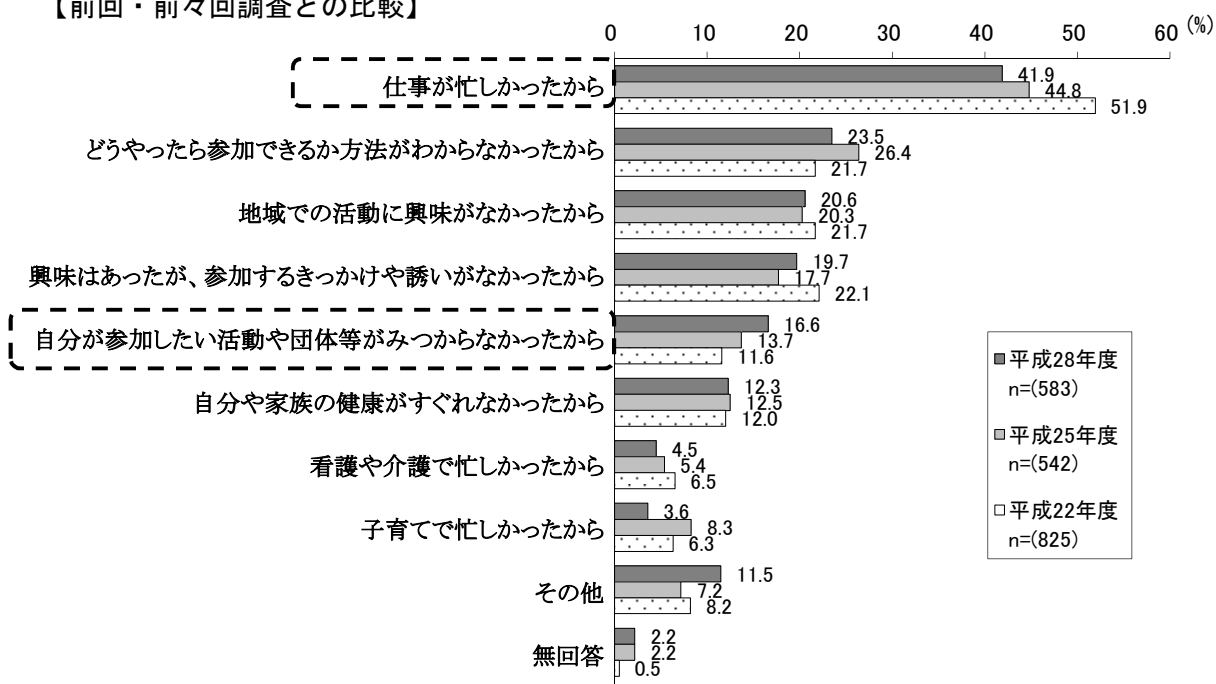
問12-1 参加しなかった主な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。(〇はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった理由としては、「仕事が忙しかったから」との回答が41.9%と最も多く、次いで「どうやったら参加できるか方法がわからなかったから」(23.5%)、「地域での活動に興味がなかったから」(20.6%)と続いています。

前回・前々回調査と比べると、「仕事が忙しかったから」との回答は減ってきており、「自分が参加したい活動や団体等が見つからなかったから」が増えてきています。



【前回・前々回調査との比較】



第2章 調査結果の詳細

年代別でみると、60歳代以下では「仕事が忙しかったから」、70歳以上になると「自分が参加したい活動や団体等が見つからなかったから」との回答がそれぞれ最も多くなっています。

年代別にみた上位3位までの項目比較でみると、「どうやったら参加できるか方法がわからなかったから」が30～50歳代で2位、また「興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから」が40～60歳代で3位となっており、参加方法や参加のきっかけや誘いといった項目が上位にきています。

【年代別】（単位：％）

	回答数（件）	仕事が忙しかったから	か方法がわからなかった	どうやったら参加できる	地域での活動に興味がない	興味はあったが、参加するきっかけや誘いがなかったから	自分が参加したい活動や団体等が見つからなかった	自分や家族の健康がすぐれなかったから	看護や介護で忙しかったから	子育てで忙しかったから	その他	無回答
合計	583	41.9	23.5	20.6	19.7	16.6	12.3	4.5	3.6	11.5	2.2	
年代別	20歳代	36	63.9	22.2	36.1	16.7	16.7	8.3	-	5.6	5.6	2.8
	30歳代	83	48.2	41.0	26.5	19.3	13.3	3.6	2.4	12.0	10.8	-
	40歳代	92	53.3	29.3	20.7	23.9	14.1	8.7	3.3	8.7	12.0	-
	50歳代	78	55.1	23.1	7.7	20.5	12.8	17.9	6.4	-	17.9	2.6
	60歳代	139	46.0	15.8	23.0	16.5	13.7	14.4	5.8	-	9.4	3.6
	70歳以上	142	14.1	17.6	17.6	19.0	23.9	16.9	5.6	-	12.7	3.5

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【年代別にみた上位3位までの項目比較】

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	仕事が忙しかった	仕事が忙しかった	仕事が忙しかった	仕事が忙しかった	仕事が忙しかった	参加したい活動や団体等が見つからなかった
2位	活動に興味なかった	参加できる方法がわからなかった	参加できる方法がわからなかった	参加できる方法がわからなかった	活動に興味なかった	きっかけや誘いがなかった
3位	参加できる方法がわからなかった	活動に興味なかった	きっかけや誘いがなかった	きっかけや誘いがなかった	きっかけや誘いがなかった	参加できる方法がわからなかった
						活動に興味なかった

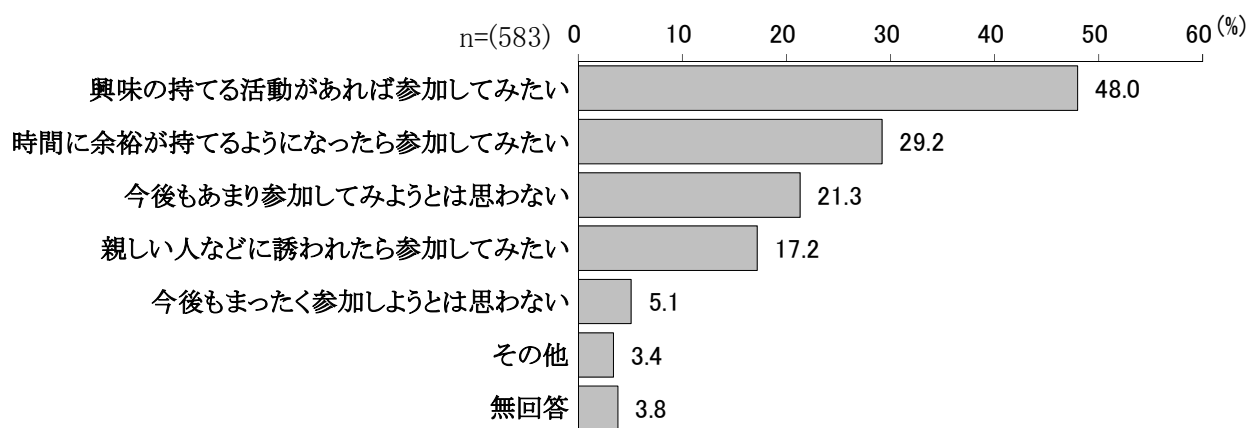
(3) 地域活動への参加意向

【問12で「17. いずれにも参加していない」とお答えの方に】

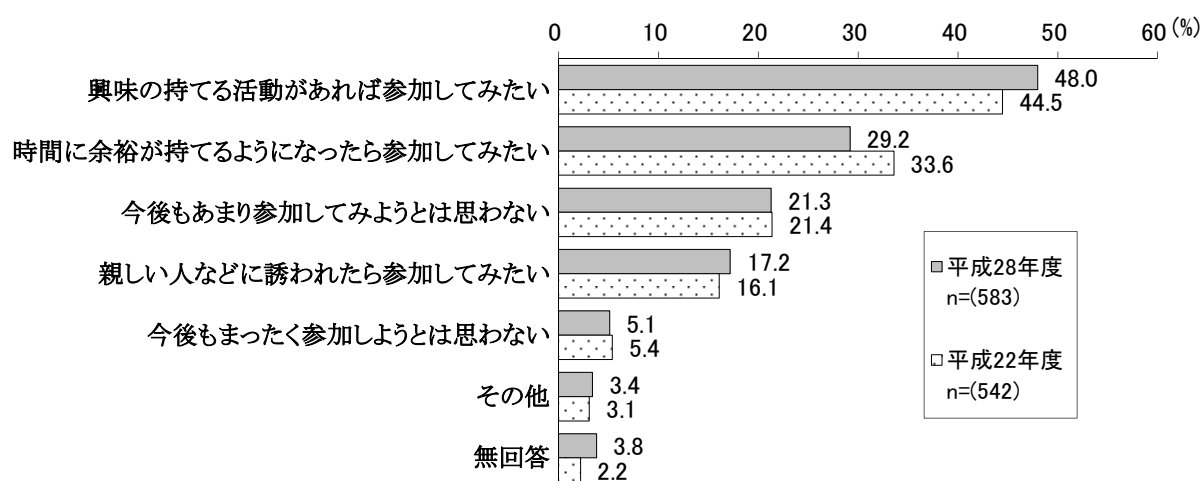
問12-2 今後参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった人に対して、今後の参加意向を尋ねたところ、「興味のある活動があれば参加してみたい」をあげる人が48.0%と最も多く、次いで「時間に余裕が持てるようになったら参加してみたい」(29.2%)、「今後もあまり参加してみようとは思わない」(21.3%)と続いています。

年代別でみると、20歳代では「時間に余裕が持てるようになったら参加してみたい」、30歳代以上では「興味のある活動があれば参加してみたい」との回答がそれぞれ最も多くなっています。「興味のある活動があれば参加してみたい」との回答は30歳代で56.6%と最も多くなっています。



【前々回調査との比較】



第2章 調査結果の詳細

【年代別】（単位：％）

	回答数 (件)	興味の 持てる活 動	時間に 余裕が持 てる	親しい 人などに 誘われて 参加する	今後 もあまり 参加しな い	今後 もまっ たく思 わな い	その他	無 回 答	
合 計	583	48.0	29.2	17.2	21.3	5.1	3.4	3.8	
年代別	20歳代	36	41.7	47.2	25.0	16.7	8.3	-	-
	30歳代	83	56.6	27.7	27.7	16.9	6.0	1.2	3.6
	40歳代	92	51.1	32.6	18.5	16.3	6.5	-	1.1
	50歳代	78	50.0	50.0	19.2	16.7	2.6	6.4	1.3
	60歳代	139	48.2	27.3	11.5	24.5	2.9	4.3	3.6
	70歳以上	142	40.1	13.4	13.4	28.9	6.3	5.6	6.3

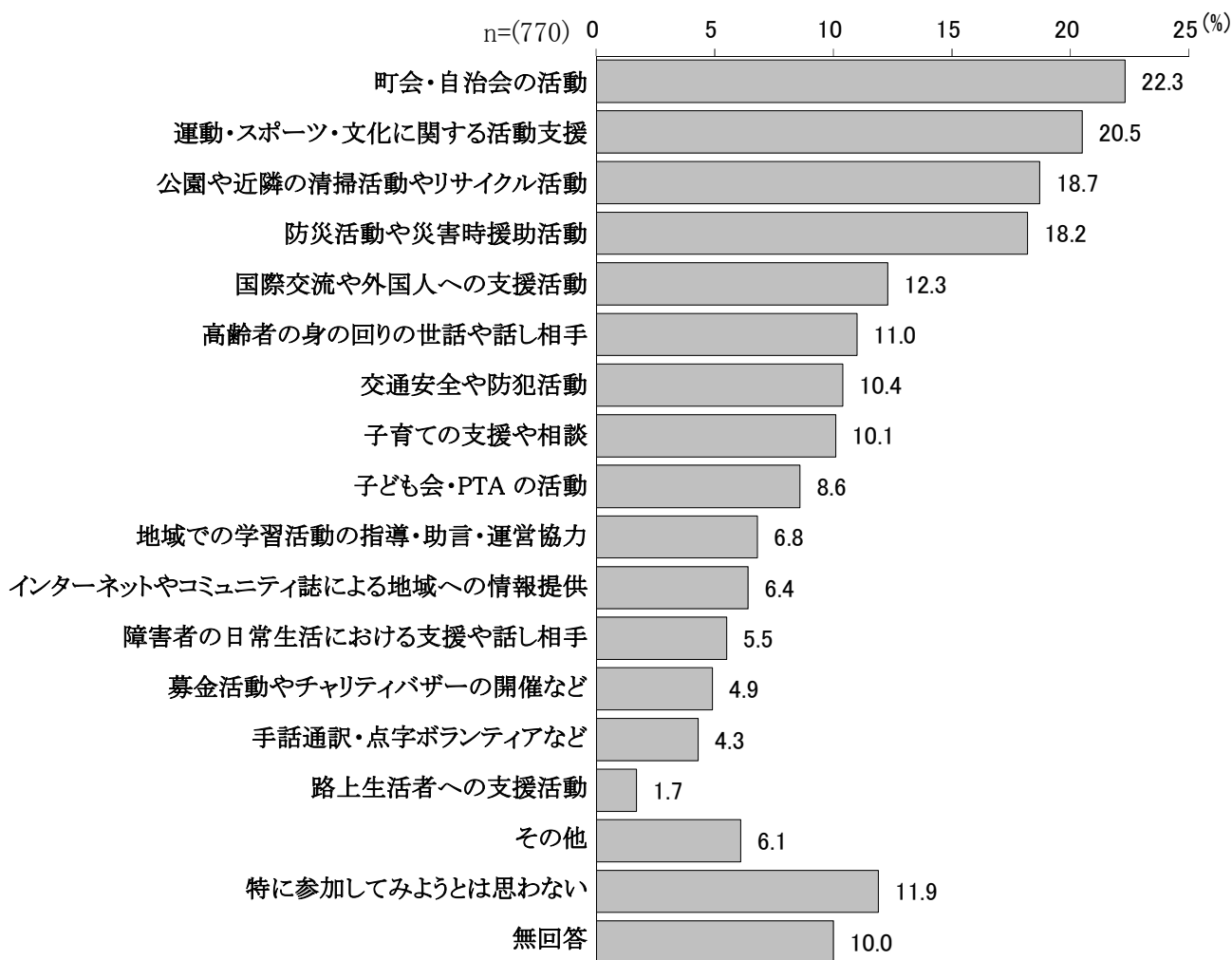
※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

(4) 参加したい地域活動

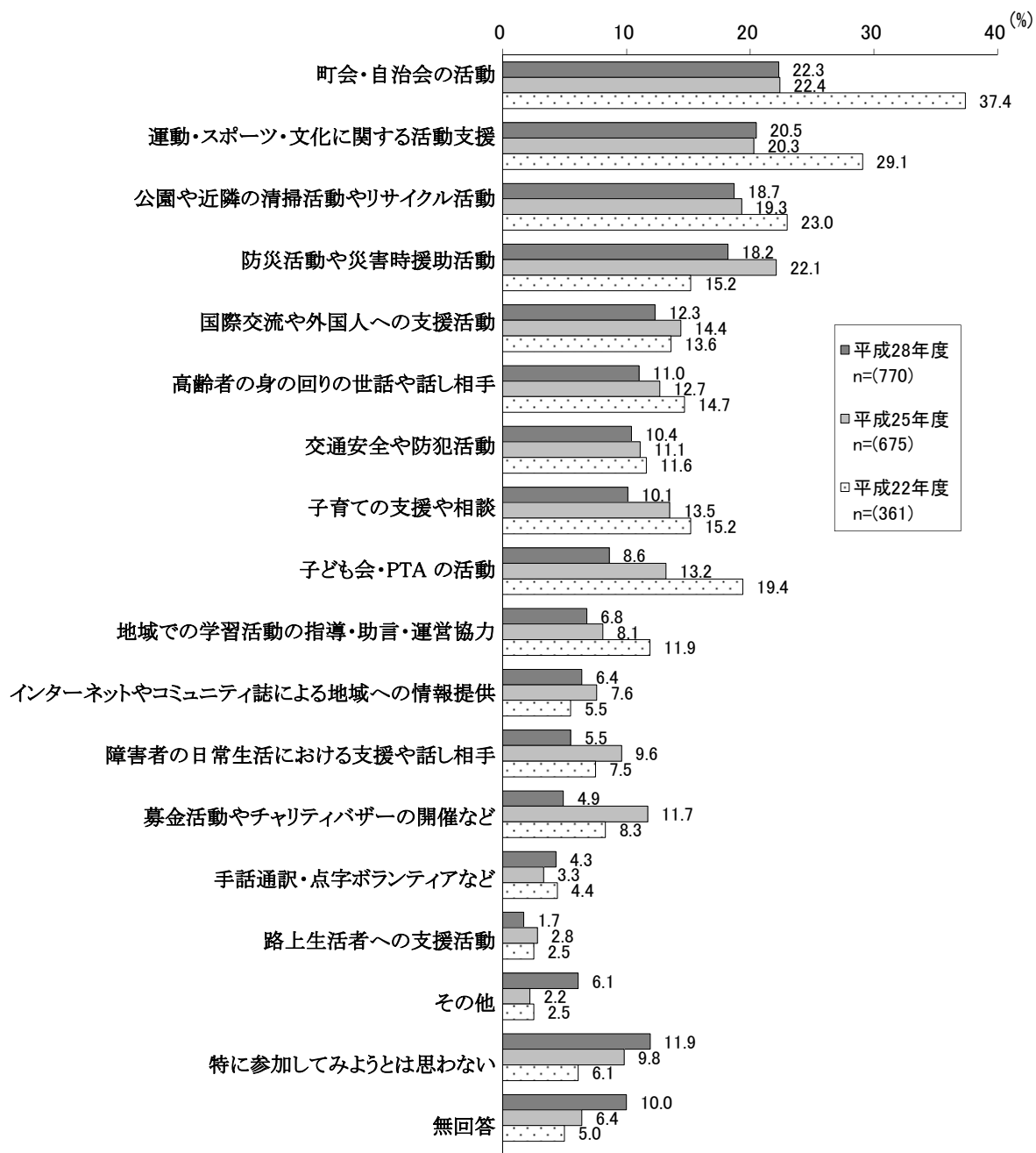
問13 今後、どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。
(〇はいくつでも)

今後、参加したい地域活動・ボランティア活動について、「町会・自治会の活動」をあげる人が22.3%と最も多く、次いで「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」(20.5%)、「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」(18.7%)と続いています。

年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なります。具体的には、20歳代では「国際交流や外国人への支援活動」、30歳代では「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」、40歳代では「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」と「防災活動や災害時援助活動」、60歳代以上では「町会・自治会の活動」との回答がそれぞれ最も多くなっています。



【前回・前々回調査との比較】



【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	町会・自治会の活動	運動・スポーツ・文 化に関する活動支援	公園や近隣の清掃活 動やリサイクル活動	防災活動や災害時援 助活動	国際交流や外国人へ の支援活動	高齢者の身の回りの 世話や話し相手	交通安全や防犯活動	子育ての支援や相談	子ども会・PTAの 活動	
合 計	770	22.3	20.5	18.7	18.2	12.3	11.0	10.4	10.1	8.6	
年代別	20歳代	37	10.8	29.7	21.6	16.2	32.4	5.4	8.1	13.5	8.1
	30歳代	97	19.6	22.7	24.7	14.4	21.6	9.3	12.4	21.6	22.7
	40歳代	121	14.9	22.3	25.6	25.6	16.5	12.4	12.4	10.7	19.0
	50歳代	102	25.5	22.5	14.7	25.5	19.6	13.7	8.8	12.7	8.8
	60歳代	183	25.7	20.8	13.7	16.9	9.8	11.5	9.8	9.3	2.7
	70歳以上	210	24.8	16.7	18.1	13.3	1.9	11.0	9.0	4.3	1.9

	地域での学習活動の指 導・助言・運営協力	インターネットやコ ミュニティ誌による地 域への情報提供	障害者の日常生活にお ける支援や話し相手	募金活動やチャリテイ バザーの開催など	手話通訳・点字ボラン ティアなど	路上生活者への支援活 動	その他	特に参加してみようと は思わない	無回答
合 計	6.8	6.4	5.5	4.9	4.3	1.7	6.1	11.9	10.0
年代別	20歳代	5.4	16.2	2.7	8.1	2.7	-	2.7	8.1
	30歳代	12.4	14.4	6.2	6.2	10.3	-	3.1	1.0
	40歳代	10.7	9.1	5.0	7.4	3.3	-	7.4	5.0
	50歳代	5.9	6.9	8.8	2.0	7.8	1.0	9.8	2.9
	60歳代	5.5	4.4	7.1	2.7	4.4	4.4	5.5	6.6
	70歳以上	4.3	1.4	2.9	5.2	0.5	1.9	5.7	22.4

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

第2章 調査結果の詳細

【支え合いの必要性別（問10）】（単位：％）

		回答数 (件)	町会・自治会の活動	運動・スポーツ・文 化に関する活動支援	公園や近隣の清掃活 動やリサイクル活動	防災活動や災害時援 助活動	国際交流や外国人へ の支援活動	高齢者の身の回りの 世話や話し相手	交通安全や防犯活動	子育ての支援や相談	子ども会・PTAの 活動
合計		770	22.3	20.5	18.7	18.2	12.3	11.0	10.4	10.1	8.6
支え合いの必要性別	とても必要だと思 う	260	32.7	25.4	23.8	25.0	12.3	15.0	13.5	15.0	11.2
	まあまあ必要だと思 う	429	18.9	20.3	17.7	16.3	13.3	9.8	9.8	7.9	7.7
	あまり必要だと思 わない	51	7.8	9.8	9.8	9.8	9.8	3.9	3.9	5.9	7.8
	必要とは思 わない	8	-	-	12.5	-	12.5	12.5	-	12.5	-

		地域での学習活動の指 導・助言・運営協力	インターネットやコ ミュニティ誌による地 域への情報提供	障害者の日常生活にお ける支援や話し相手	募金活動やチャリテイ バザーの開催など	手話通訳・点字ボラン ティアなど	路上生活者への支援活 動	その他	特に参加してみようと は思わない	無回答
合計		6.8	6.4	5.5	4.9	4.3	1.7	6.1	11.9	10.0
支え合いの必要性別	とても必要だと思 う	10.4	6.2	6.5	5.8	2.7	3.5	6.2	6.5	8.5
	まあまあ必要だと思 う	5.1	7.5	5.6	4.9	5.6	0.9	5.8	11.9	9.6
	あまり必要だと思 わない	3.9	2.0	2.0	3.9	2.0	-	5.9	29.4	5.9
	必要とは思 わない	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0	37.5

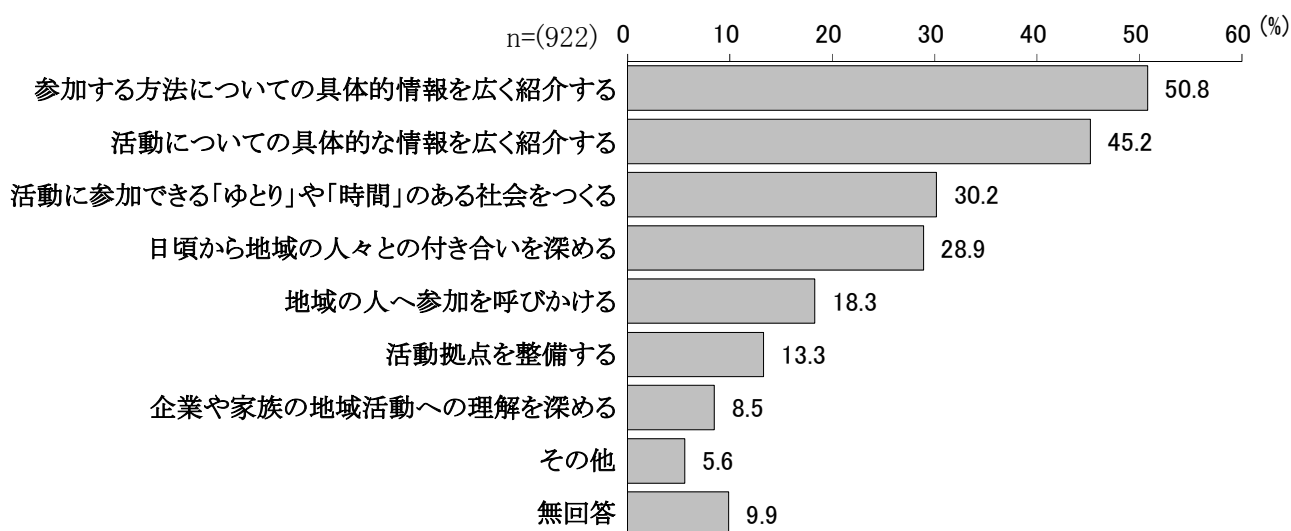
※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

(5) 地域活動への参加に必要なこと

問14 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人に参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から、あなたのお考えに近いものの番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

地域の活動に、より多くの人に参加できるようにするために必要だと思うことは、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」との回答が50.8%と最も多く、次いで「活動についての具体的な情報を広く紹介する」(45.2%)、「活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる」(30.2%)と続いています。

年代別でみると、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」との回答は、30歳代で60.9%と最も多くなっています。



【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	提供する方法についての具体的な情報を広く紹介する	活動についての具体的な情報を広く紹介する	活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる	日頃から地域の人々との付き合いを深める	地域の人へ参加を呼びかける	活動拠点を整備する	企業や家族の地域活動への理解を深める	その他	無回答	
		合計	922	50.8	45.2	30.2	28.9	18.3	13.3	8.5	5.6
年代別	20歳代	46	45.7	37.0	50.0	30.4	21.7	10.9	21.7	2.2	-
	30歳代	115	60.9	51.3	42.6	27.0	15.7	13.0	10.4	5.2	4.3
	40歳代	142	51.4	50.7	37.3	26.1	14.1	14.1	13.4	9.2	5.6
	50歳代	117	52.1	53.8	37.6	28.2	23.1	12.8	11.1	2.6	4.3
	60歳代	221	53.4	52.0	23.5	29.0	19.0	17.6	5.4	4.5	9.0
	70歳以上	259	44.4	33.2	20.1	31.7	18.1	10.0	3.9	7.3	18.1

※網掛けは最大値 (ただし回答数30件未満を除く)

【年代別にみた上位3位までの項目比較】

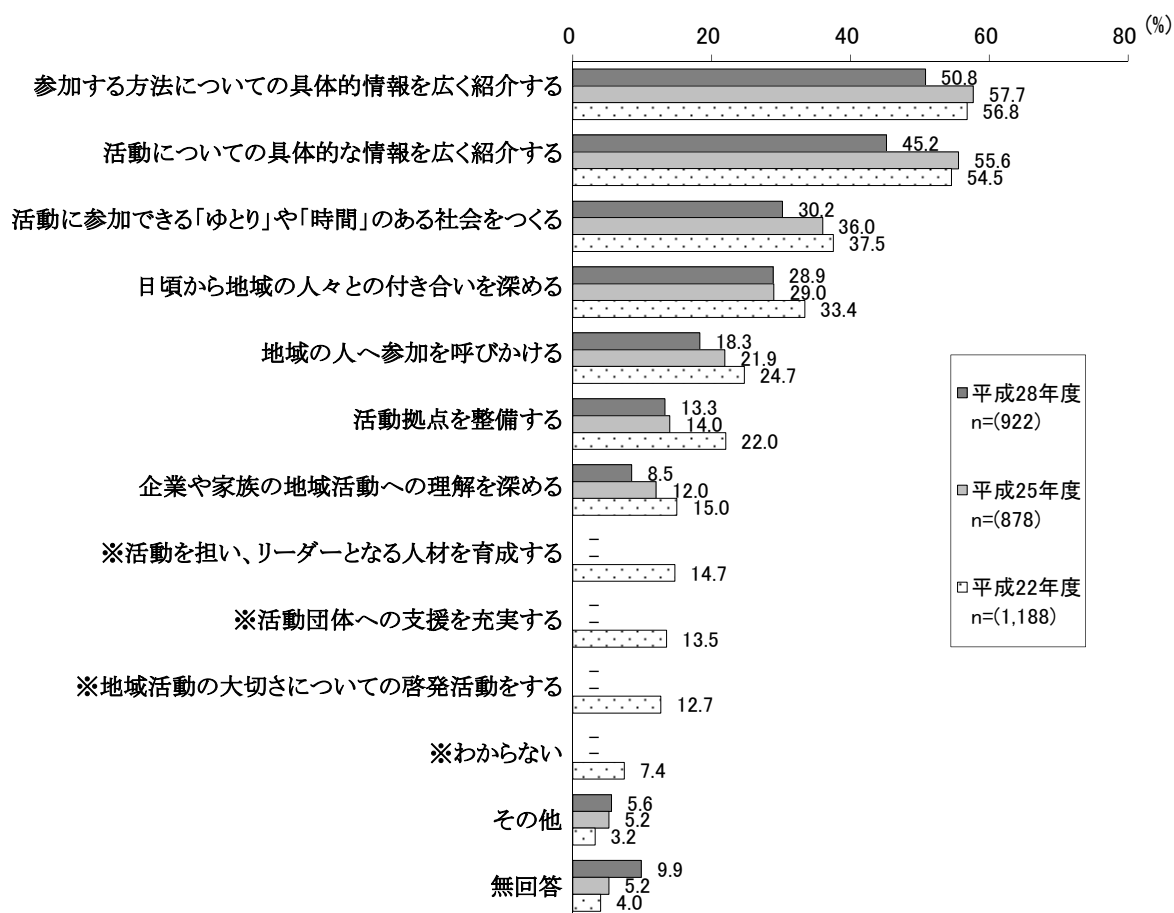
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1位	「ゆとり」や「時間」のある社会づくり	参加方法についての具体的情報の紹介	参加方法についての具体的情報の紹介	活動の具体的情報の紹介	参加方法についての具体的情報の紹介	参加方法についての具体的情報の紹介
2位	参加方法についての具体的情報の紹介	活動の具体的情報の紹介	活動の具体的情報の紹介	参加方法についての具体的情報の紹介	活動の具体的情報の紹介	活動の具体的情報の紹介
3位	活動の具体的情報の紹介	「ゆとり」や「時間」のある社会づくり	「ゆとり」や「時間」のある社会づくり	「ゆとり」や「時間」のある社会づくり	人々との付き合いを深める	人々との付き合いを深める

【支え合いの必要性別（問10）】（単位：％）

		回答数（件）	具体的情報を広く紹介する	活動に関する具体的な情報を広く紹介する	活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる	活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる	日頃から地域の人々との付き合いを深める	地域の人へ参加を呼びかける	活動拠点を整備する	企業や家族の地域活動への理解を深める	その他	無回答
合計		922	50.8	45.2	30.2	28.9	18.3	13.3	8.5	5.6	9.9	
支え合いの必要性別	とても必要だと思う	272	58.8	44.5	28.3	41.5	27.9	15.8	11.4	3.3	10.7	
	まあまあ必要だと思う	504	51.8	49.6	31.3	27.8	16.1	14.7	7.7	5.0	7.7	
	あまり必要だと思わない	102	34.3	32.4	31.4	7.8	7.8	4.9	6.9	12.7	15.7	
	必要とは思わない	19	15.8	21.1	31.6	5.3	-	5.3	5.3	10.5	10.5	

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【前回・前々回調査との比較】



※印は前々回(平成22年度)調査のみの項目

5. 福祉のまちづくり

福祉のまちづくりの状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【社会参加の状況】

- ・「外出頻度（問15）」について、約95%の方が「週1～2日以上」以上外出しています。（P67参照）
- ・「外出時に不便に思うこと（問15-1）」としては、「駐車場・駐輪場が少ない」、「道路や建物の段差が多い」、「手すり・ベンチが少ない」と続いています。前回調査と比べて、「手すり・ベンチが少ない」、「階段の昇り降りが大変」との回答が増えています。（P69、P72参照）

【まちのバリアフリー】

- ・「まちのバリアフリーの満足度（問16）」について、《不満》との回答が《満足》を上回っています。（P73参照）
- ・「バリアフリー化を進めてほしい施設（問17）」について、上位より「歩道」、「鉄道駅などの旅客施設」「電車・バスなどの公共交通機関」と続いています。経年比較でみると、前回調査と大きな差はみられません。（P75、P76参照）
- ・「外出先で困っているのを見かけた経験（問18）」について、「支え合いや助け合いの必要性」を必要であると感じている方のほうが、困っているのを見かけた経験割合が多くなっています。（P79参照）
- ・「外出先で困っていたこと（問18-1）」について、年代別では、30歳代の場合、「声をかけたかったが、どのように声をかければよいのかわからなかった」との回答が約3割となっています。（P83参照）
- ・「心のバリアフリー普及に必要な仕組み（問19）」について、6割強の人が「学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実する」と回答しています。（P84参照）

■調査結果から見受けられる課題について

【社会参加の促進に向けて】

- ・高齢化が進む中、外出時に不便に思うこととして、手すり・ベンチ、階段の昇り降りといった回答が増えていることから、誰もが安心して街に出掛けられるよう、移動に関する思いやりのまちづくり推進の必要性がうかがえます。（P72参照）

【まちのバリアフリー推進に向けて】

- ・まちのバリアフリーの満足度は、《不満》の割合のほうが多いことから、今後ともまちのバリアフリーの向上が望まれています。外出先で困っていることについて、自転車等のすれ違いとの回答も増えていることから、安心して歩ける街づくり、自転車マナーの啓発等、歩行の安全確保の必要性がうかがえます。（P73、P80参照）
- ・困っている人を見かけた時の対応で、声かけの仕方がわからない、恥ずかしくて声かけができないといった回答が若年層に多いことから、障害への理解や声かけの仕方など、普段から学ぶ機会づくりの必要性がうかがえます。（P83参照）

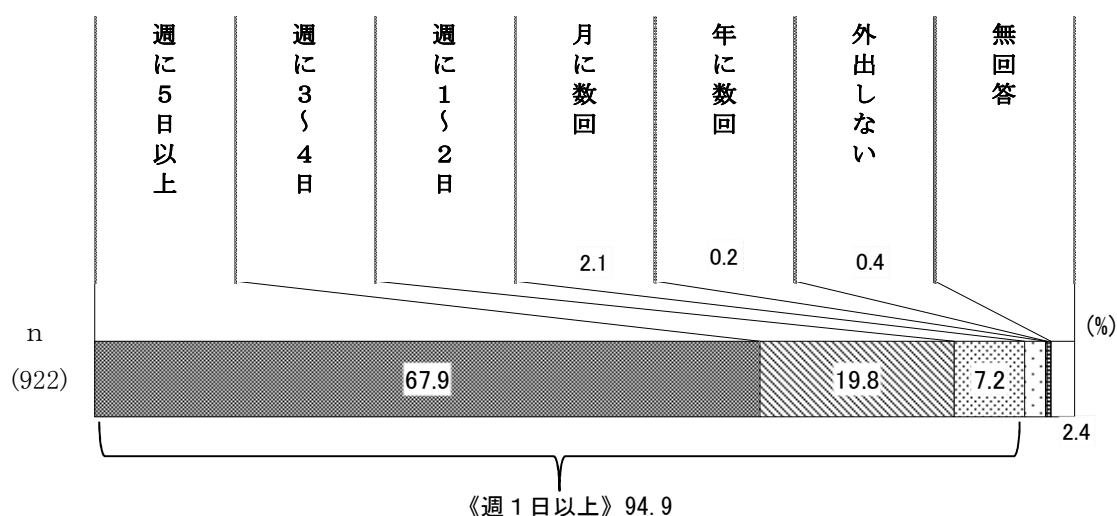
(1) 外出頻度

問15 あなたは、日常どのくらい外出していますか（通勤・通学を含む）。（〇は1つのみ）

日常の外出頻度について、7割弱の人が「週に5日以上」と回答しており、「週に1～2日」（7.2%）、「週に3～4日」（19.8%）を合わせると、約95%の人が週に1日以上外出しています。

前回調査と比べると、「週に5日以上」が減り、「週に3～4日」以下が増えており、外出頻度は減少する傾向が見られます。

地区別でみると、外出頻度の高い「週に5日以上」との回答は、西部地区2（79.2%）、東部地区2（75.5%）で7割を超えています。



【前回・前々回調査との比較】（単位：%）

	回答数 (件)	週に5日以上	週に3～4日	週に1～2日	月に数回	年に数回	外出しない	無回答
平成28年度	922	67.9	19.8	7.2	2.1	0.2	0.4	2.4
平成25年度	878	81.3	10.9	4.2	1.1	0.0	0.1	2.3
平成22年度	1,188	81.1	11.0	3.6	0.6	0.1	0.5	3.0

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

第2章 調査結果の詳細

【年代別】（単位：％）

		回答数 (件)	週に 5日 以上	週に 3 ～ 4日	週に 1 ～ 2日	月に 数回	年に 数回	外出 しない	無回 答
合 計		922	67.9	19.8	7.2	2.1	0.2	0.4	2.4
年代別	20歳代	46	93.5	4.3	-	-	-	2.2	-
	30歳代	115	89.6	6.1	1.7	1.7	-	-	0.9
	40歳代	142	85.9	8.5	3.5	-	-	-	2.1
	50歳代	117	74.4	17.1	7.7	-	-	-	0.9
	60歳代	221	66.1	22.2	7.2	2.7	-	-	1.8
	70歳以上	259	44.8	33.6	12.4	3.1	0.8	1.2	4.2

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【地区別】（単位：％）

		回答数 (件)	週に 5日 以上	週に 3 ～ 4日	週に 1 ～ 2日	月に 数回	年に 数回	外出 しない	無回 答
合 計		922	67.9	19.8	7.2	2.1	0.2	0.4	2.4
地区別	東部地区1	131	68.7	22.1	6.9	0.8	-	-	1.5
	東部地区2	110	75.5	12.7	5.5	0.9	-	1.8	3.6
	中央地区1	115	67.8	25.2	3.5	2.6	-	-	0.9
	中央地区2	117	69.2	23.1	4.3	-	-	-	3.4
	中央地区3	93	65.6	16.1	10.8	3.2	-	-	4.3
	中央地区4	77	66.2	19.5	6.5	3.9	-	1.3	2.6
	西部地区1	164	65.2	20.1	9.8	2.4	0.6	0.6	1.2
	西部地区2	48	79.2	14.6	2.1	4.2	-	-	-

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

(2) 外出時に不便に思うこと

【問15で「1～5」のいずれかをお答えの方に】

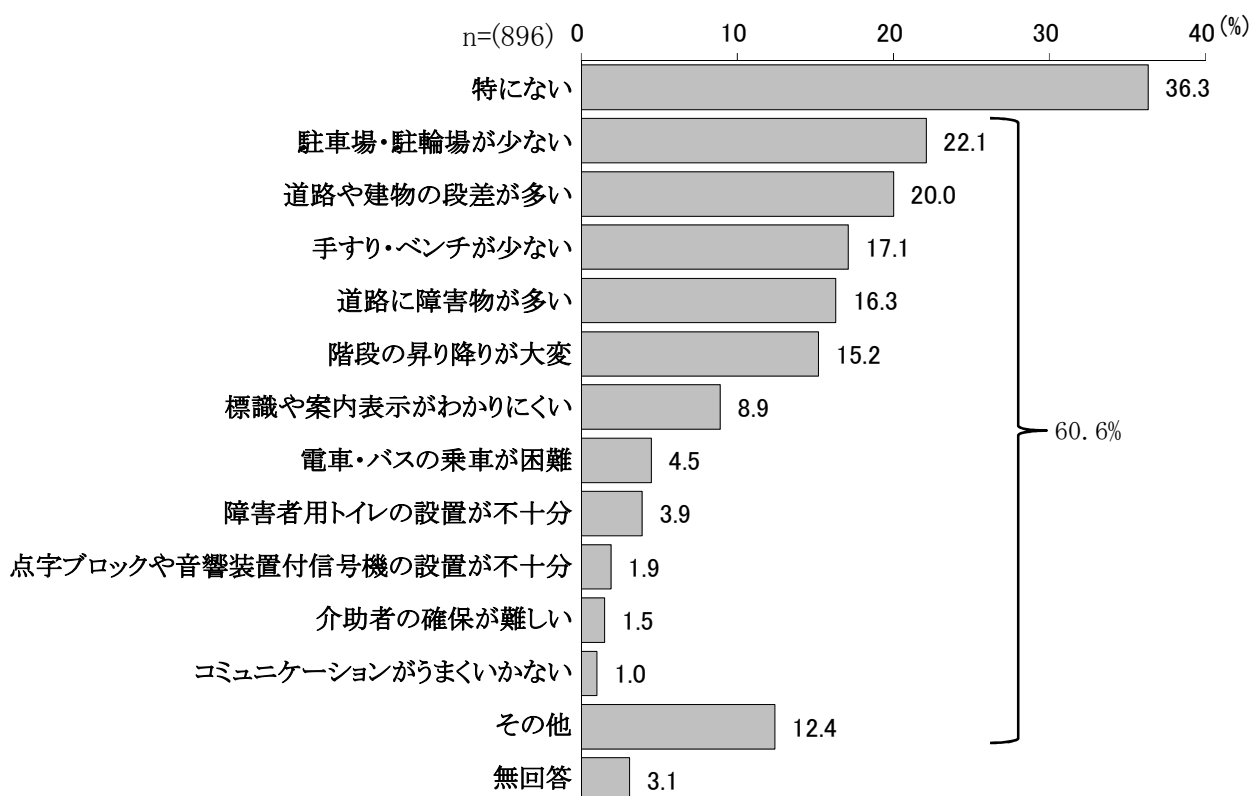
問15-1 外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。
(〇はいくつでも)

外出される際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことは、「特にない」をあげる人が36.3%と最も多く、次いで「駐車場・駐輪場が少ない」(22.1%)、「道路や建物の段差が多い」(20.0%)と続いています。

地区別でみると、上位3つに注目すると、「駐車場・駐輪場が少ない」との回答は、東部地区2や中央地区2、中央地区4で多く、「道路や建物の段差が多い」は、中央地区4と西部地区1で多く、「手すり・ベンチが少ない」は、中央地区4で多くなっています。

年代別でみると、60歳代以下では「駐車場・駐輪場が少ない」の回答が多く、70歳以上になると「手すり・ベンチが少ない」や「階段の昇り降りが大変」といった回答が多くなっています。

経年比較でみると、前々回調査・前回調査に比べて、「特にない」との回答が増えています。困ったり不便に思ったりした内容としては、「駐車場・駐輪場が少ない」「道路に障害物が多い」との回答は減少しましたが、「手すり・ベンチが少ない」や「階段の昇り降りが大変」との回答が増えています。



第2章 調査結果の詳細

【地区別】(単位：%)

	回答数 (件)	特 に な い	い 駐 車 場 ・ 駐 輪 場 が 少 な い	い 道 路 や 建 物 の 段 差 が 多 い	い 手 す り ・ ベ ン チ が 少 な い	道 路 に 障 害 物 が 多 い	階 段 の 昇 り 降 り が 大 変	標 識 や 案 内 表 示 が わ か り に く い	難 電 車 ・ バ ス の 乗 車 が 困	障 害 者 用 ト イ レ の 設 置 が 不 十 分
合 計	896	36.3	22.1	20.0	17.1	16.3	15.2	8.9	4.5	3.9
地区別	東部地区1	129	41.1	17.1	17.1	18.6	9.3	14.0	3.9	2.3
	東部地区2	104	32.7	26.9	14.4	9.6	14.4	12.5	13.5	2.9
	中央地区1	114	33.3	21.9	21.1	17.5	18.4	14.9	9.6	4.4
	中央地区2	113	35.4	25.7	23.9	15.9	16.8	10.6	8.8	5.3
	中央地区3	89	39.3	20.2	20.2	14.6	14.6	16.9	12.4	3.4
	中央地区4	74	28.4	25.7	24.3	28.4	24.3	23.0	13.5	13.5
	西部地区1	161	34.2	21.7	25.5	15.5	18.0	15.5	6.8	1.9
	西部地区2	48	35.4	20.8	12.5	14.6	14.6	14.6	2.1	4.2

	十分	点 字 ブ ロ ッ ク や 音 響 装 置 付 信 号 機 の 設 置 が 不	介 助 者 の 確 保 が 難 し い	う ま く い か な い コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン が	そ の 他	無 回 答
合 計	1.9	1.5	1.0	12.4	3.1	
地区別	東部地区1	-	-	0.8	15.5	1.6
	東部地区2	1.9	1.0	1.0	9.6	3.8
	中央地区1	3.5	1.8	1.8	15.8	2.6
	中央地区2	3.5	2.7	-	18.6	1.8
	中央地区3	1.1	2.2	2.2	12.4	1.1
	中央地区4	2.7	-	1.4	12.2	2.7
	西部地区1	1.2	0.6	-	8.7	5.0
	西部地区2	-	-	-	8.3	4.2

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

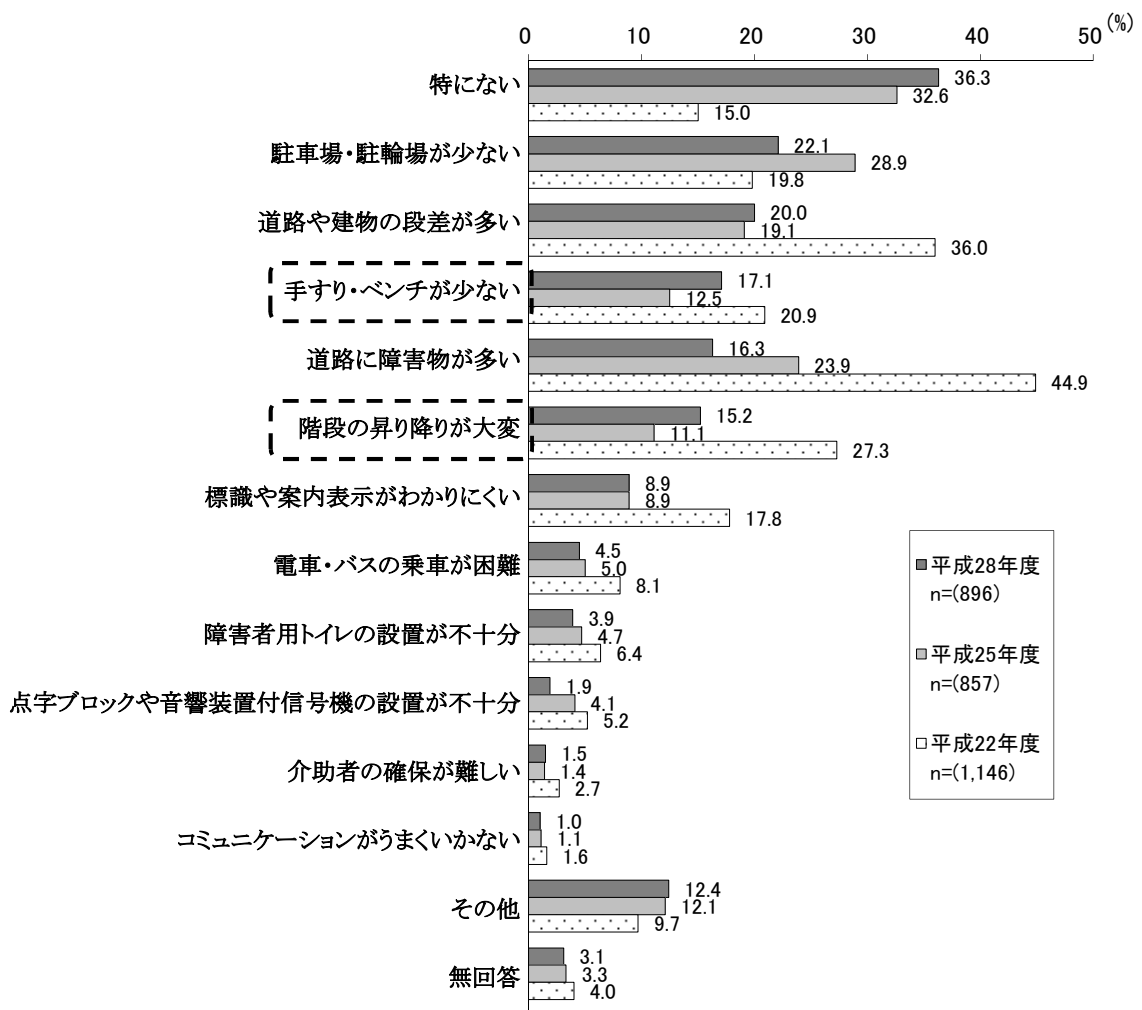
【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	特 に な い	い 駐 車 場 ・ 駐 輪 場 が 少 な い	い 道 路 や 建 物 の 段 差 が 多 い	い 手 す り ・ ベ ン チ が 少 な い	道 路 に 障 害 物 が 多 い	階 段 の 昇 り 降 り が 大 変	標 識 や 案 内 表 示 が わ か り に く い	難 電 車 ・ バ ス の 乗 車 が 困	障 害 者 用 ト イ レ の 設 置 が 不 十 分	
合 計	896	36.3	22.1	20.0	17.1	16.3	15.2	8.9	4.5	3.9	
年 代 別	20歳代	45	33.3	15.6	22.2	8.9	8.9	15.6	8.9	6.7	2.2
	30歳代	114	30.7	26.3	21.9	14.9	13.2	12.3	7.0	7.9	3.5
	40歳代	139	27.3	29.5	23.7	12.9	18.7	8.6	9.4	2.9	4.3
	50歳代	116	33.6	28.4	20.7	15.5	17.2	7.8	7.8	4.3	5.2
	60歳代	217	41.9	22.1	22.1	14.7	20.7	14.7	12.0	3.2	5.1
	70歳以上	245	39.6	14.7	15.1	23.3	14.7	23.7	7.8	4.9	2.4

	十 分	点 字 ブ ロ ッ ク の 設 置 が 不 装	介 助 者 の 確 保 が 難 し い	う ま く い か な い	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ヨ ン が	そ の 他	無 回 答
合 計	1.9	1.5	1.0	12.4	3.1		
年 代 別	20歳代	-	-	-	20.0	4.4	
	30歳代	1.8	-	1.8	22.8	1.8	
	40歳代	1.4	1.4	0.7	23	0.7	
	50歳代	1.7	3.4	1.7	15.5	0.9	
	60歳代	4.1	1.4	0.9	4.6	3.7	
	70歳以上	0.8	1.2	0.8	6.1	5.3	

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

【前回調査・前々回調査との比較】

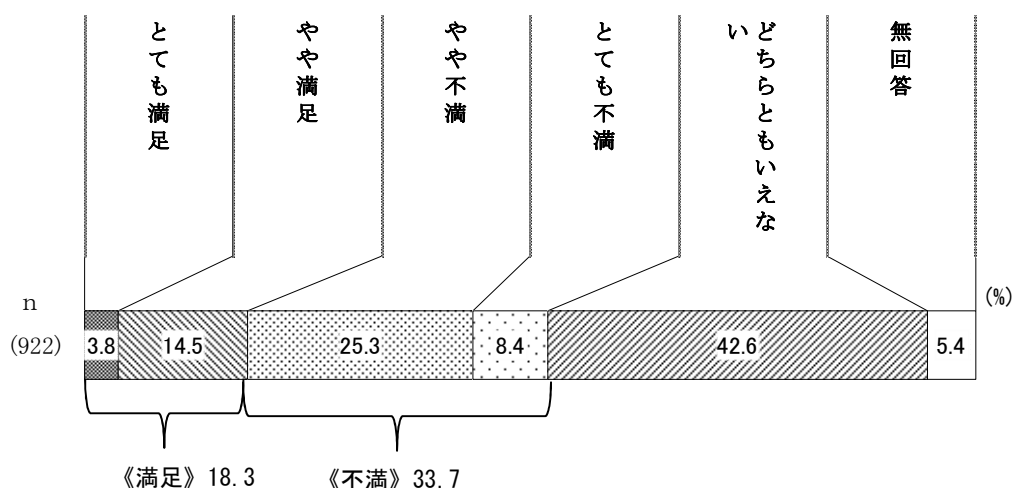


(3) まちのバリアフリーの満足度

問16 あなたが日常生活を送る範囲で、まちのバリアフリーについて満足していますか。
(○は1つのみ)

まちのバリアフリーの満足度について、「どちらともいえない」が42.6%で最も多くなっています。《満足》より《不満》との回答のほうが上回っています。

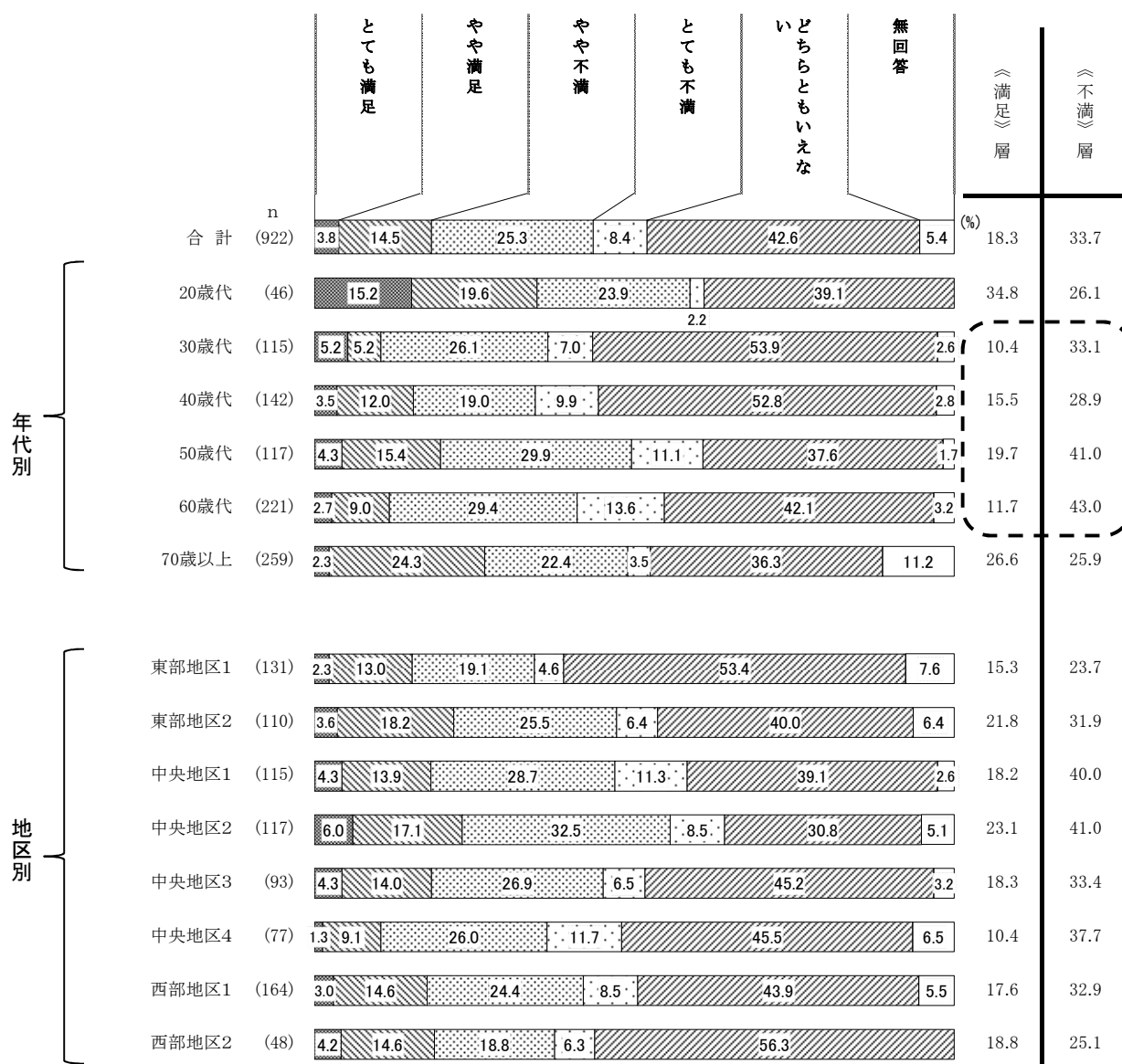
年代別でみると、各年代とも「どちらともいえない」との回答が最も多くなっています。また、30歳代から60歳代まで、《不満》との回答が《満足》を上回っています。



【前回調査・前々回調査との比較】(単位：%)

	回答数 (件)	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満	どちらともいえない	無回答	《満足》		《不満》	
								《満足》	《不満》		
平成28年度	922	3.8	14.5	25.3	8.4	42.6	5.4	18.3	33.7		
平成25年度	878	2.2	17.3	25.6	8.0	42.0	4.9	19.5	33.6		
平成22年度	1,188	1.1	18.4	31.5	8.8	36.3	4.0	19.5	40.3		

【年代別・地区別】

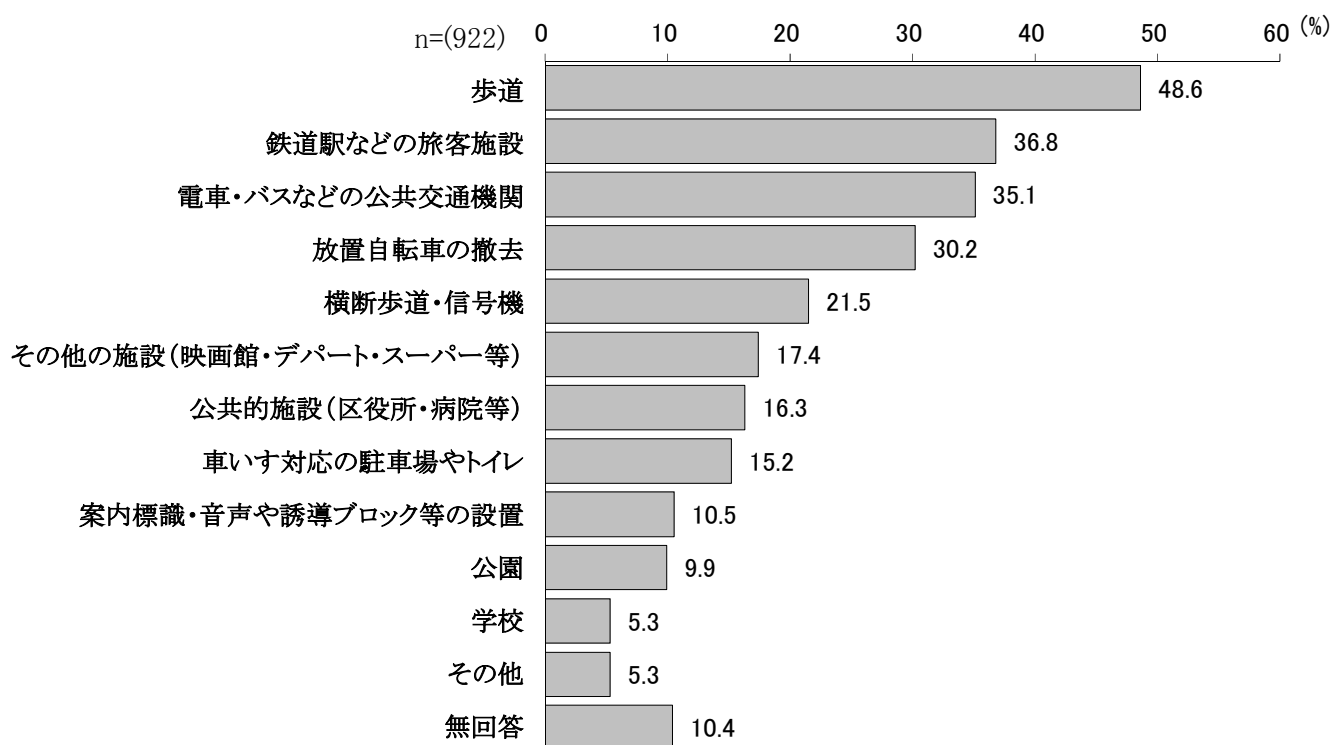


(4) バリアフリー化を進めてほしい施設

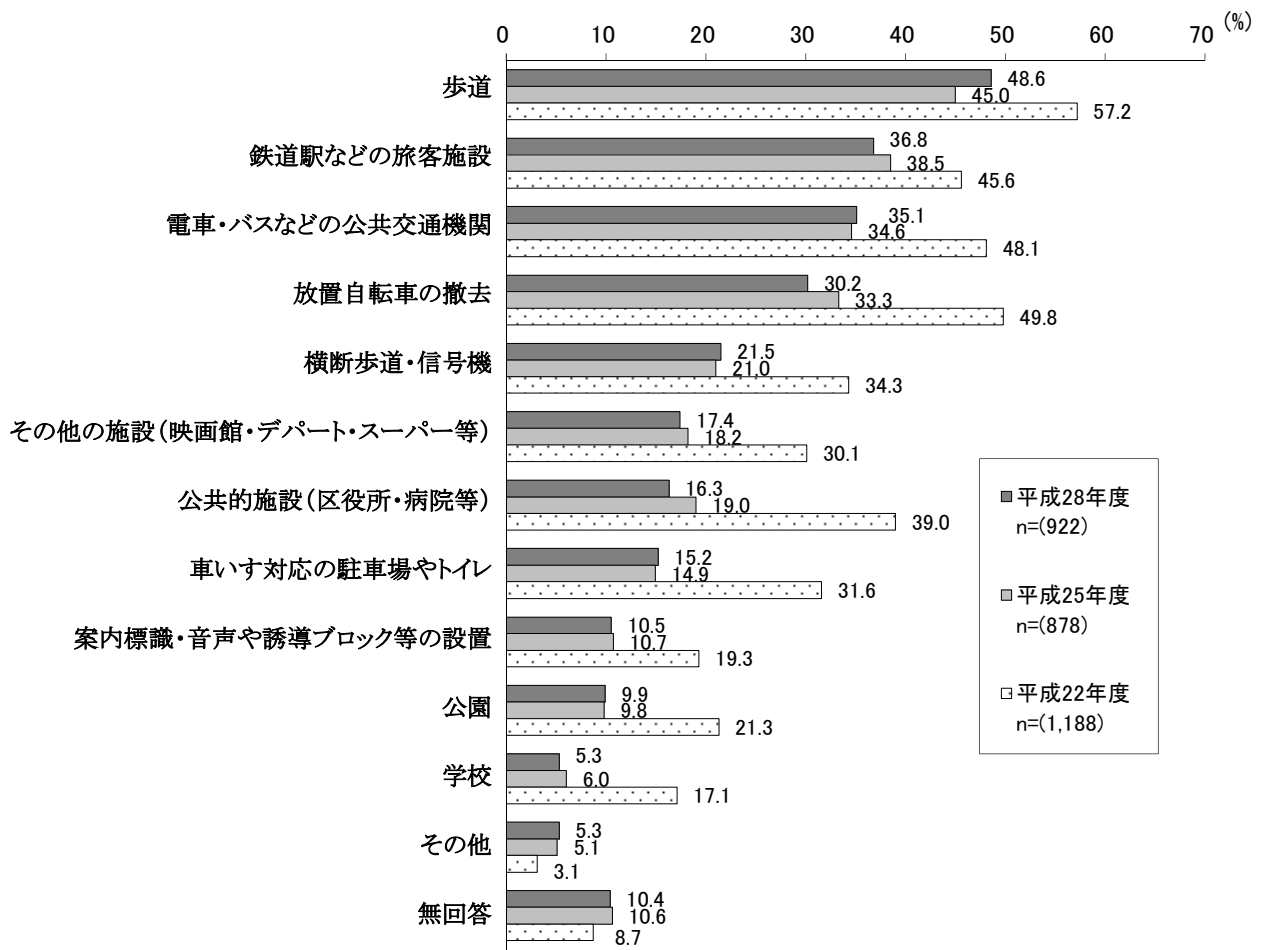
問17 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。(〇はいくつでも)

これからバリアフリー化を進めてほしい施設は、「歩道」をあげる人が48.6%と最も多く、次いで「鉄道駅などの旅客施設」(36.8%)、「電車・バスなどの公共交通機関」(35.1%)と続いています。

前回・前々回調査と比べると、前々回調査より、「その他」を除く施設で減少傾向にあり、また前回調査とは大きな差は見られません。



【前回・前々回調査との比較】



【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	歩道	鉄道駅などの旅客施設	電車・バスなどの公共交通機関	放置自転車の撤去	横断歩道・信号機	その他の施設(映画館・デパート・ストリート等)	公共的施設(区役所・病院等)	車いす対応の駐車場やトイレ	案内標識・音声や誘導ブロック等の設置
合計	922	48.6	36.8	35.1	30.2	21.5	17.4	16.3	15.2	10.5
年代別	20歳代	46	43.5	45.7	30.4	15.2	19.6	15.2	15.2	4.3
	30歳代	115	47.8	41.7	41.7	21.7	20.0	21.7	19.1	11.3
	40歳代	142	52.1	48.6	43.7	30.3	16.9	18.3	20.4	9.9
	50歳代	117	50.4	44.4	41.9	30.8	22.2	24.8	14.5	16.2
	60歳代	221	52.0	38.0	37.6	36.2	28.1	20.4	19.9	22.2
	70歳以上	259	44.8	22.4	24.3	31.7	18.9	9.3	11.2	8.1

	公園	学校	その他	無回答	
合計	9.9	5.3	5.3	10.4	
年代別	20歳代	4.3	2.2	8.7	6.5
	30歳代	12.2	9.6	4.3	7.0
	40歳代	9.9	9.9	6.3	7.0
	50歳代	12.0	6.8	6.8	6.8
	60歳代	10.9	5.4	2.7	7.7
	70歳以上	8.5	0.8	6.2	17.0

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

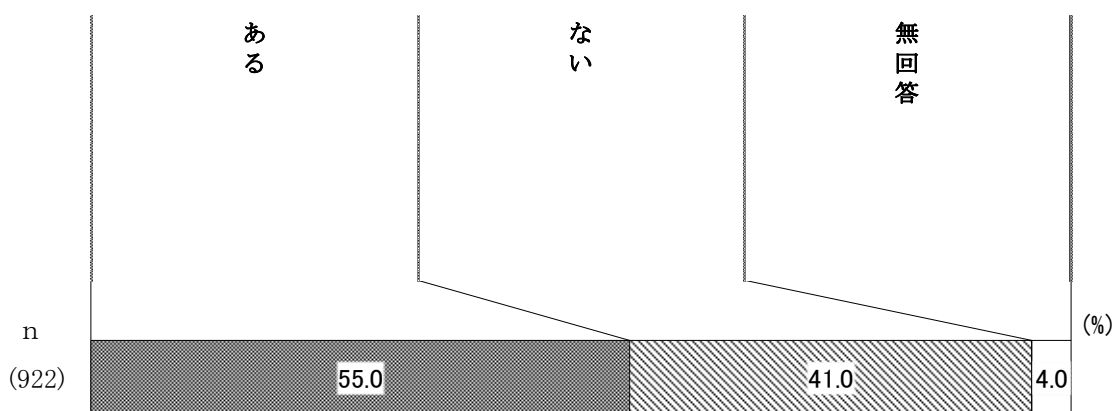
(5) 外出先で困っているのを見かけた経験

問18 外出先で障害者の方などが困っているのを見かけたことがありますか。
 (〇は1つのみ)

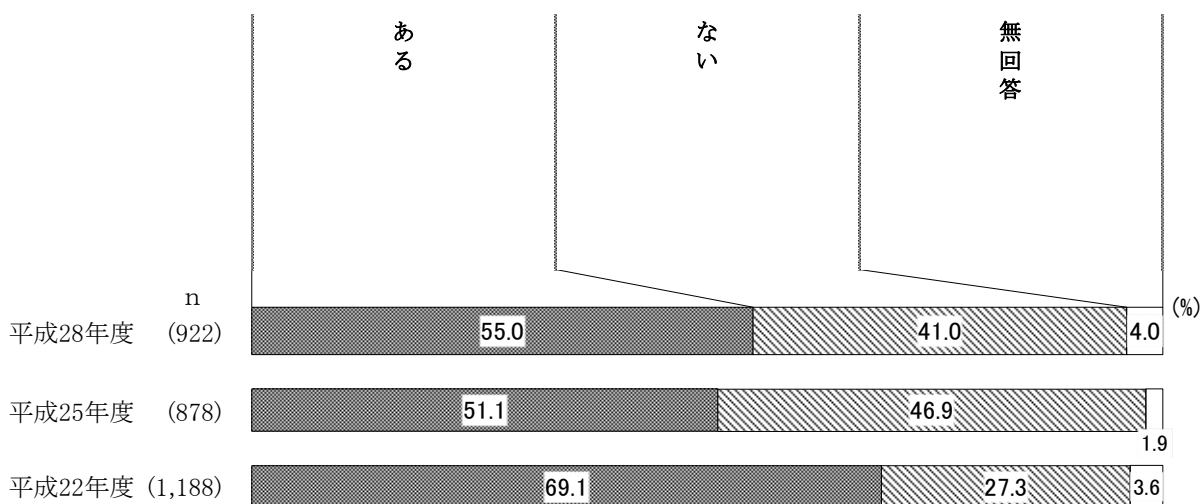
外出先で障害者の方などが困っているのを見かけたことを尋ねたところ、「ある」との回答が55.0%となっています。

年代別で見ると、「ある」との回答は、50歳代から60歳代で約6割と多くなっています。

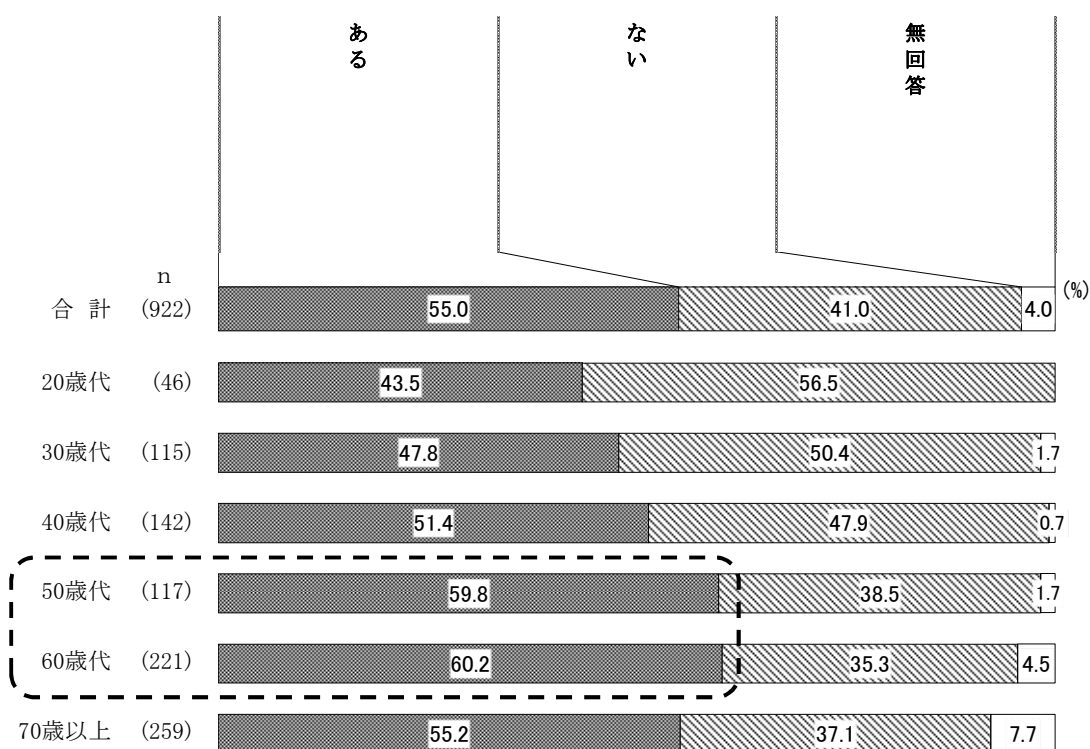
支え合いの必要性別で見ると、支え合いの必要性を感じている人のほうが、困っているのを見かけたことが「ある」との回答も増えています。



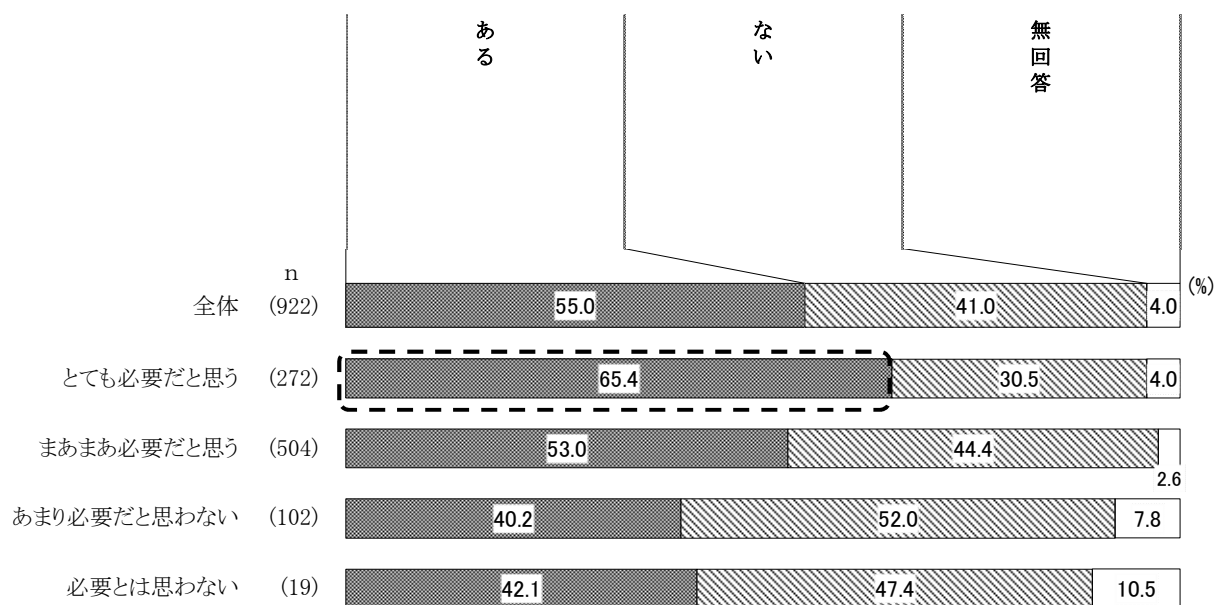
【前回調査・前々回調査との比較】



【年代別】



【支え合いの必要性別（問10）】

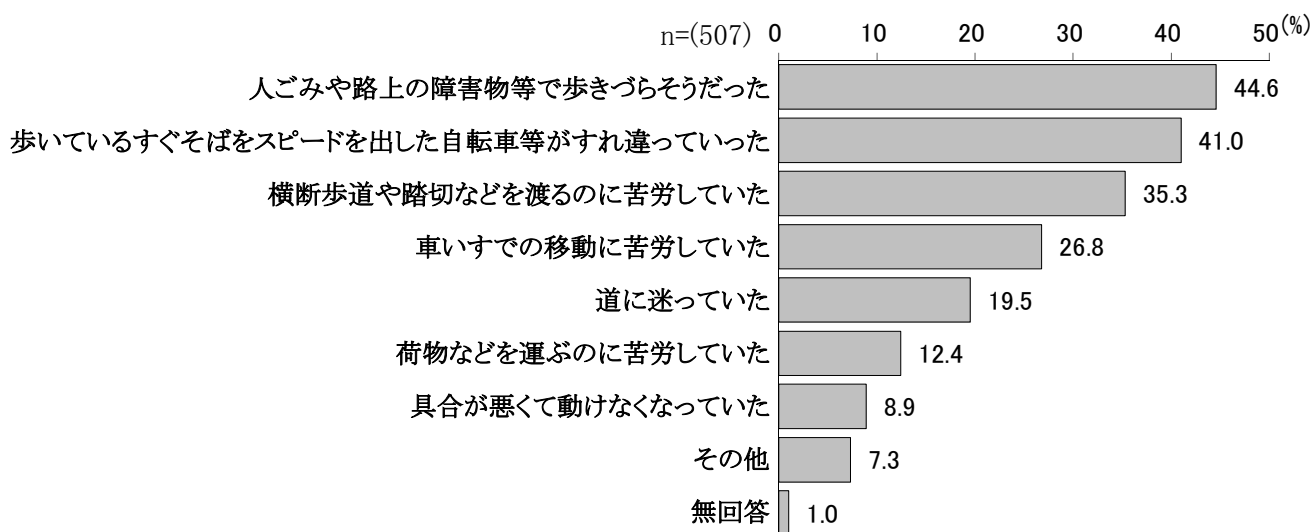


(6) 困っていたこと

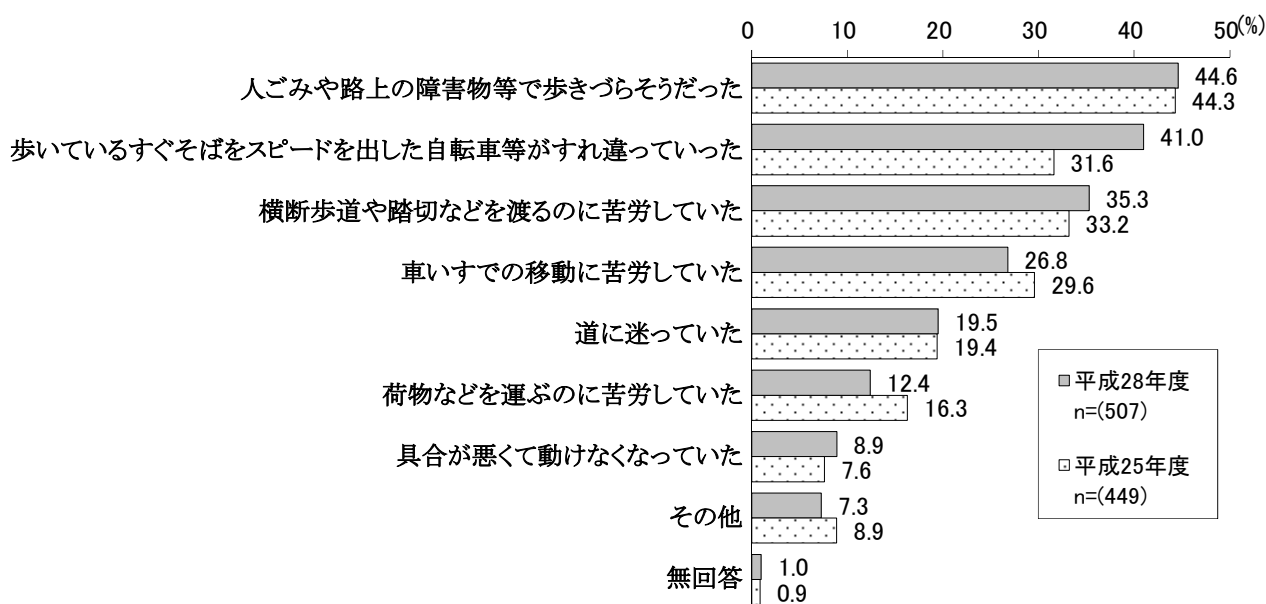
【問18で「1. ある」とお答えの方に】

問18-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。(〇はいくつでも)

外出先で困っている人を見かけたことがある人に、その状況を尋ねたところ、「人ごみや路上等の障害物等で歩きづらそうだった」をあげる人が44.6%と最も多く、次いで「歩いているすぐそばをスピードを出した自転車等がすれ違っていった」(41.0%)、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」(35.3%)と続いています。



【前回調査との比較】



【参考】前々回調査（平成22年度） n=(821) 単位：%

車いすやベビーカーでの移動に苦労していた	人混みや路上の障害物で歩きづらそうだった	横断歩道や踏切を渡るのに苦労していた	荷物などを運ぶのに苦労していた	道に迷っていた	子どもにマナーをさせるために苦労していた	子どもの安全を守るために苦労していた	具合が悪くて動けなくなっていた	その他	無回答
56.4	43.6	31.9	27.3	21.0	15.6	11.0	10.7	6.8	0.2

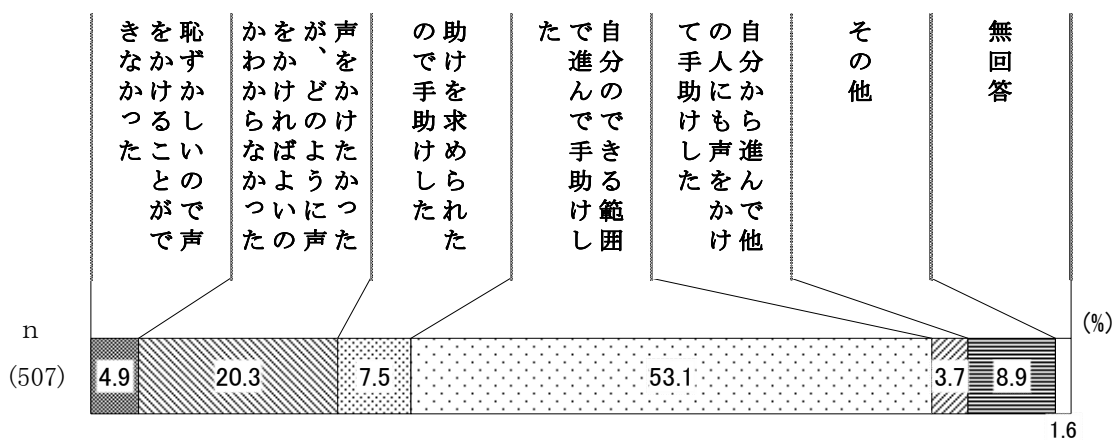
(7) その時にしたこと

【問18で「1. ある」とお答えの方に】

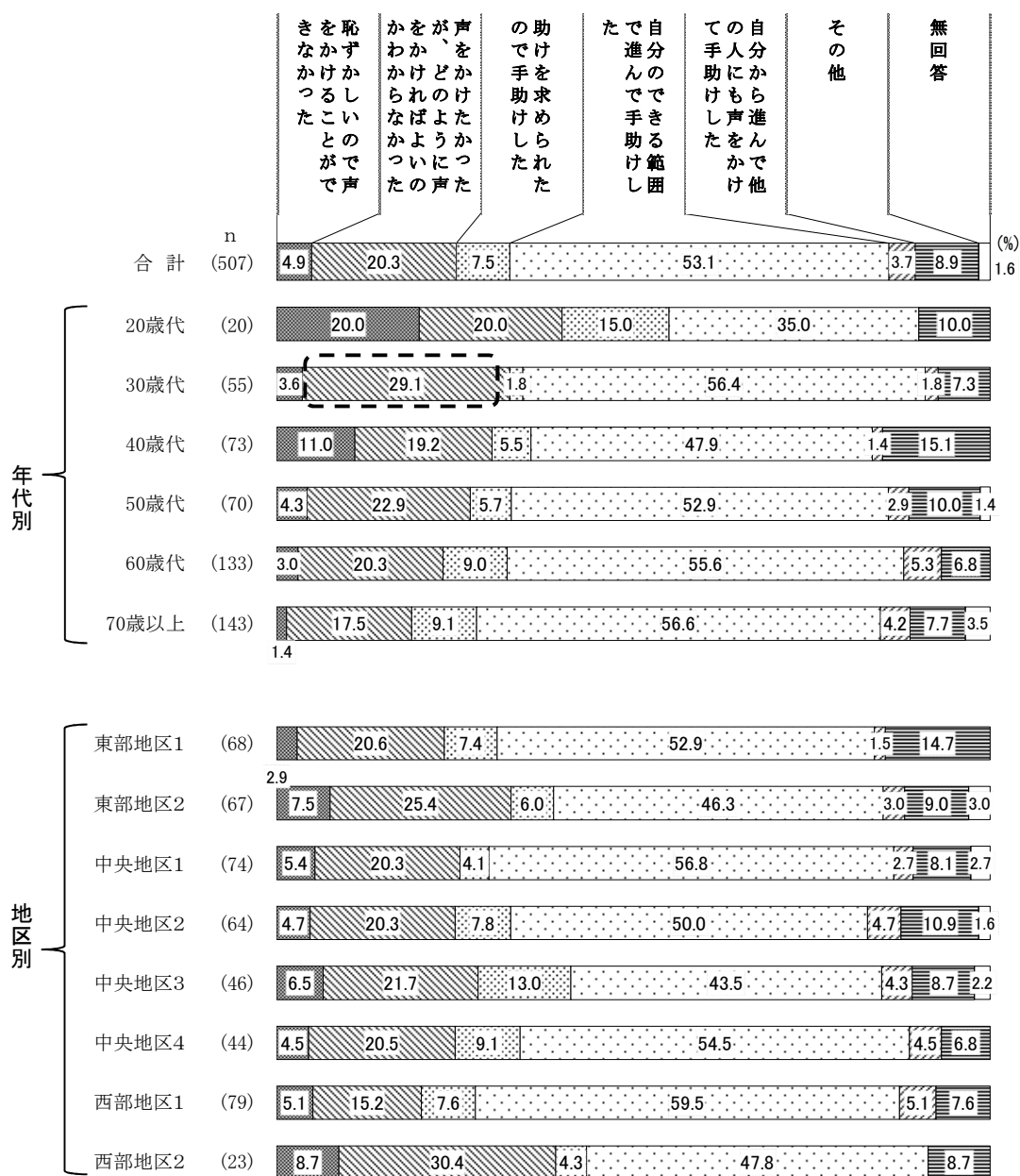
問18-2 その時あなたはどうしましたか。(〇は1つのみ)

外出先で困っている人を見かけた時にどうしたかと尋ねたところ、「自分のできる範囲で進んで手助けした」が53.1%で最も多く、次いで「声をかけたかったが、どのように声をかければよいのかわからなかった」(20.3%)と続いています。

年代別でみると、「声をかけたかったが、どのように声をかければよいのかわからなかった」との回答は、30歳代で約3割と多くなっています。



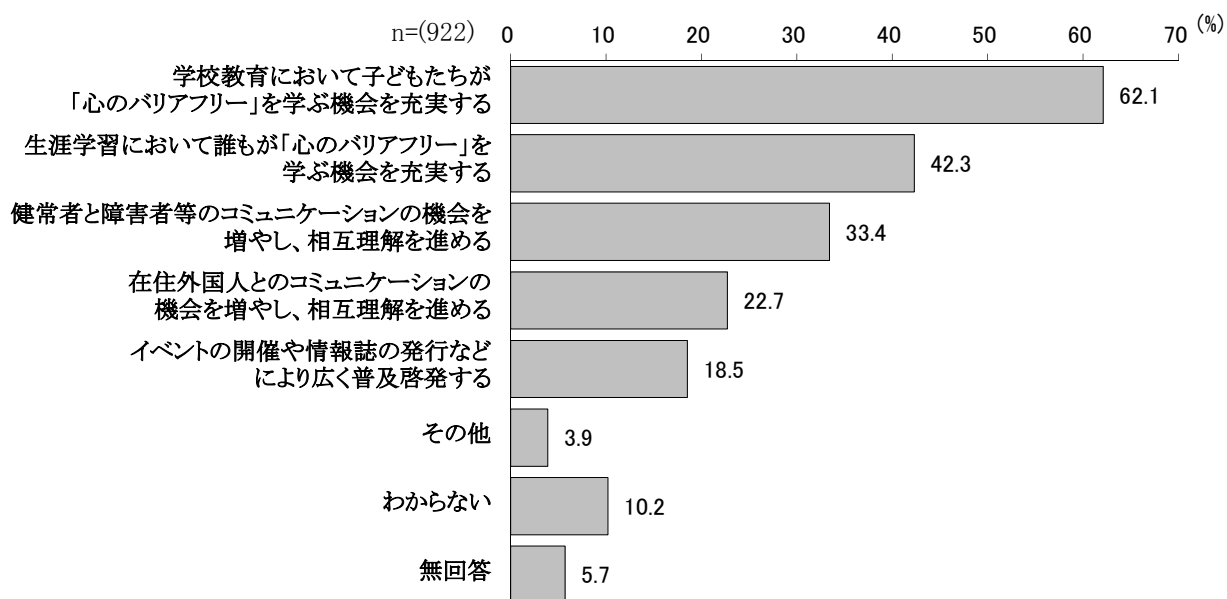
【年代別・地区別】



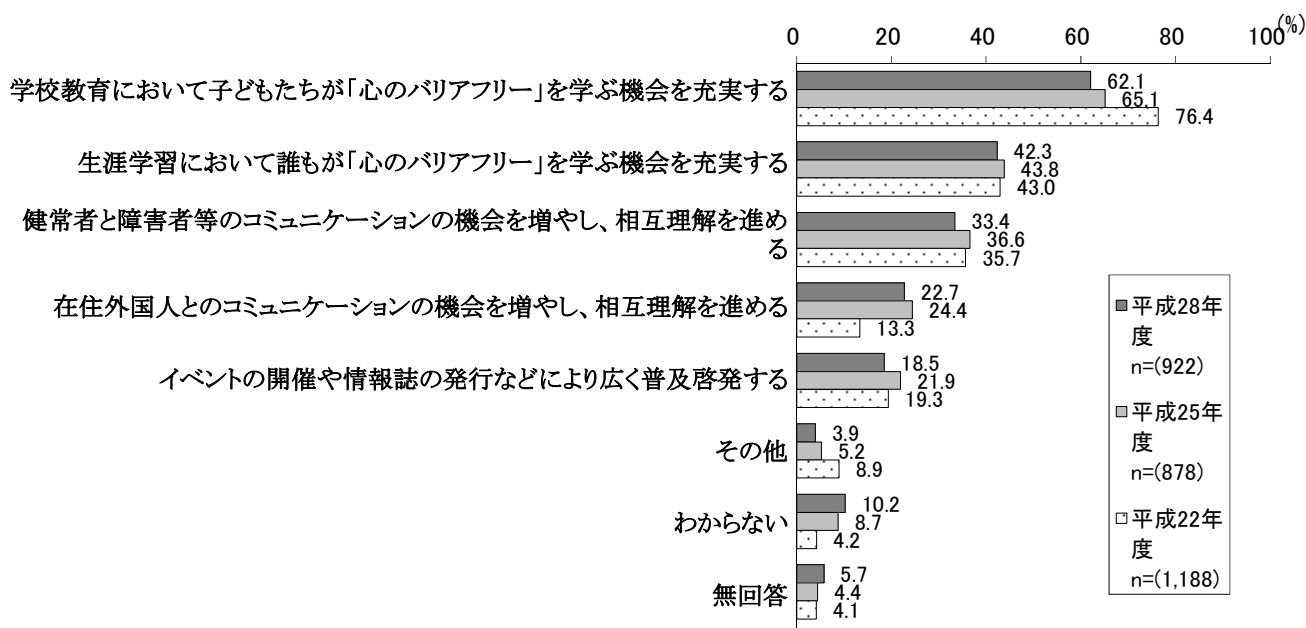
(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み

問19 障害者や高齢者への理解など、心のバリアフリーを普及させるにはどのような仕組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

心のバリアフリーを普及させる仕組みとして特に必要だと思うものは、「学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実する」をあげる人が62.1%と最も多く、次いで「生涯学習において誰もが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実する」(42.3%)、「健常者と障害者等のコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」(33.4%)と続いています。



【前回・前々回調査との比較】



6. 福祉・健康についての情報提供や相談

福祉・健康についての情報提供や相談の現状を把握し、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■調査結果の概要

【情報源の状況】

- ・「情報の入手先（問20）」について、年代別でみると、20～40歳代は「インターネット」との回答が最も多く、50歳代から「広報誌」が増え、60歳代以上では「テレビ・ラジオ」「広報誌」「一般の新聞・雑誌」が多くなっています。（P87参照）

【相談拠点等の満足度と周知状況】

- ・「区の相談窓口の満足度（問21）」について、約6割の人が「どちらともいえない」と回答しています。前々回調査に比べると、《満足》（「とても満足」「やや満足」の合計）との回答は増えて、《不満》（「やや不満」「とても不満」の合計）の回答が減り、満足度はあがりました。年代別でみると、60歳代以上で、《満足》との回答が《不満》を上回っています。（P89、P90参照）
- ・「区の相談窓口の周知度・相談経験・相談意向（問22）」について、周知度の高い相談窓口は上位から「池袋保健所・長崎健康相談所」、「区役所の福祉相談窓口」、「民生委員・児童委員」、「高齢者総合相談センター」、「社会福祉協議会」と続いています。困った時の相談意向は、前々回調査に比べて、すべての窓口で増えています。（P91、P96参照）

【認知症の関心や相談先の状況】

- ・「認知症についての関心度（問23）」について、「認知症の予防に効果的な方法」、「認知症の兆候を早期に発見する方法」との回答がともに6割を超えて、多くなっています。（P101参照）
- ・「認知症の心配がある場合の相談先（問24）」について、上位より「家族」、「かかりつけ医」、「専門医」と続いています。（P102参照）

【地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと】

- ・「地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと（問25）」について、上位より「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」、「認知症高齢者に係る支援の充実」、「保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成と確保」と続いています。相談支援体制、認知症支援、専門的人材の要望が高くなっています。（P104参照）

■調査結果から見受けられる課題について

【情報発信の手段】

- ・情報の入手先は、年代によって異なることから、情報を伝えたい年代に合わせた情報媒体の組み合わせや工夫の必要性がうかがえます。（P87参照）

【身近な相談支援体制の充実】

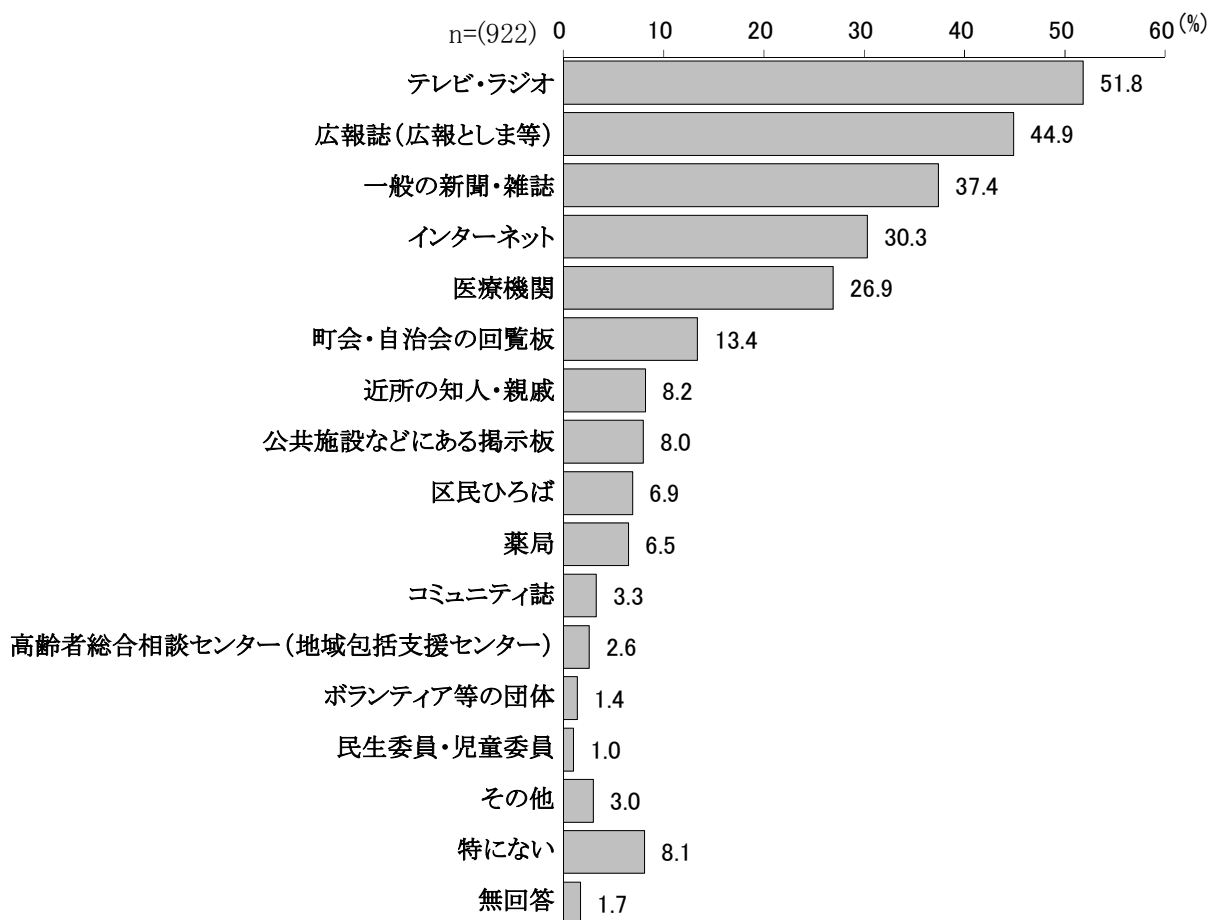
- ・各種相談窓口の相談意向は高まっており、また「地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと」として「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」が最も多いことから、気軽に相談できる支援体制のさらなる強化の必要性がうかがえます。認知症の予防や早期発見の関心も高いことから、相談支援も含め、認知症ケアの支援体制づくりの必要性もうかがえます。（P96、P101、P104参照）

(1) 情報の入手先

問20 福祉・健康に関する情報をどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

福祉・健康に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」をあげる人が51.8%と最も多く、次いで「広報誌(広報としま等)」(44.9%)、「一般の新聞・雑誌」(37.4%)と続いています。

年代別で見ると、20歳代から40歳代は「インターネット」、50歳代では「広報誌(広報としま等)」60歳代以上になると「テレビ・ラジオ」がそれぞれ最も多くなっています。年代により、最も多い情報源が異なっています。



【年代別】(単位：%)

	回答数 (件)	テレビ・ラジオ	広報誌 (広報と しま等)	一般の新聞・雑 誌	インターネット	医療機 関	町会・自治会 の 回覧板	近 所 の 知 人 ・ 親 戚	公 共 施 設 な ど に あ る 掲 示 板	区 民 ひ ろ ば
合 計	922	51.8	44.9	37.4	30.3	26.9	13.4	8.2	8.0	6.9
年代別	20歳代	46	34.8	23.9	21.7	47.8	17.4	4.3	-	-
	30歳代	115	36.5	28.7	19.1	46.1	16.5	6.1	9.6	11.3
	40歳代	142	38.7	37.3	24.6	49.3	22.5	8.5	7.7	9.2
	50歳代	117	49.6	53.8	37.6	41.0	30.8	12.0	3.4	6.8
	60歳代	221	59.3	51.6	43.4	26.7	30.3	15.8	7.7	8.1
	70歳以上	259	63.3	49.8	51.0	8.9	30.5	18.5	12.4	8.1

	薬局	コ ミュ ニ ティ 誌	高 齢 者 総 合 相 談 セ ン タ ー (地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー)	ボ ラ ン テ ィ ア 等 の 団 体	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	そ の 他	特 に な い	無 回 答
合 計	6.5	3.3	2.6	1.4	1.0	3.0	8.1	1.7
年代別	20歳代	8.7	4.3	-	-	-	2.2	23.9
	30歳代	4.3	7.8	1.7	1.7	0.9	3.5	13.0
	40歳代	7.7	4.2	0.7	1.4	-	4.9	14.1
	50歳代	2.6	2.6	0.9	-	0.9	5.1	6.8
	60歳代	5.9	3.2	2.7	1.8	0.9	2.3	5.9
	70歳以上	8.9	1.2	5.0	1.9	1.9	1.2	2.7

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

第2章 調査結果の詳細

【家族構成別】(単位：%)

		回答数 (件)	テレビ・ラジオ	広報誌 (広報とし ま等)	一般の新聞・雑誌	インターネット	医療機関	町会・自治会の回 覧板	近所の知人・親戚	公共施設などにあ る掲示板	区民ひろば
合 計		922	51.8	44.9	37.4	30.3	26.9	13.4	8.2	8.0	6.9
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	229	45.0	35.8	29.3	23.6	22.3	8.3	8.3	6.1	2.6
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	123	41.5	36.6	28.5	48.8	25.2	4.1	3.3	6.5	0.8
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	111	67.6	55.9	52.3	15.3	33.3	24.3	6.3	11.7	9.9
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	32	53.1	53.1	50.0	25.0	21.9	21.9	3.1	6.3	9.4
	二世世代家族(親と子)	310	55.2	48.4	41.3	35.8	26.1	14.2	9.7	8.1	9.0
	三世世代家族(親と子と孫)	52	48.1	50.0	36.5	26.9	38.5	17.3	21.2	13.5	13.5
	兄弟姉妹のみ	13	69.2	53.8	69.2	-	23.1	15.4	-	7.7	7.7
	その他	17	52.9	23.5	5.9	35.3	35.3	11.8	-	-	-

		薬局	コミュニテイ誌	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	ボランティア等の団体	民生委員・児童委員	その他	特にな	無回答
合 計		6.5	3.3	2.6	1.4	1.0	3.0	8.1	1.7
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	7.9	2.6	3.5	0.9	0.4	3.5	11.8	2.2
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	4.1	4.1	-	0.8	0.8	4.1	11.4	1.6
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	9.9	1.8	3.6	4.5	0.9	-	3.6	2.7
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	3.1	3.1	3.1	-	-	6.3	9.4	-
	二世世代家族(親と子)	6.1	3.9	1.6	0.6	1.0	2.3	6.8	1.0
	三世世代家族(親と子と孫)	7.7	1.9	7.7	-	1.9	1.9	5.8	1.9
	兄弟姉妹のみ	7.7	-	-	-	-	7.7	7.7	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	5.9

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

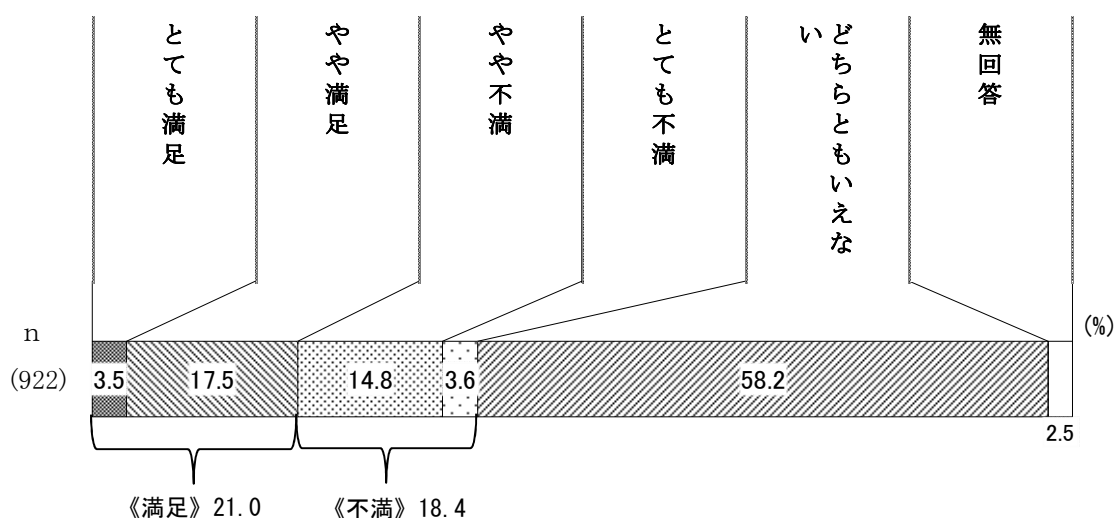
(2) 区の相談窓口の満足度

問21 区からの福祉・健康に関する情報の入手しやすさや、区の相談窓口について満足していますか。(〇は1つのみ)

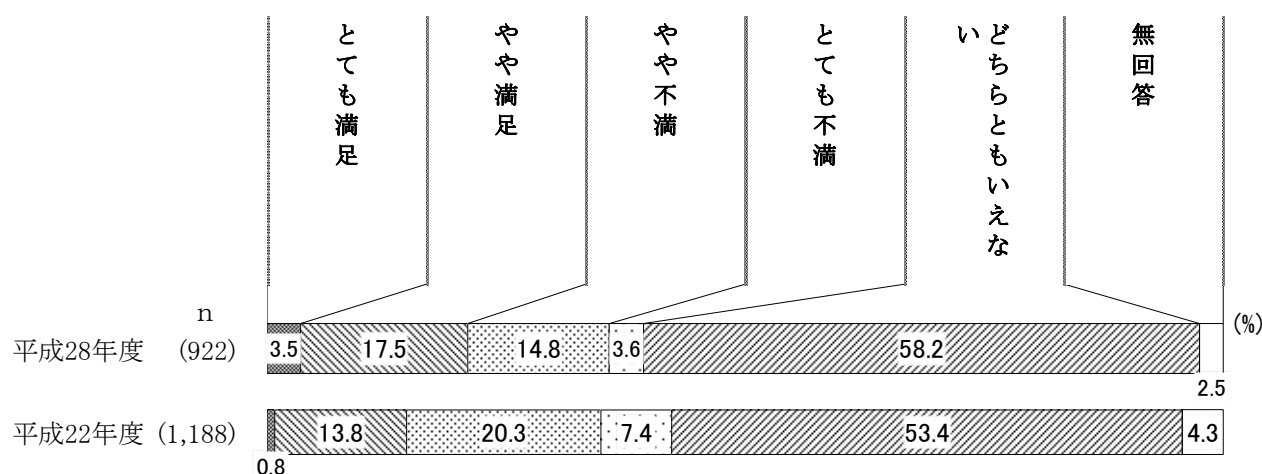
区からの福祉・健康に関する情報の入手しやすさや、区の相談窓口については、58.2%の人が「どちらともいえない」と回答しています。また、「とても満足」(3.5%)と「やや満足」(17.5%)を合わせた、《満足》している割合は2割を超えています。

前回調査と比べると、《満足》している割合は、6.4ポイント増えています。

年代別でみると、各年代とも「どちらともいえない」が最も多く、その中でも30歳代で7割を超えています。《満足》している割合は、70歳代以上で34.8%と多くなっています。



【前々回調査との比較】

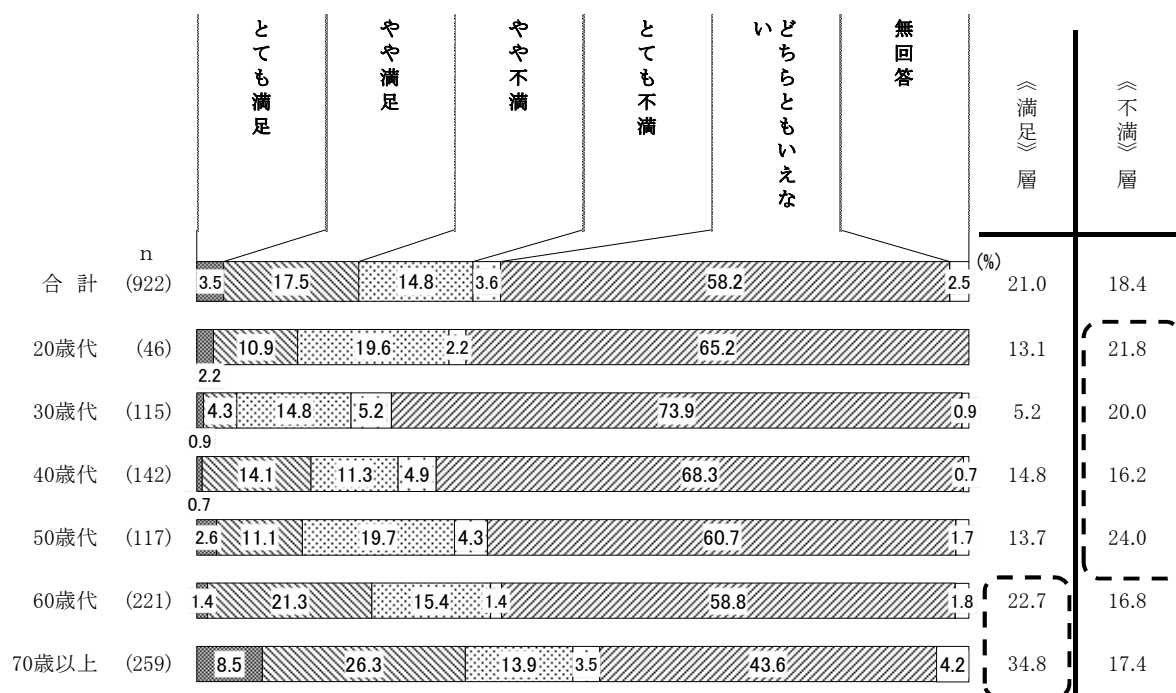


※「どちらともいえない」は平成22年度調査では「わからない」となっている。

※前回調査では同じ設問がないため、前々回調査との比較となっている。

第2章 調査結果の詳細

【年代別】



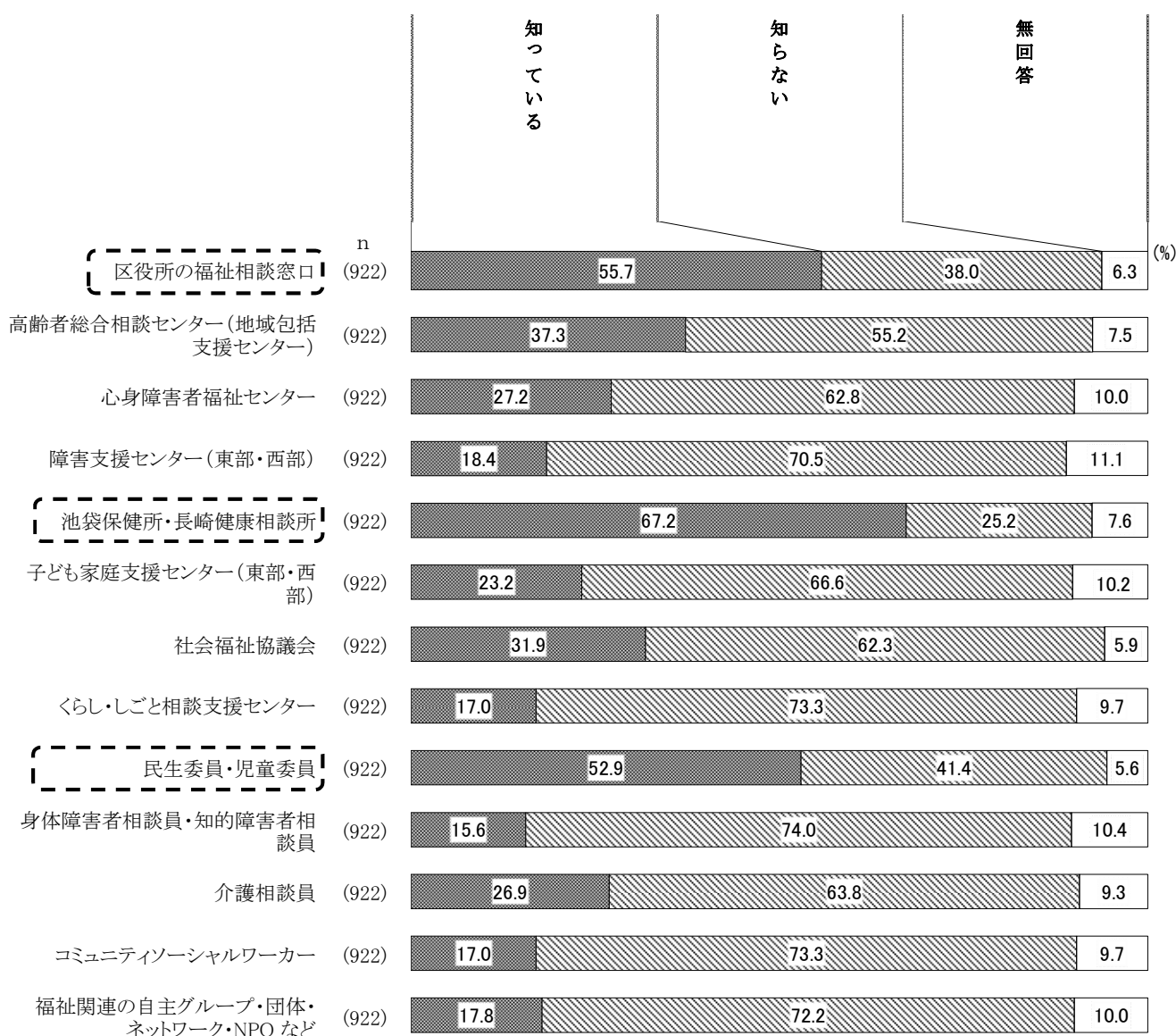
(3) 各種相談窓口の周知度、相談経験、相談の意向

問22 以下のアからスの相談窓口（人）についてうかがいます。

- ①知っていますか。
 - ②相談したことがありますか。
 - ③困った時に相談したいと思えますか。（利用予定の有無は問いません）
- それぞれ該当するものに1つ○をつけてください。

① 周知状況（知っていますか）

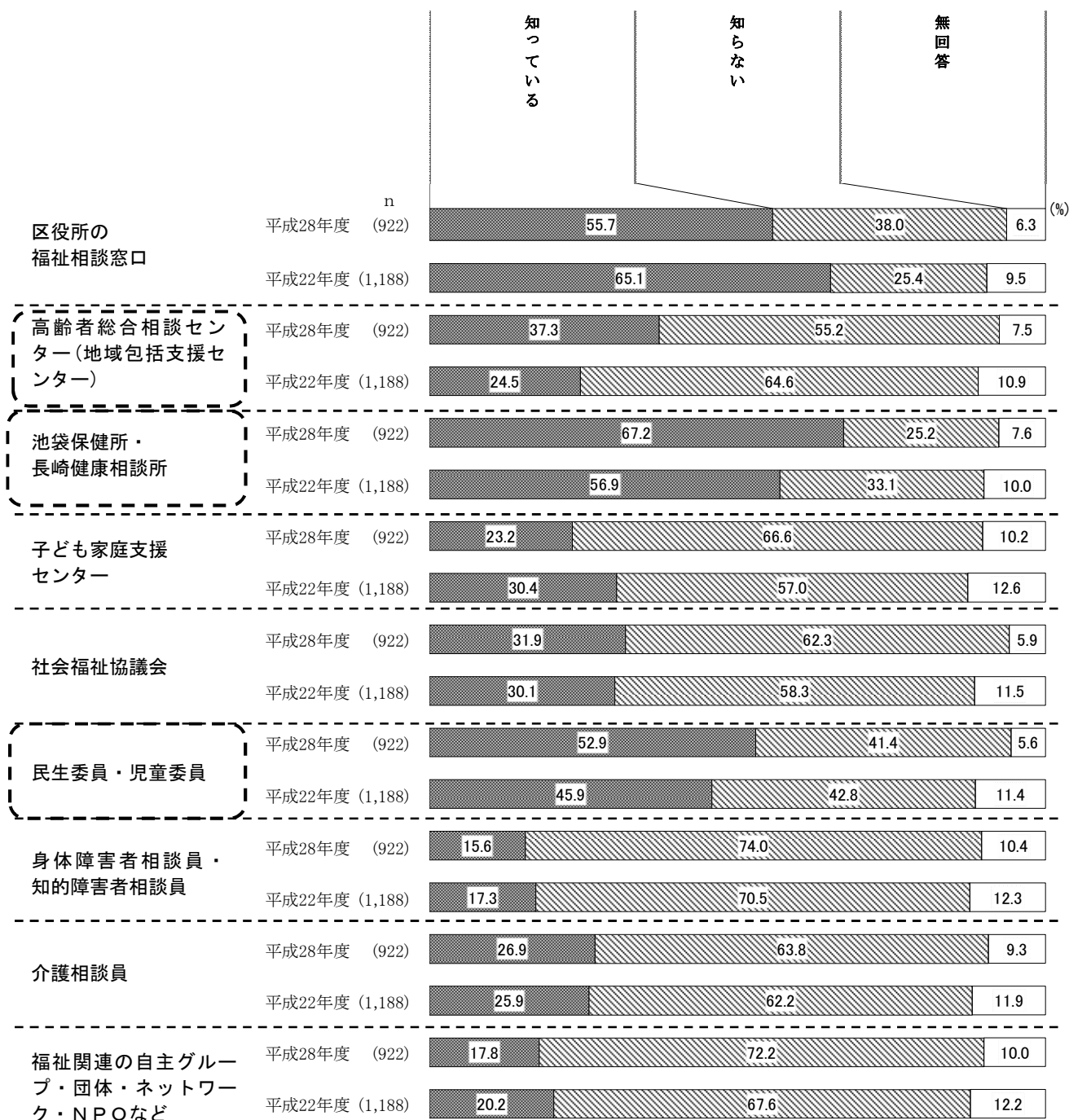
各種相談窓口の認知度について、周知度が5割を超える相談窓口は、「区役所の福祉相談窓口」「池袋保健所・長崎健康相談所」「民生委員・児童委員」の3つです。一方で、約7割の人が障害支援センター、くらし・しごと相談支援センター、身体障害者相談員・知的障害者相談員、コミュニティソーシャルワーカー、福祉関連の自主グループ・団体・ネットワーク・NPOなどを「知らない」と回答しています。



第2章 調査結果の詳細

前々回調査と比べると、周知度が5ポイント以上増えた窓口は、高齢者総合相談センター（12.8ポイント増）、池袋保健所・長崎健康相談所（10.3ポイント増）、民生委員・児童委員（7.0ポイント増）となっています。

【前々回調査との比較】

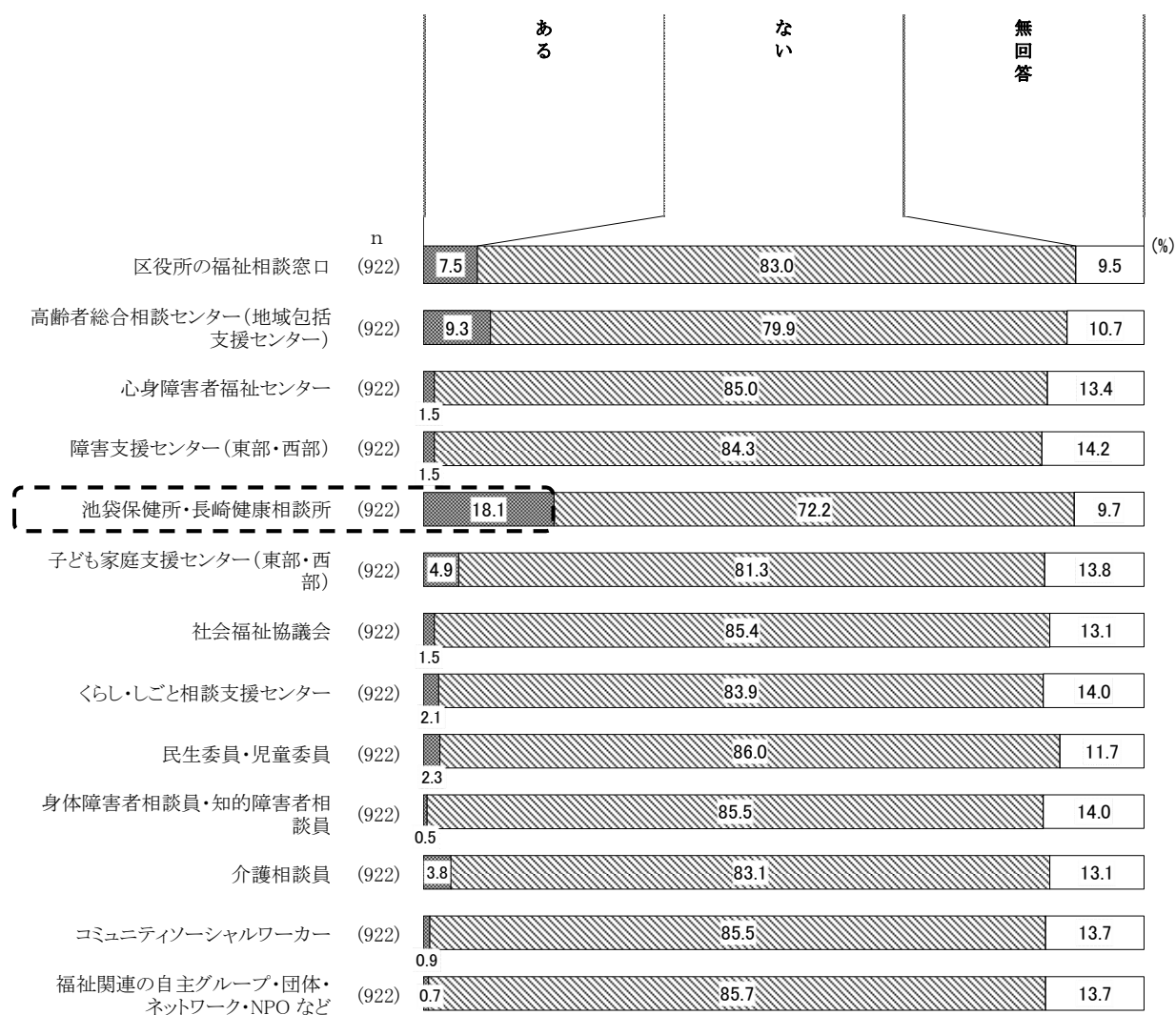


※心身障害者福祉センター、障害支援センター、暮らし・しごと相談支援センター、コミュニティソーシャルワーカーは今回調査からの新規項目。

※前回調査では同じ設問がないため、前々回調査との比較となっている。

② 相談の経験（相談したことがありますか）

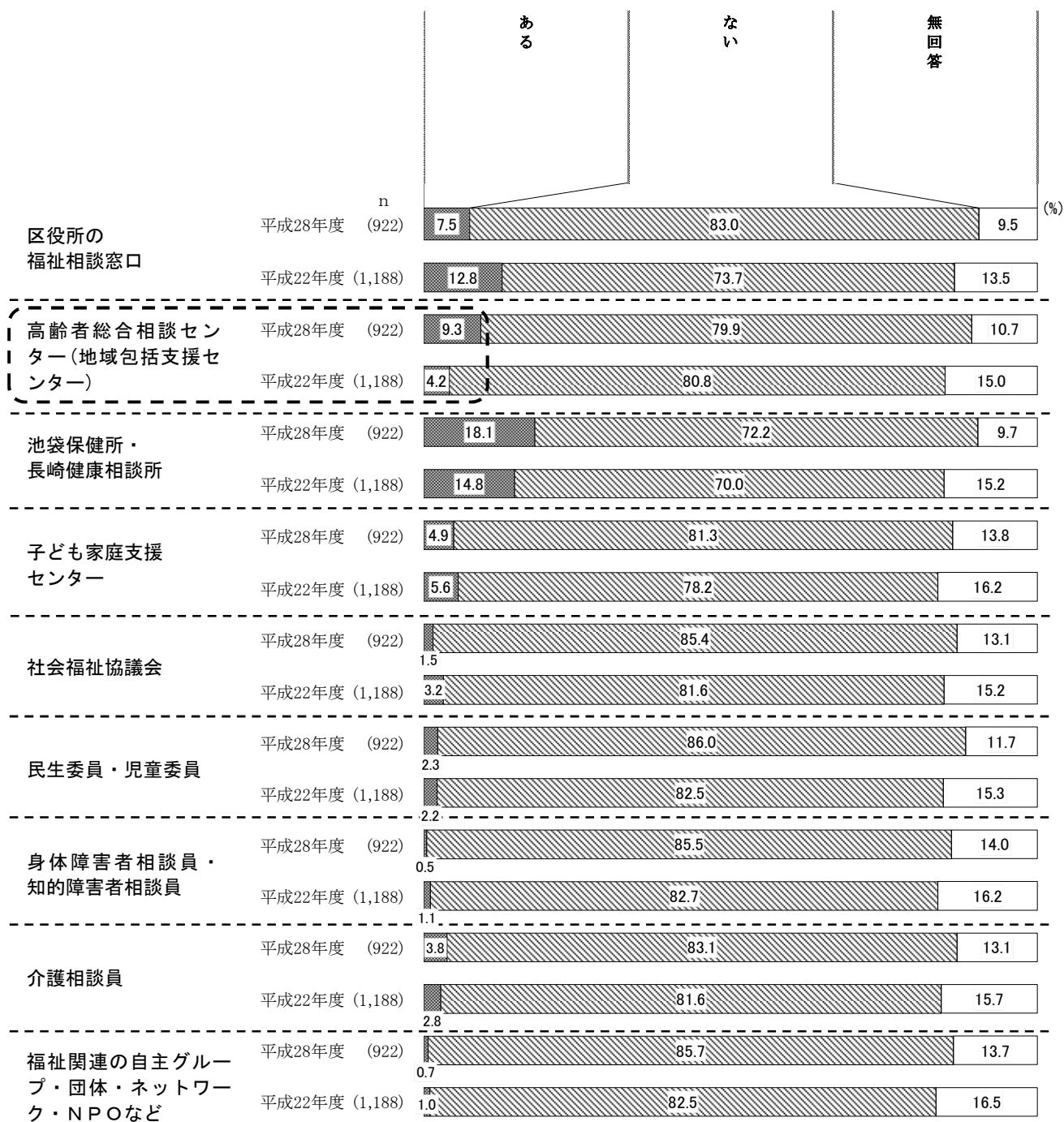
各種相談窓口の利用経験について、池袋保健所・長崎健康相談所に相談したことが「ある」と回答した人は18.1%です。それ以外の相談窓口の利用経験は1割に満たない状況です。



第2章 調査結果の詳細

前々回調査と比較して、高齢者総合相談センターは相談経験の割合が5.1ポイント増えました。

【前々回調査との比較】

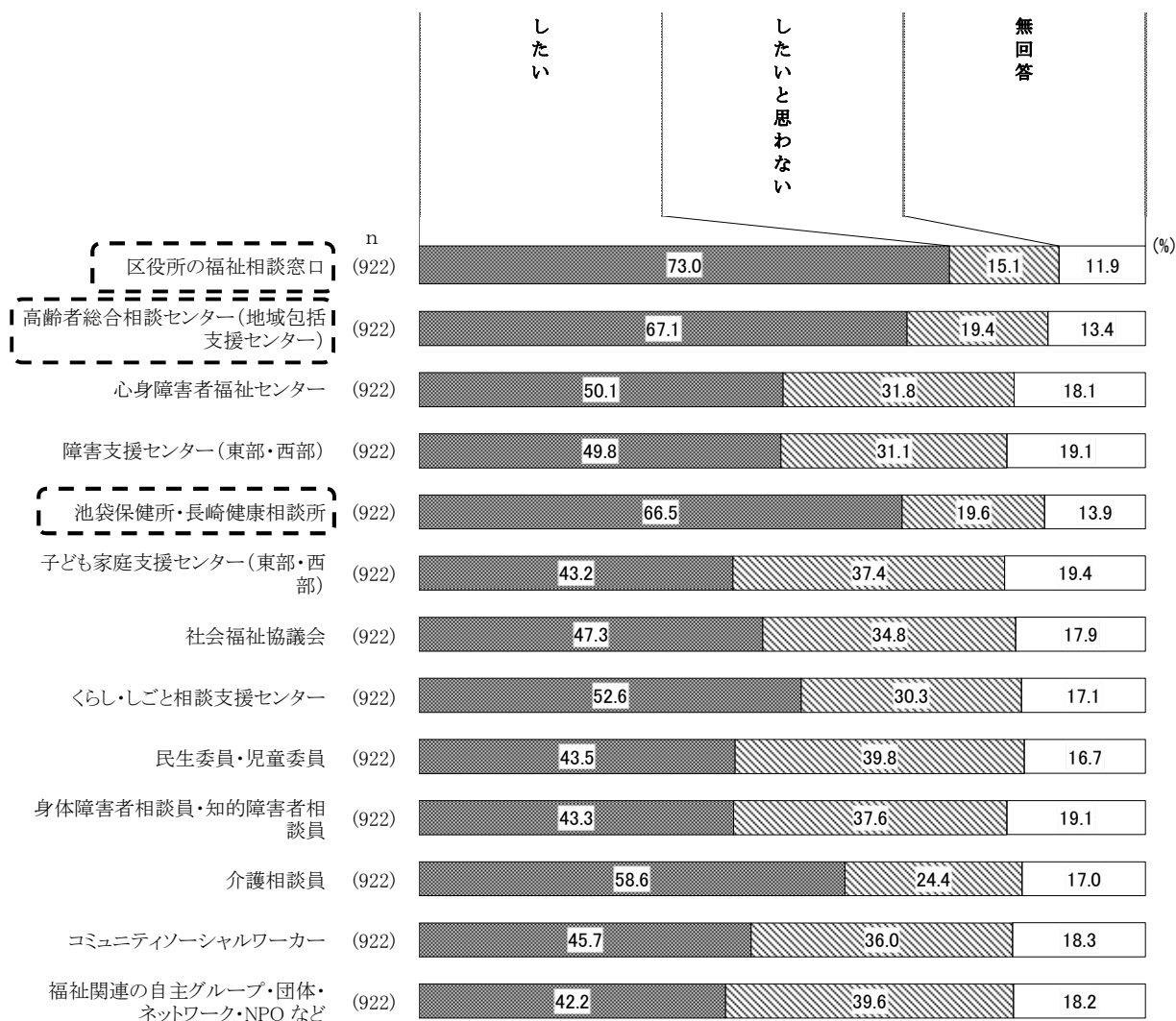


※心身障害者福祉センター、障害支援センター、暮らし・しごと相談支援センター、コミュニティソーシャルワーカーは今回調査からの新規項目。

※前回調査では同じ設問がないため、前々回調査との比較となっている。

③ 困った時の相談意向（困った時に相談したいと思いますか）

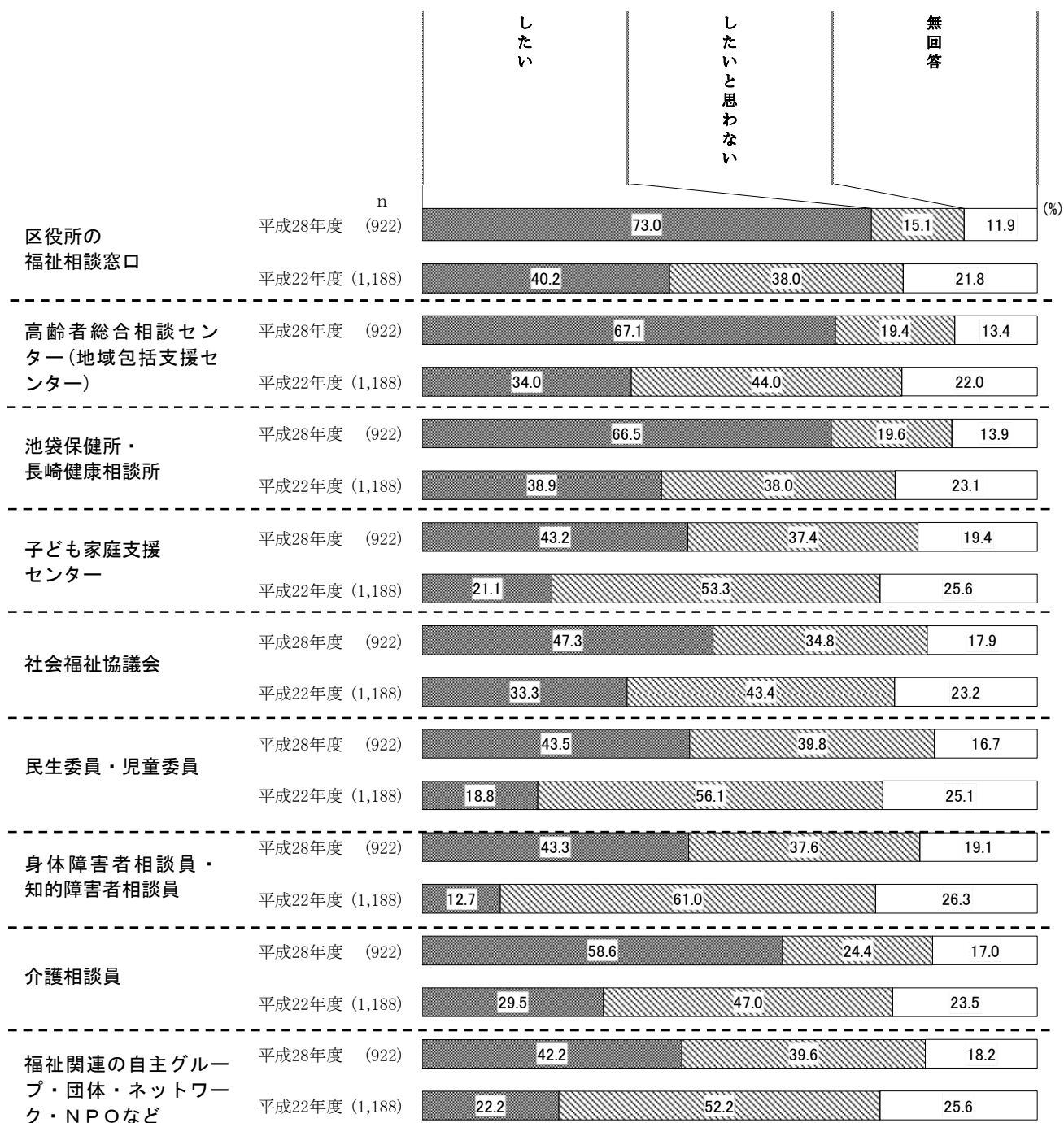
困った時に相談したいと思う相談窓口について、区役所の福祉相談窓口で相談「したい」と回答した人は73.0%で最も多く、次いで高齢者総合相談センター、池袋保健所・長崎健康相談所と続きます。



第2章 調査結果の詳細

前々回調査と比較して、どの相談窓口とも困った時の相談意向は大きく増加しています。

【前々回調査との比較】



※心身障害者福祉センター、障害支援センター、暮らし・しごと相談支援センター、コミュニティソーシャルワーカーは今回調査からの新規項目。

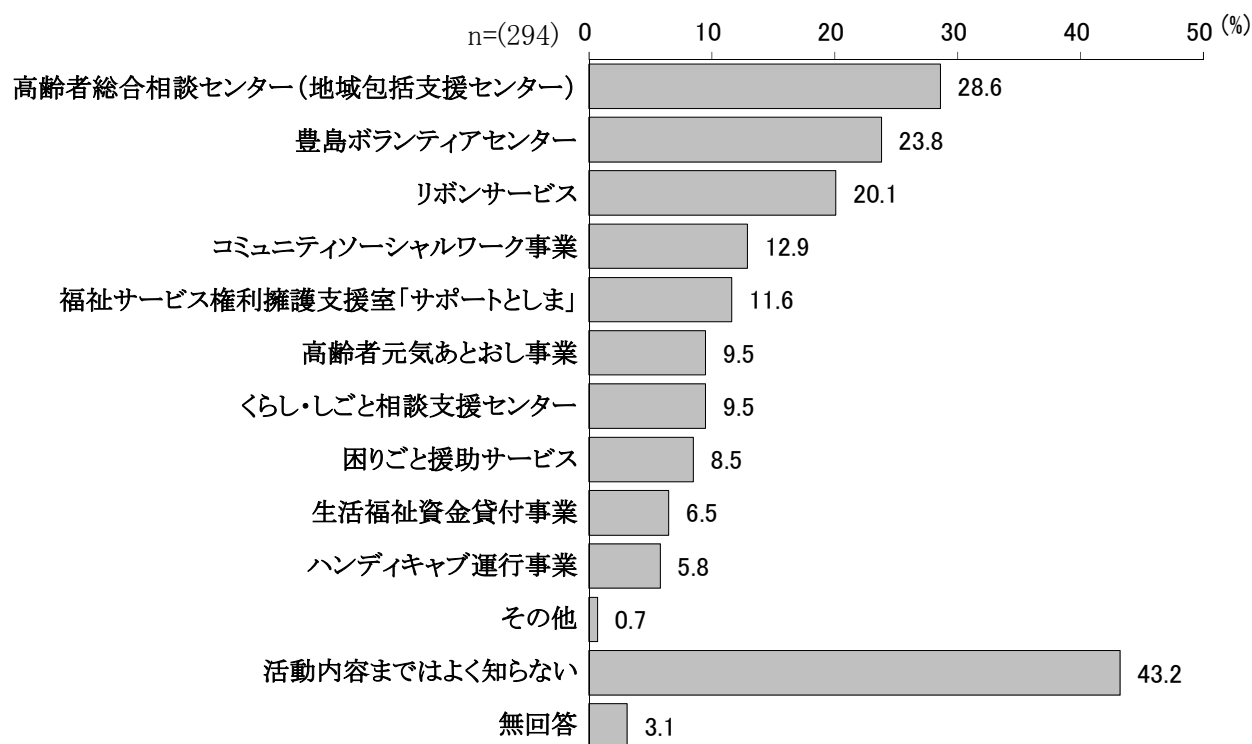
※前回調査では同じ設問がないため、前々回調査との比較となっている。

(4)「社会福祉協議会」の活動内容の認知度

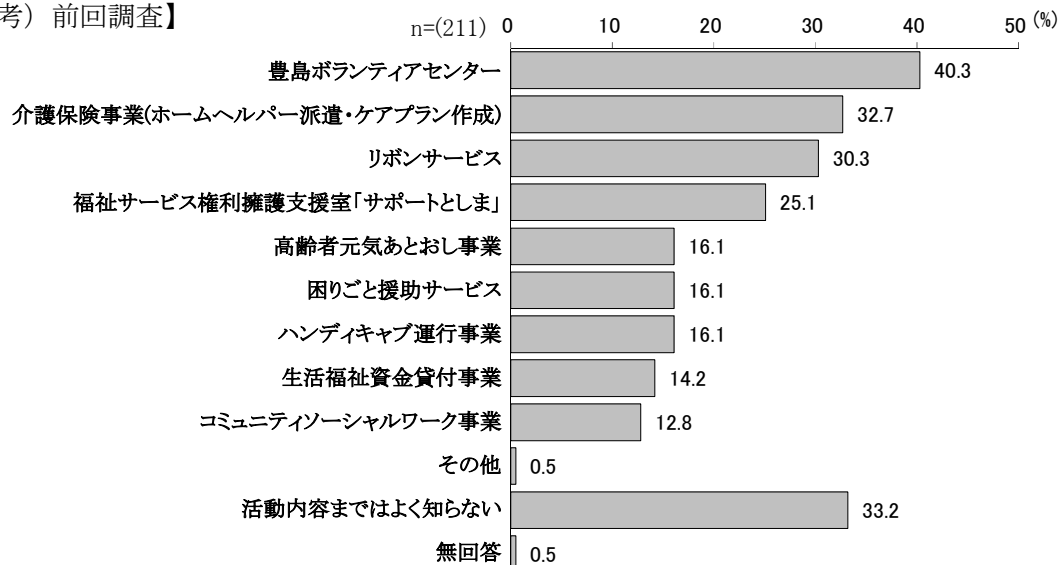
【問22①で「(キ. 社会福祉協議会) 1. 知っている」とお答えの方に】

問22-1 区内には地域福祉活動を推進し、社会福祉への住民参加を促し、福祉に対する意識向上のための諸活動を行う民間の「社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織の活動内容をご存知ですか。(〇はいくつでも)

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会の活動内容の認知度については、「高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)」をあげる人が28.6%と最も多く、次いで「豊島ボランティアセンター」(23.8%)、「リボンサービス」(20.1%)と続いています。一方、4割以上の方は「活動内容まではよく知らない」と回答しています。



【(参考) 前回調査】



第2章 調査結果の詳細

【年代別】（単位：％）

	回答数 (件)	高齢者総合相談センター (地域包括支援センター)	豊島ボランティアセンター	リボンサービス	コミュニケーションワーク事業	福祉支援室「サポートとしま」	高齢者元気あとおし事業	暮らし・しごと相談支援センター	困りごと援助サービス	生活福祉資金貸付事業
合計	294	28.6	23.8	20.1	12.9	11.6	9.5	9.5	8.5	6.5
年代別	20歳代	7	-	14.3	14.3	-	14.3	-	14.3	-
	30歳代	15	33.3	40.0	6.7	13.3	13.3	6.7	20.0	20.0
	40歳代	42	26.2	19.0	16.7	4.8	4.8	-	7.1	4.8
	50歳代	44	31.8	29.5	15.9	20.5	15.9	9.1	15.9	9.1
	60歳代	87	31.0	27.6	23.0	14.9	11.5	11.5	12.6	9.2
	70歳以上	92	27.2	18.5	23.9	12.0	12.0	13.0	3.3	10.9

	ハンディキャップ運行事業	その他	活動内容まではよく知らない	無回答
合計	5.8	0.7	43.2	3.1
年代別	20歳代	-	-	71.4
	30歳代	-	-	33.3
	40歳代	4.8	-	61.9
	50歳代	6.8	-	43.2
	60歳代	5.7	-	35.6
	70歳以上	7.6	2.2	40.2

※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

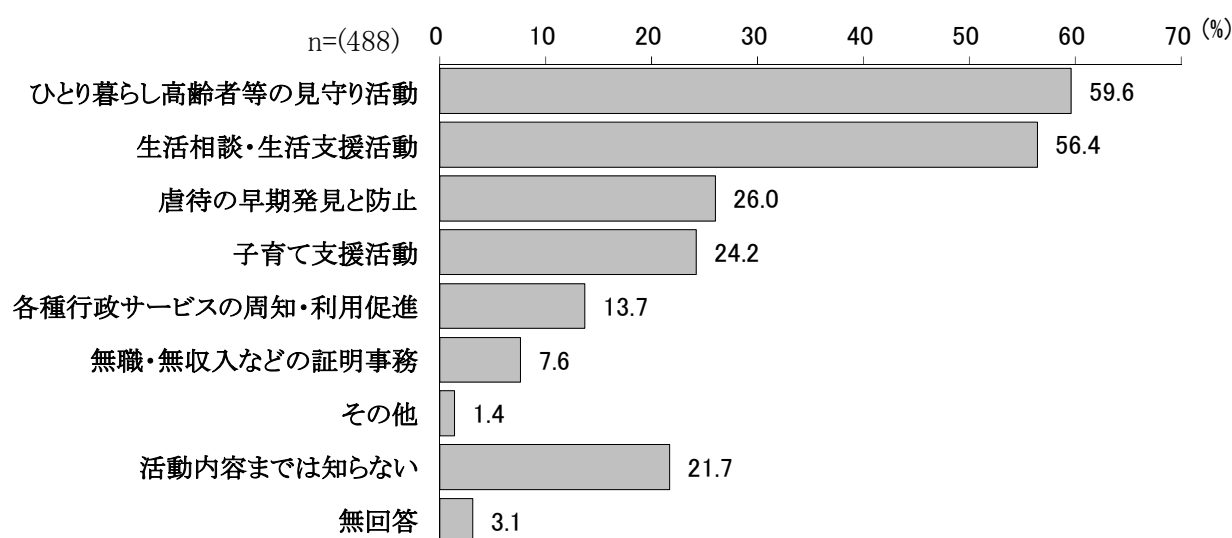
(5) 「民生委員・児童委員」の認知度

【問22で①で「(ケ. 民生委員・児童委員) 1. 知っている」とお答えの方に】

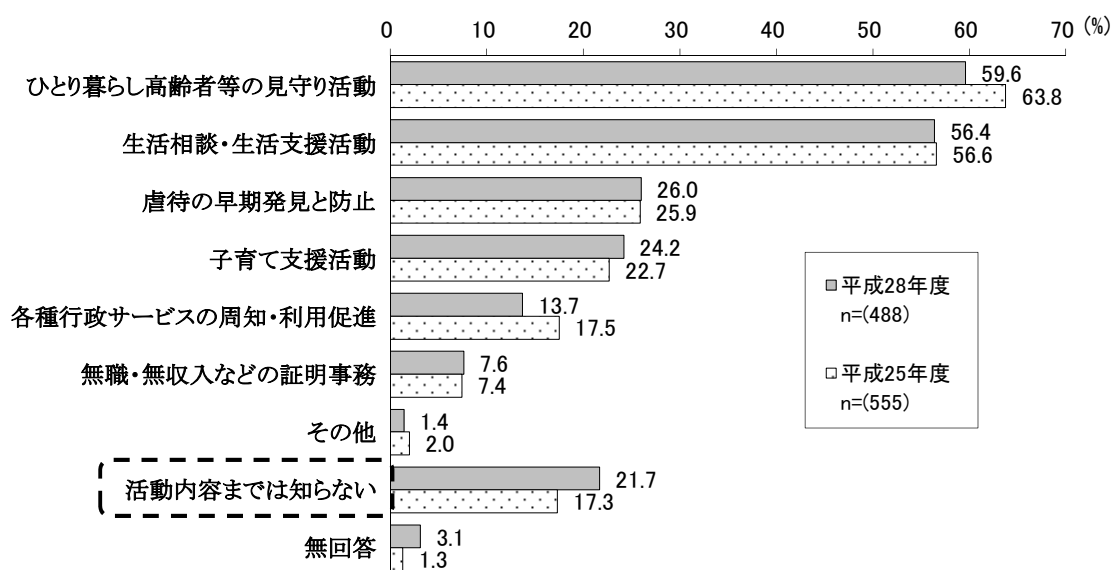
問22-2 各区市町村には「地域で常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な支援を行う」等の目的で、厚生労働大臣から委嘱を受けた『民生委員・児童委員』とよばれる方がいます。この方たちの活動内容をご存知ですか。(〇はいくつでも)

民生委員・児童委員の活動内容の認知度については、「ひとり暮らし高齢者等の見守り活動」との回答が59.6%と最も多く、次いで「生活相談・生活支援活動」(56.4%)、「虐待の早期発見と防止」(26.0%)と続いています。一方、約2割の人が「活動内容までは知らない」と回答しています。

前回調査と比べると、「活動内容までは知らない」の回答が増えています。



【前回調査との比較】



第2章 調査結果の詳細

【年代別】（単位：％）

	回答数 (件)	ひとり暮らし高齢者 等の見守り活動	生活相談・生活支援 活動	虐待の早期発見と防 止	子育て支援活動	各種行政サービスの 周知・利用促進	無職・無収入などの 証明事務	その他	活動内容までは知ら ない	無回答
合 計	488	59.6	56.4	26.0	24.2	13.7	7.6	1.4	21.7	3.1
年代別	20歳代	6	50.0	50.0	33.3	-	16.7	-	33.3	-
	30歳代	33	57.6	45.5	48.5	39.4	9.1	12.1	18.2	6.1
	40歳代	69	60.9	59.4	31.9	39.1	8.7	2.9	13.0	1.4
	50歳代	68	64.7	58.8	33.8	29.4	27.9	10.3	23.5	2.9
	60歳代	145	57.9	58.6	24.8	23.4	9.0	6.2	27.6	2.8
	70歳以上	158	60.8	55.7	15.8	12.0	15.2	8.9	18.4	3.8

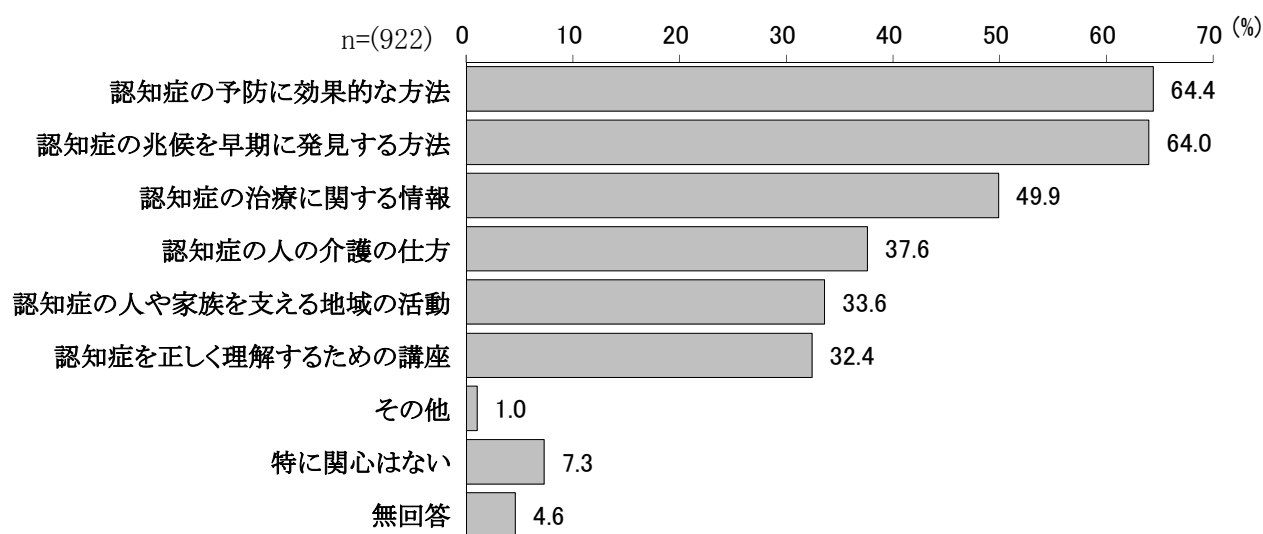
※網掛けは最大値（ただし回答数30件未満を除く）

(6) 認知症への関心度

問23 認知症についてどのようなことに関心がありますか。(〇はいくつでも)

認知症について関心のあることは、「認知症の予防に効果的な方法」との回答が64.4%と最も多く、次いで「認知症の兆候を早期に発見する方法」(64.0%)、「認知症の治療に関する情報」(49.9%)と続いています。

年代別でみると、「認知症の予防に効果的な方法」との回答は、50～60歳代で約7割と多くなっています。



【年代別】(単位：%)

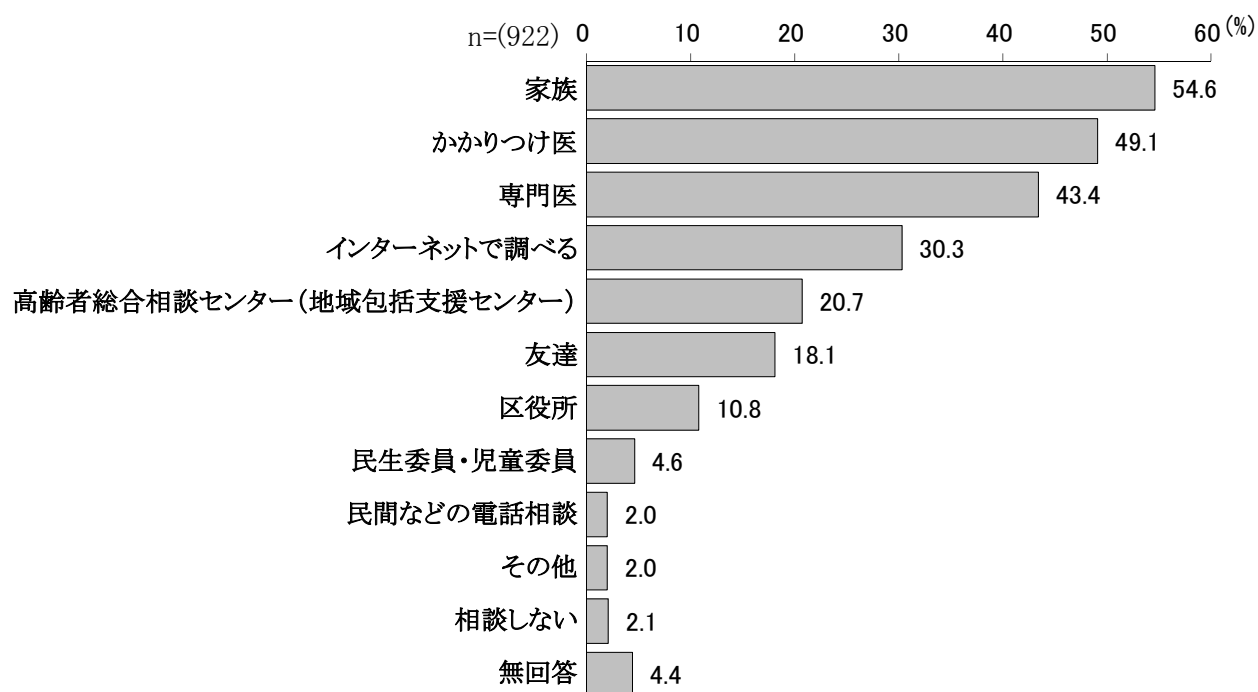
年代別	回答数 (件)	認知症の予防に効果的な方法	認知症の兆候を早期に発見する方法	認知症の治療に関する情報	認知症の人の介護の仕方	認知症の人や家族を支える地域の活動	認知症を正しく理解するための講座	その他	特に関心はない	無回答
合計	922	64.4	64.0	49.9	37.6	33.6	32.4	1.0	7.3	4.6
20歳代	46	63.0	60.9	45.7	43.5	32.6	19.6	2.2	10.9	-
30歳代	115	60.0	60.0	48.7	52.2	54.8	33.9	-	9.6	-
40歳代	142	63.4	64.8	56.3	49.3	47.9	33.1	0.7	8.5	2.1
50歳代	117	69.2	65.8	56.4	45.3	42.7	35.0	0.9	10.3	1.7
60歳代	221	68.3	66.1	52.9	35.3	29.0	34.4	0.5	6.8	0.9
70歳以上	259	64.5	66.4	45.2	23.9	18.1	32.4	1.9	4.6	8.1

※網掛けは最大値 (ただし回答数30件未満を除く)

(7) 認知症の相談先

問24 身近な人で認知症の心配がある場合、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

身近な人で認知症の心配がある場合の相談相手は、「家族」との回答が54.6%と最も多く、次いで「かかりつけ医」(49.1%)、「専門医」(43.4%)と続いています。一方、「相談しない」との回答は2.1%でした。



【家族構成別】(単位：%)

	回答数 (件)	家族	かかりつけ医	専門医	インターネットで調べる	高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)	友達	区役所	民生委員・児童委員	民間などの電話相談
合計	922	54.6	49.1	43.4	30.3	20.7	18.1	10.8	4.6	2.0
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	229	44.5	42.4	40.2	22.7	17.5	10.5	5.7	2.6
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	123	56.1	47.2	52.0	49.6	25.2	10.6	3.3	2.4
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	111	50.5	61.3	36.0	11.7	22.5	14.4	11.7	0.9
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	32	40.6	59.4	50.0	18.8	15.6	15.6	-	3.1
	二世世代家族(親と子)	310	65.8	50.3	47.1	39.7	21.9	20.6	11.0	3.2
	三世世代家族(親と子と孫)	52	57.7	51.9	48.1	26.9	30.8	13.5	11.5	9.6
	兄弟姉妹のみ	13	38.5	53.8	23.1	7.7	30.8	-	30.8	15.4
	その他	17	76.5	58.8	41.2	23.5	11.8	5.9	11.8	5.9

	その他	相談しない	無回答	
合計	2.0	2.1	4.4	
家族構成別	単身(ひとり暮らし)	3.9	5.2	5.2
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	1.6	0.8	-
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	-	-	5.4
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	-	6.3	-
	二世世代家族(親と子)	1.3	0.6	1.3
	三世世代家族(親と子と孫)	3.8	-	5.8
	兄弟姉妹のみ	-	7.7	7.7
	その他	-	-	-

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

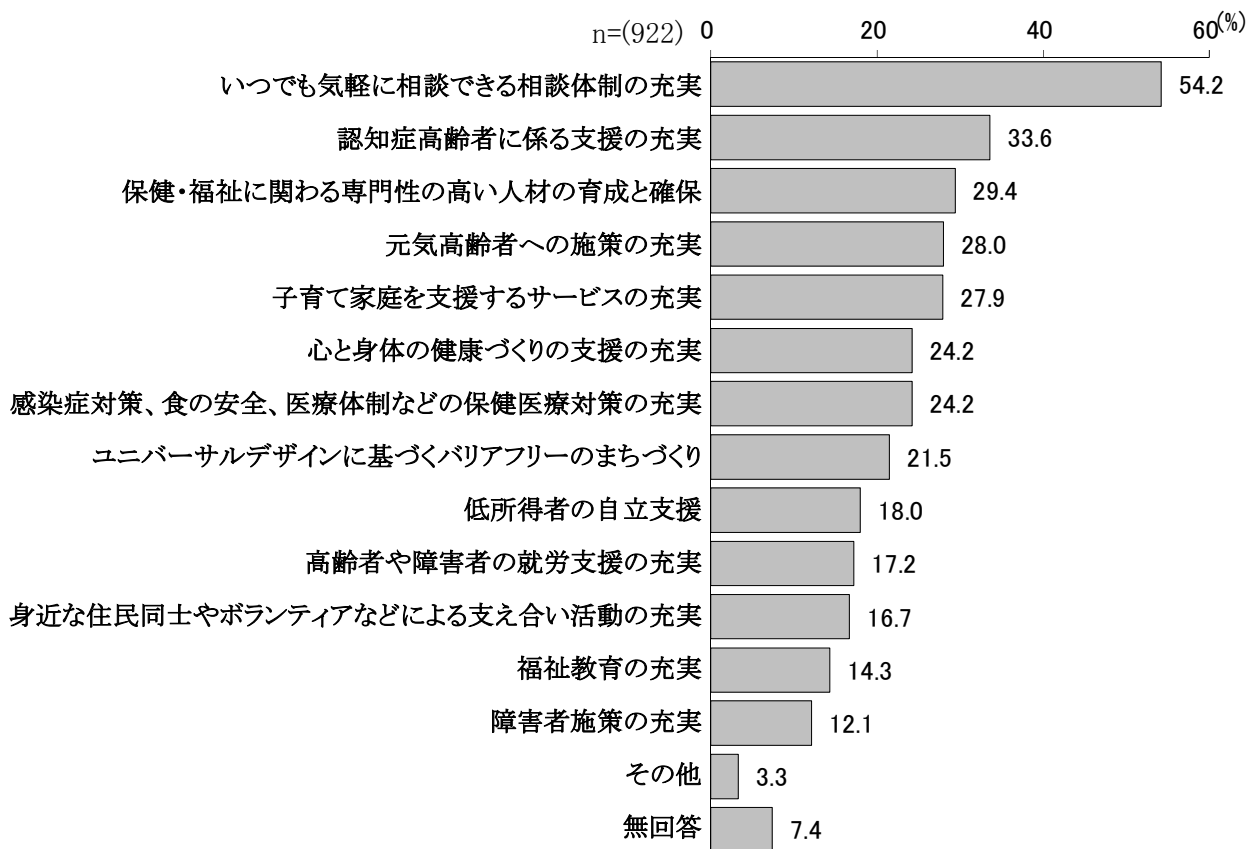
(8) 地域の保健福祉の推進で力をいれてほしいこと

問25 豊島区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいます。あなたはどのようなことに力をいれてほしいですか。(〇はいくつでも)

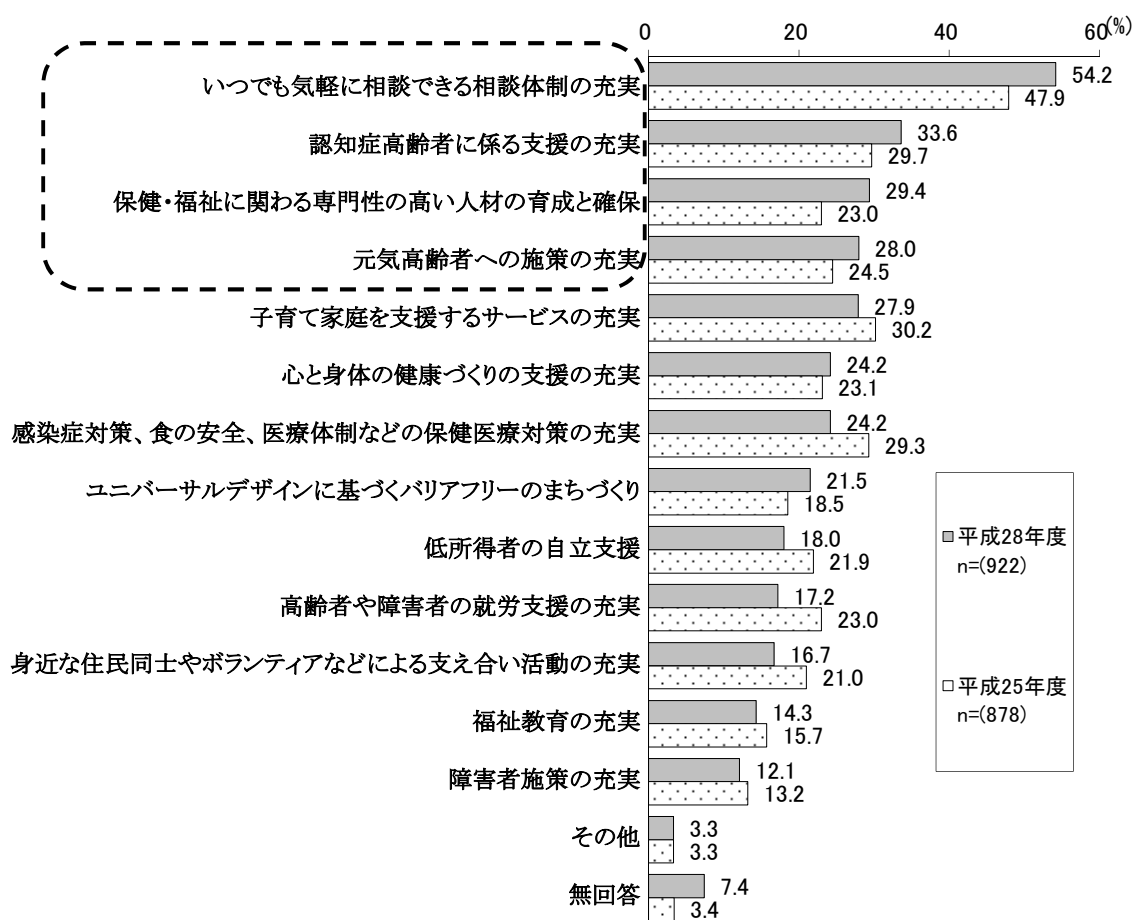
地域の保健福祉の推進で力をいれてほしいこととしては、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」との回答が54.2%と最も多く、次いで「認知症高齢者に係る支援の充実」(33.6%)、「保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成と確保」(29.4%)と続いています。

前回調査と比べると、上位5つのうち、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」「認知症高齢者に係る支援の充実」「保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成と確保」「元気高齢者への施策の充実」が増えています。

年代別でみると、年代により最多の項目が異なり、20～30歳代では「子育て家庭を支援するサービスの充実」、40歳代以上では「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」との回答がそれぞれ最も多くなっています。



【前回調査との比較】



【(参考) 前々回調査 (平成22年度)】 n=(1,188) (単位：%)

項目	割合 (%)
いつでも気軽に相談できる身近な窓口や専門的な窓口の充実	42.1
支援が必要な人にサービスを総合的に提供できる仕組みづくり	40.7
保健・医療・福祉のサービス利用に関する情報提供の充実	33.7
防災対策や事故・犯罪を予防する安全対策の充実	33.2
子どもの育ちや子育て家庭を支援するサービスの充実	24.6
感染症対策、食の安全、医療体制などの保健医療対策の充実	22.3
誰もが快適に過ごせる、障壁(バリア)のないまちづくり	21.0
認知症高齢者などが福祉サービスを適切に利用できる支援の充実	18.9
住民や地域の活動団体、行政がともに取り組む仕組みづくり	17.3
高齢者の健康保持のための介護予防事業の充実	15.7
学校教育や生涯学習において保健・福祉を学ぶ場の充実	14.6
高齢者や障害者の自立や社会参加、就労を支援するサービスの充実	13.7
身近な住民同士やボランティアなどによる支え合いの充実	12.0
保健・福祉に関わる専門性の高い人材の育成	11.4
国籍等に関わらず、誰もが互いに認め合い、共に生きる社会づくり	11.4
疾病予防など、心と身体の健康づくりの支援の充実	11.0
その他	1.9
無回答	10.1

第2章 調査結果の詳細

【年代別】(単位：%)

	回答数(件)	いつでも気軽に相談できる相談体制の充実	認知症高齢者に係る支援の充実	保健・福祉に関する専門性の高い人材の育成と確保	元気高齢者への施策の充実	子育て家庭を支援するサービスの充実	心と身体の健康づくりの支援の充実	全、医療体制などの保健医療対策の充実	感染症対策、食の安全	ユニバーサルデザインのまちづくり	低所得者の自立支援
合計	922	54.2	33.6	29.4	28.0	27.9	24.2	24.2	21.5	18.0	
年代別	20歳代	46	30.4	21.7	23.9	6.5	50.0	21.7	23.9	30.4	26.1
	30歳代	115	45.2	24.3	33.9	13.9	61.7	20.9	26.1	21.7	12.2
	40歳代	142	55.6	33.1	31.7	24.6	33.1	21.1	33.8	28.2	19.7
	50歳代	117	57.3	37.6	41.9	25.6	26.5	29.1	22.2	23.9	18.8
	60歳代	221	59.7	38.5	27.1	30.8	22.2	24.4	22.6	22.2	20.4
	70歳以上	259	58.3	35.9	24.3	39.4	12.7	26.3	21.2	15.4	17.4

	高齢者や障害者の就労支援の充実	身近な住民同士やボランティアなどによる支え合い活動の充実	福祉教育の充実	障害者施策の充実	その他	無回答	
合計	17.2	16.7	14.3	12.1	3.3	7.4	
年代別	20歳代	10.9	8.7	19.6	15.2	2.2	6.5
	30歳代	15.7	14.8	17.4	12.2	6.1	1.7
	40歳代	21.1	15.5	18.3	14.1	4.2	2.8
	50歳代	17.1	15.4	14.5	15.4	2.6	4.3
	60歳代	24.4	15.4	15.4	14.0	1.8	5.9
	70歳以上	11.2	22.4	9.7	8.5	3.1	10.0

※網掛けは最大値(ただし回答数30件未満を除く)

(9) 意見・要望等（自由回答）

問26 身近な生活上の問題で困っていることや保健・福祉の課題について感じていることなど、ご意見を自由にお書きください。

意見・要望等の自由回答欄には、回答者922人のうち、246人（記入の割合26.7%）の方に記入いただきました。本報告書では、紙面の都合上すべてを掲載することができませんので、その一部を紹介いたします。掲載内容は、恣意的な解釈が入らないよう、できる限り原文に近い表記とさせていただきます。一番記載の多かった内容は、「医療・健康づくりに関すること」で41件、次に「高齢者に関すること」（40件）、「まちづくりに関すること」（38件）、「区政全般に関すること」（34件）と続いています。

分野	件数
医療・健康づくりに関すること	41
高齢者に関すること	40
まちづくりに関すること	38
区政全般に関すること	34
区民の意識・モラル等に関すること	31
所得・税金・生活困窮に関すること	23
子ども・子育てに関すること	21
住民同士の支え合いや地域活動に関すること	20
防災・防犯に関すること	12
障害者に関すること	9
外国人・異文化に関すること	9
ボランティア活動に関すること	6
認知症に関すること	6
その他	16

※1人で複数の記載があるため、件数の合計と記入者数と一致しません。

【医療・健康づくりに関すること】

病気などのことを病院以外の機関で相談できるところがあるといいなあと思います。（女性50代、中央地区1）

隠れ各依存症（アルコール・ギャンブル・買い物・薬物等）対策について、医療機関はもっと知識や力を注いで欲しいと思う。独りで抱え込み、悩んでいる人を見かけることがあります。（女性60代、西部地区2）

病院がいつでも混んでいること。銀行のように、明確に番号札を渡したりして順番を明確にして欲しい。（女性30代）

年に一度の特定健診後の結果次第では、様々な手厚いアフターケアがあり驚きました。もうすぐ70才になりますが周りに迷惑をかけないように、これらを利用していかなければと切に思いました。（女性60代、中央地区3）

第2章 調査結果の詳細

高齢者が増えている現在、医療費が増える一方で大変問題だと思っています。65才の高齢者になる前に健康維持のための運動や食事指導等、地域で行えるような仕組みを作る必要があると思います。 (女性70代)
心のケア、ストレスなどの相談ができる心療内科等の専門の先生が予約制で気軽に相談できると良いと思う。アメリカみたいになんかちょっと話したい時とかに利用できるように。(女性50代、東部地区1)
現在スポーツジムに通っています。おかげで体重も平均値をキープし筋力も付き、足・腰・肩等痛いところ知らずです。是非このような者に対し、スポーツジム費用の一部を負担していただける制度があれば大変励みになります。(男性60代、西部地区2)
私が常に感じていることは自分の身体を病院まかせにしないこと。そんな風に考えている年寄りが少ないように思う。(女性60代、東部地区2)

【高齢者に関すること】

健康寿命の延長、閉じこもり予防、生きがい対策等の観点から、施設数を7～8ヶ所程度確保していただけたらと思っています。(女性60代、東部地区2)
高齢者が増えており、介護できる方々の不足。老々介護で困っていても助けを求めない方が多い。 (女性50代、中央地区2)
終末期の在り方(望む場所で最期を迎えられない、医療費の負担)や若年者の働き元(健全な働き方をしつつ、生活できるだけの収入を得る)について取り組む必要があると思っています。(女性20代、東部地区2)
高齢者が一人で安心して住める施設が少ない。(女性40代、東部地区2)
特別養護老人ホームが少ない。将来、入居できないことも考えられる。(男性60代、中央地区2)
病院または介護のための駐車場の優遇があれば良い。現在は障害者手帳が無ければ、歩行困難者駐車許可が取れないため、老いて歩けない人は対象外になっている。(男性50代、中央地区2)
高齢になると膝腰体の動きも鈍くなります。それを予防するための“スポーツの場”等の施設や講習の場を作って頂けたら嬉しいと思います。なかなか一人ではできなくて、皆さんと一緒に体を動かす事で楽しさや意欲も出て、予防にもつながるのではないかと思います。(女性70代)
高齢者の入所施設が少ない事、高額な民間の施設にいつまで入所していただけるのか不安。少しでも安くするために遠方の施設を選ばないといけない状況です。(女性、中央地区1)

【まちづくりに関すること】

最近点字ブロック等が充実されていると思う。(男性50代、東部地区2)
池袋東口でベビーカーを上げるのに困っている方をたまに見かける。また、ツーリストも多いので大きなキャリーを上げるのが大変そう(階段だから)。百貨店などが開いていればエレベーターやエスカレーターも使えるが、人の多い池フクロウ前にはない。(女性30代、中央地区1)
池袋の街の景観が汚い、風俗店の看板など。また道の狭いところに看板や、店員が出て宣伝しているところは歩きづらく、見通しも悪い。安全面でも不安です。(女性30代、東部地区2)
道路の整備は進んでいるが、歩道の整備が進んでおらずデコボコで雨の日は水がたまり歩きづらい。特に視力の不自由な方、車いすの方が苦慮している。早く整備が進むといいと思う。(女性40代、東部地区1)

自転車通行や子供の通行が多い道は、電柱を埋めて、少しでも安全に通れるようにして欲しい。(女性30代、東部地区1)
安心安全に暮らせる街造り、それに老人・子供が安全に遊べる公園等です。公園は非常の際の避難場所にもなりますが、近くに無い事が一番心配です。(男性60代、中央地区4)
近くの駐輪場には子供乗せ自転車用のスペースがなく、いつも駅前に行く際に、駐輪スペースがなく困っている。子育て世代には、子供を乗せられる大型自転車が生活に欠かせないが、機械式のスタンドだと前カゴ(子供が乗る部分)が大きすぎて入らない場合が多い。(女性30代、西部地区1)
スポーツや運動ができる広い施設(公園等)がない。(男性20代、東部地区1)

【区政全般に関すること】

「東京都健康長寿医療センター」と各区との共催による講座など(内容、自由参加、人数制限なし)に興味があり、情報収集して、他区のホールに出かけ最新医療、健康知識に刺激を受けております。(男性80代、中央地区2)
自分が住んでいる場所を担当している民生委員は誰なのか知らないのが現状です。自分のことが自分で出来なくなった場合、周囲に手伝ってくれる人がいない(現在は一人生活)場合はどうしたらいいのか。(男性70代、中央地区3)
区役所に行ってみて思ったことは「どこに聞いていいのかわからない」ということでした。どんな質問でもとりあえず聞いてくれる窓口があればとても助かります。保健も福祉も繋がりが深いので一括して相談にいけると気軽に利用する人が増えるのではないのでしょうか。(女性40代、西部地区1)
福祉相談窓口に限らないが、保健福祉部の各種窓口、土日にも対応できるようにして欲しい。(男性50代、西部地区2)
各種行政サービスは充実していると思うが、相談する際の窓口がどこなのか、やや分かりにくい。名称の付け方に整合性があるよう、統一感があるように整理されていれば相談のハードルが下がるように思う(区だけの話ではないが)。(男性40代、東部地区1)
これまで困る事がほぼなかったが故に、考えてもみなかった事が多いことに気付きました。区の実情、ほぼ知りません(男性40代、東部地区1)
豊島区は東京都内23区の中で唯一、消滅都市と言われている状況の中で、区は“国際アート・カルチャー都市”“文化と品格を誇る街”を標榜しているが、夢のようなことを追わず、泥臭く地に足をつけた区民全体の生活レベルの向上にスポットを当て、健康で幸福な人生が送られるよう保健福祉の充実に一番力を注いでもらいたい。(男性70代、東部地区1)

【区民の意識・モラル等に関すること】

歩道は自転車が我がもの顔で走っています。もっと区で呼びかけが必要だと思います。狭い道では車や自転車が通るのでお年寄りや、子供さんたちは危ないので運転、自転車は気をつけるようにしてほしいと思います。(女性60代、中央地区3)
公園(近くの巣鴨公園について)の騒音、環境悪化に困っている。鳥の駆除が行われず。土日の夜に特に多いが、公園内でバスケットのドリブル、サッカーのボール蹴り、サッカーのミニゲームなど午後11時(時には夜中1～3時)に中学生が音を立て睡眠の妨げになる。(男性80代、東部地区2)

第2章 調査結果の詳細

アパートなどに住んでいる一人暮らしの奇行が目立つ人など、騒音迷惑行為など、近所は大変迷惑している。警察も事件でなければ介入しないし、町会・民生委員などで、無人住宅、精神障害のある人など把握して見守りしてもらいたい。(女性60代、中央地区2)
現在の居住地の周辺で路上喫煙(歩きタバコ)を行う人があまりにも多く、辟易しています。23区の他の一部の区では条例で罰則を設け、歩きタバコが激減した自治体もあるようですので、非喫煙者や子供にとっても暮らしやすい区とするために、何卒ご一考いただければと思います。(男性40代、東部地区1)
以前横浜に住んでいたが、豊島区の人々のモラルが非常に低く感じます。歩きタバコ・路上駐車・放置自転車等が他地域に比べ目に付きます。歩道がきれいに整備されている点は良いと感じておりますが、上記だけは非常に残念です。(男性30代、西部地区1)
治安の悪さ。西口の方しか詳しくありませんが、池袋郵便局より駅から遠いエリアは様子のおかしい人が多く、できるだけ行かないようにしています。(女性30代、中央地区3)
直接被害を受けたりしたことは一度もありませんが、ゴミ出しのマナーが悪く、カラスが散らかすので道が汚くなります。(女性20代、中央地区1)

【所得・税金・生活困窮に関すること】

今、困っていることは国民健康保険料を支払うのに、とても生活を圧迫しています。働いても暮らしが楽にならない。生活に余裕がない。(女性60代、西部地区1)
シニア層の仕事を増やしてほしい。仕事が少なく、今後の生活が不安。(女性50代、中央地区3)
単身女性の貧困へも、もっと目を向けて欲しいです。まだまだ女性の所得は少なく、また非正規雇用でしか職を得られない女性が多いにもかかわらず、社会的には高齢者・子育て世代・障害者支援ばかりが優先されています。(女性40代、東部地区2)
生活が苦しい中での住民税とか保険料金等の支払いが高すぎる。税金ばかり取られて、生活が出来ない。もう少し、1万円ずつ位でもいいから皆に渡すとか、この先考えてほしいと言っても何の改善もないでしょうが。(女性40代、中央地区1)
区内に一人暮らしの親がいるが、国民年金だけで苦しい生活をしている。自分は嫁いでいるが、収入が低く援助もできない状態。夫婦で生活保護を受けている人の方が豊かな暮らしができていて、理不尽と感じる。(女性50代、東部地区2)
年金が下がっていくので、将来の生活が心配。介護認定も年々厳しくなっているのを感じる。自分達が介護が必要になった時に十分な支援が得られるのか疑問である。(女性60代、中央地区1)

【子ども・子育てに関すること】

豊島区内の公立小中高校の授業料・教材費・給食費の無償化(含む保育園、幼稚園)。同区内在住の高校生(定時制含む)までの医療保険(医療費)の無償化。同、公立、保育園、幼稚園の一層の増設・延長保育(小学校含む)の拡充(急な病気にも対応できるよう看護師を常駐)。子どもがいる世帯への「ベーシックインカム」の導入。(男性30代、中央地区3)
高齢者が多いのか、そちらに重点を置いているのかと思うのですがこれから私達の社会を支えてくれる子供達のために、そして子育てしやすく産みやすい社会にしていかないと日本の将来は無いと思います。(女性40代、東部地区1)

子育て世代にも住宅を斡旋してほしい。子育てしやすい町づくりを。(男性40代、中央地区2)
現在、待機児童問題にも積極的に取り組まれているとのことですので、近い将来に大きく改善されることを期待しております。また、本来は幼稚園へ入園させたい考えがあっても、現状の制度では働く母親には保育園への選択肢しかないような状況も改善されると良いです。(女性30代、東部地区2)
待機児童を減らすために保育園を増やすだけでなく、家庭で子育てをしているお母さんの支援も充実させてほしい。0～1才の間は家庭で自分で子育てをしたいと思っている人も多いはず。「豊島区ではこんな素敵な支援が受けられる。それなら家庭で育児しようかな。」という若いお母さんを少しでも増やしてほしいです。(女性50代、西部地区1)

【住民同士の支え合いや地域活動に関すること】

地域の活動に興味を持って欲しいが「我関せず」の人が多いのが残念です。(女性70代、東部地区1)
困っていない人は地域社会で何があるか情報が入りにくいです。役に立てる事があればやってみたいとは思いますが。広く若い人にも目につくところに情報があれば。気軽に参加できる入口があればなと思っています(SNSとか)。(女性30代、中央地区4)
働く単身者同士が災害の際に不安が少なくなるよう、交流を持てる場が欲しい(夜・土日など)。(女性40代、中央地区2)
もっと地域の方と親しく、お祭りや地域活動に参加したいと思っていますが、どうすればいいのかわからない。(女性30代、西部地区1)
昨年豊島区に引っ越してきて、マンション一人暮らしです。近所との付き合いはほぼありません。震災を想定した地域での訓練活動や、生活の仕方などの講座なり、集会を是非やるべきです。(女性60代、中央地区3)
しばしば区民ひろばに行きます。男性が少ない。60代後半から70代前半の人が少ないと感じています。なぜでしょう。もっと交流する仕掛があると良いと思います。(男性70代、中央地区2)

【防災・防犯に関すること】

駒込から北区へかけての住居密集地帯での火災対策の実施。年寄りの多い地帯で空家放置もあり、放火や消火しづらさ(道の細さ、一方通行の多さ)が気になる。(女性50代、東部地区1)
犯罪を身近で見聞きする昨今、役所に相談窓口がありません。池袋という巨大な繁華街を抱えている豊島区には絶対に必要だと思います。(女性40代、中央地区2)
不審者情報をよく耳にするので、パトロールを強化してもらいたいです。(女性30代、中央地区2)

【外国人・異文化に関すること】

外国人の居住者が増えていますが、彼らの住まいや健康に関して、サポートする体制があるのか、とても気になります。(女性30代、中央地区1)
外国人、特に韓国・中国・東南アジア人の生活習慣。(男性70代、中央地区3)
さまざまな国籍の外国人が住むのに、それぞれの言語のご案内がないため、手紙を福祉から送られても読めない、理解できない。理解できないため、生活に困難なことがある。もう少し池袋自体が多国籍であることを理解し、見直して頂きたい。(男性60代、中央地区4)

【障害者に関すること】

両親の高齢化に伴う、体の衰えと障害が最も不安であり、経済的自立も出来ていない現状を含め将来への不安が重なりつつあります。(男性50代、中央地区1)
車椅子の無償提供等、障害者に負担が少ない環境へ改善。及び回覧板等による地域の情報交換。上記が必要なのではないかと思います。(男性20代、中央地区4)
障害者の方だけでなく身体の不自由な方もいらっしゃいます。この方々が一人で外出する事がとても不安だと感じます。こちらで「大変そう。大丈夫かな。」と思いながらも相手の方が手助けを必要とせず断られてしまった事があり臆病になっております。(女性60代、中央地区4)

【ボランティア活動に関すること】

私は子育てをしている母親達が頑張っている姿を、身近に住んでいる娘たちの生活から見る事ができます。2人も娘がいると孫のことで手伝うことが多いです。色々なかたちで子育て中のママの手助けをしたいです。(女性60代、中央地区2)
日本語ボランティアを充実してください。(男性40代、中央地区1)
高齢者の方が多いマンションなので、買い物などのお手伝いをしたいが、相手の方が手助けを必要とされているかがわからない。声をどうおかけしたら良いのか考えていると時間ばかりが経ってしまう。マンション内にニーズを示すボードのようなものがあると良いと思う。(女性50代、中央地区4)

【認知症に関すること】

独居の母の認知症が確実になった時に、どう物忘れ外来へ連れていくかということ。早期治療のために受診、検査のきっかけがほしい。「認知症定期検診」を作ってほしい。(女性20代、中央地区3)
数年前まで非常に困っていたのが認知症の父の介護です。同居していたのですが、私も子供たちも特に精神的に負担が大きく、参りました。これから益々高齢化が進む中、介護する人をサポートする体制をしっかり作って欲しいです。(女性40代、中央地区4)
自分が認知症ではないかと心配になった時、まず自分一人で相談・検査を予約なしでもらえる病院や相談所があると良い。かかりつけ医は家族全員がかかっているので相談しにくい。(女性60代、西部地区1)

